

環境影響評価方法書

-(仮)広域連系北幹線新設事業-

平成31年4月

東北電力株式会社

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院の数値地図 200000(地図画像)を複製したものです。

(承認番号 平 30 情復、第 1412 号)

本書に掲載した地図を複製する場合には、国土地理院長の承認を得る必要があります。

目次

第1章 対象事業の概要.....	1	-	1
1.1 事業者の氏名及び住所.....	1	-	1
1.2 対象事業の名称、種類及び目的.....	1	-	1
1.2.1 事業の名称.....	1	-	1
1.2.2 事業の種類.....	1	-	1
1.2.3 事業の目的.....	1	-	1
1.3 対象事業の位置.....	1	-	3
1.4 対象事業の内容.....	1	-	7
1.4.1 対象事業の内容.....	1	-	7
1.4.2 送電線路の維持管理内容.....	1	-	9
1.5 環境保全及び創造に係る方針.....	1	-	10
1.5.1 自然環境の保全.....	1	-	10
1.5.2 生活環境の保全.....	1	-	11
1.6 防災に関する事項.....	1	-	11
1.7 工事計画の概要.....	1	-	12
1.7.1 工事概要.....	1	-	12
1.7.2 工事工程.....	1	-	12
1.7.3 事業用地及び工事用地.....	1	-	13
1.7.4 工事内容.....	1	-	14
第2章 関係地域の範囲.....	2	-	1
2.1 関係地域の範囲.....	2	-	1
2.2 選定項目ごとの調査地域.....	2	-	3
第3章 地域の概況.....	3	-	1
3.1 自然的状況.....	3.1-		1
3.1.1 大気環境.....	3.1-		1
3.1.2 水環境.....	3.1-		19
3.1.3 土壌環境.....	3.1-		47
3.1.4 生物環境.....	3.1-		74
3.1.5 景観等.....	3.1-		109
3.2 社会的状況.....	3.2-		1
3.2.1 人口及び産業.....	3.2-		1
3.2.2 土地利用.....	3.2-		7
3.2.3 水利用.....	3.2-		14
3.2.4 社会資本整備等.....	3.2-		21
3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等.....	3.2-		31
3.2.6 温室効果ガス.....	3.2-		36

3.2.7	環境の保全等を目的とする法令等.....	3.2-	37
第4章	環境影響評価項目、調査・予測及び評価の手法.....	4	- 1
4.1	環境影響評価項目の選定.....	4	- 1
4.1.1	環境影響要因の抽出.....	4	- 1
4.1.2	環境影響要素の抽出及び環境影響評価項目の選定.....	4	- 2
4.2	調査、予測及び評価の手法.....	4	- 11
4.2.1	大気質.....	4	- 11
4.2.2	騒音（ヘリコプター飛行による騒音及び低周波音を含む）.....	4	- 15
4.2.3	振動.....	4	- 18
4.2.4	水質.....	4	- 21
4.2.5	地形及び地質.....	4	- 24
4.2.6	電波障害.....	4	- 27
4.2.7	植物.....	4	- 29
4.2.8	動物.....	4	- 32
4.2.9	生態系.....	4	- 36
4.2.10	景観.....	4	- 38
4.2.11	自然との触れ合いの場.....	4	- 44
4.2.12	廃棄物.....	4	- 46
4.2.13	温室効果ガス等.....	4	- 47
第5章	環境影響評価の委託を受けた者の名称、代表者の氏名及び事業所の所在地.....	5	- 1
5.1	環境影響評価の委託を受けた者の名称、代表者の氏名及び事業所の所在地.....	5	- 1

第1章 対象事業の概要

第1章 対象事業の概要

1.1 事業者の氏名及び住所

事業者：東北電力株式会社

代表者：取締役社長 原田 宏哉

所在地：宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号

1.2 対象事業の名称、種類及び目的

1.2.1 事業の名称

(仮) 広域連系北幹線新設事業

1.2.2 事業の種類

電気工作物の設置の事業（送電線路の設置）

1.2.3 事業の目的

東日本大震災後の平成25年4月2日に閣議決定された「電力システムに関する改革方針」では、電力システム改革の目的を「安定供給の確保」、「電気料金の最大限の抑制」、「需要家の選択枝や事業者の事業機会」として掲げ、この目的を達成すべく「①広域系統運用の拡大」、「②小売及び発電の全面自由化」、「③法的分離の方式による送配電部門の中立性の一層の確保」の3段階からなる改革の全体像が提示された。

このうち、①に関して、電力システム改革専門委員会報告書では「東日本大震災後の需給ひっ迫時において、供給予備力の地域的偏在や、周波数変換設備、地域間連系線などの送電制約により、需給がひっ迫した緊急時のバックアップ体制が不十分」であったとされ、これら課題を解決するため、電源の広域的な活用に必要な送電網の整備を進めるとともに、全国大で平常時・緊急時の需給調整機能を強化することを目的として平成27年4月1日に「電力広域的運営推進機関」（以下、「広域機関」という。）が設立された。

広域機関は、弊社管内と東京電力管内を結ぶ送電線1ルートについて、送電容量が限界に達している状況にある中、電気供給事業者から東京電力管内向けの新たな送電の希望があったことを受け、「広域的取引拡大を希望する事業者の電力取引拡大」、「複数ルート化することによる信頼度の向上」、「将来の電力取引活性化及び再生可能エネルギー電源の導入拡大への寄与」の3つの目的のもと、平成29年2月、「東北東京間連系線に係る広域系統整備計画」（以下、「本整備計画」という。）を策定した（概要は図1.2-1のとおり）。

なお、広域機関は本整備計画の策定に先立ち、設備の建設、維持及び運用を担う事業実施主体の募集を行い、応募した弊社を事業実施主体として決定したものである。

本整備計画の実施により、弊社管内と東京電力管内の電気の融通量が拡大するとともに、弊社管内と東京電力管内を結ぶ送電線が2ルート化することにより、電力安定供給及び供給

信頼度向上にも大きく寄与するものである。また、将来は、電力取引活性化及び再生可能エネルギー電源の導入拡大にも寄与することが期待される。

対象事業の（仮）広域連系北幹線新設事業は、本整備計画の一部を構成する事業であり、宮城中央変電所から新設される（仮）広域連系開閉所を結ぶ50万V送電線である。

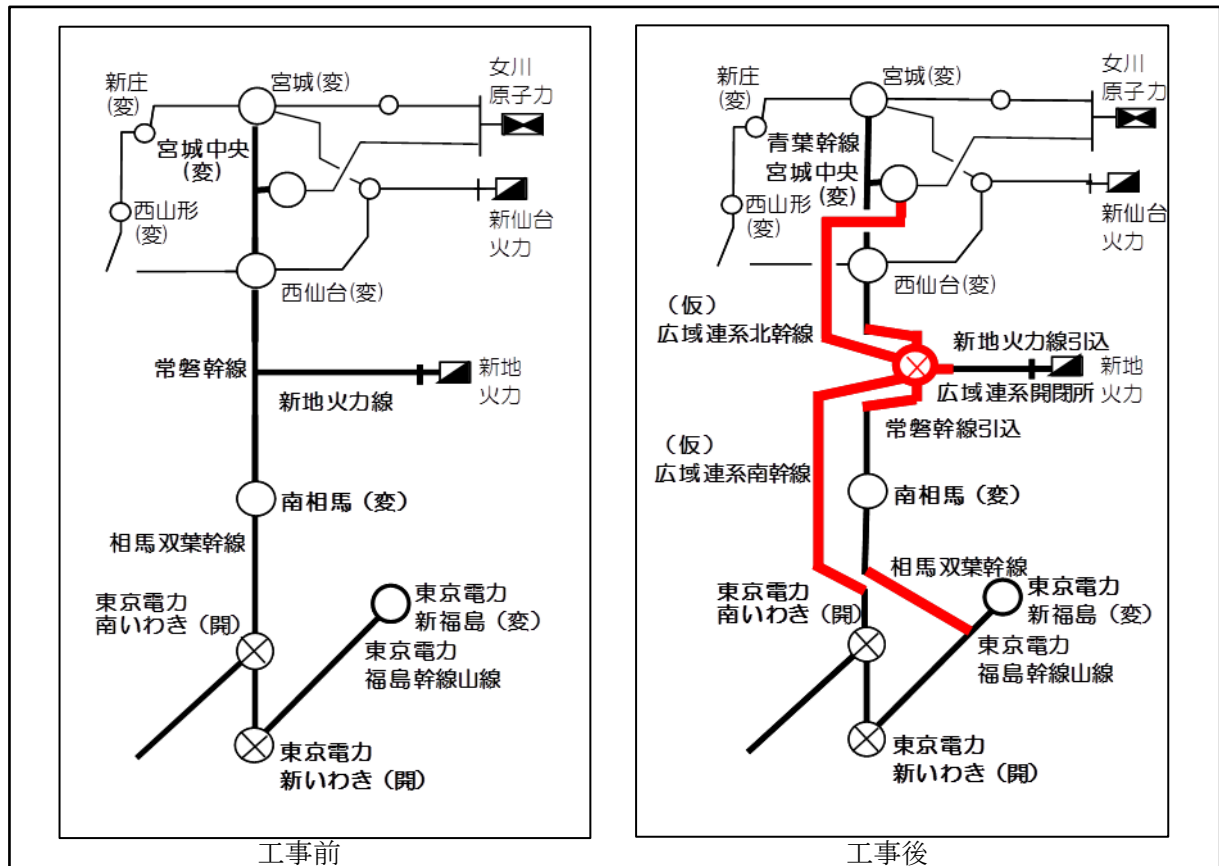


図 1.2-1 広域系統整備計画

1.3 対象事業の位置

(仮) 広域連系北幹線新設事業ルートのうち、仙台市における事業計画位置は、図 1.3-1～3 に示すとおりであり、泉区の宮城中央変電所から青葉区及び太白区の表 1.3-2 に示す地域を経由し川崎町に至る架線区間である。

ルート選定にあたっては、表 1.3-1 に示す考え方にに基づき、可能な限り自然環境や社会環境等に配慮して 300mゾーンまで絞り込みを行った。

なお、鉄塔はルート上に約 38 基設置する計画であるが、具体的位置については、土地所有者等に了解を得た上で、現地調査の結果を踏まえて決定する。

表 1.3-1 基本ルートの選定の考え方

項目	基本的な考え方	具体的配慮事項
自然環境との調和	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園、名勝地などの自然景観を損なわない。 貴重な動植物の生息地を避ける。 自然林、植林地帯などの伐採が少ない。 各種規制と整合する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020 (改定版)」(平成 28 年、仙台市)に掲げる環境配慮の指針に基づき「山地地域」については、可能な限り回避する。 希少な動植物が多数生息し、優れた自然景観資源でもある県立自然公園や県自然環境保全地域など指定地域については、可能な限り回避する。 学術上価値の高い天然記念物を回避する。
社会環境との調和	<ul style="list-style-type: none"> 居住地及び公共施設などを避ける。 文化財、史跡などを避ける。 生産性の高い土地を避ける。 各種規制と整合する。 	<ul style="list-style-type: none"> 居住地を回避するとともに、可能な限り居住地及び学校等の公共施設から隔離を図る。 史跡、建造物等の文化財及び埋蔵文化財包蔵地を回避する。 可能な限り農地を回避する。
地域との調和	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の理解や土地利用計画と整合する。 設備用地、工事用地が確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ルート上に開発計画がないことを確認する。 基本ルートをもとに地域、行政、地権者の理解を得ながら決定する。
技術的事項	<ul style="list-style-type: none"> 施工が容易で、工期に完成できる。 設備の安全性が高い。 保守が容易である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境、社会環境に配慮しつつ、技術的な検討を踏まえて決定する。

表 1.3-2 事業計画地の範囲

番号	地域名
1	泉区福岡の一部
2	泉区西田中の一部
3	青葉区芋沢の一部
4	青葉区大倉の一部
5	青葉区熊ヶ根の一部
6	青葉区上愛子の一部
7	太白区秋保町長袋の一部
8	太白区秋保町馬場の一部



図 1.3-1 事業計画地の位置 (全体)

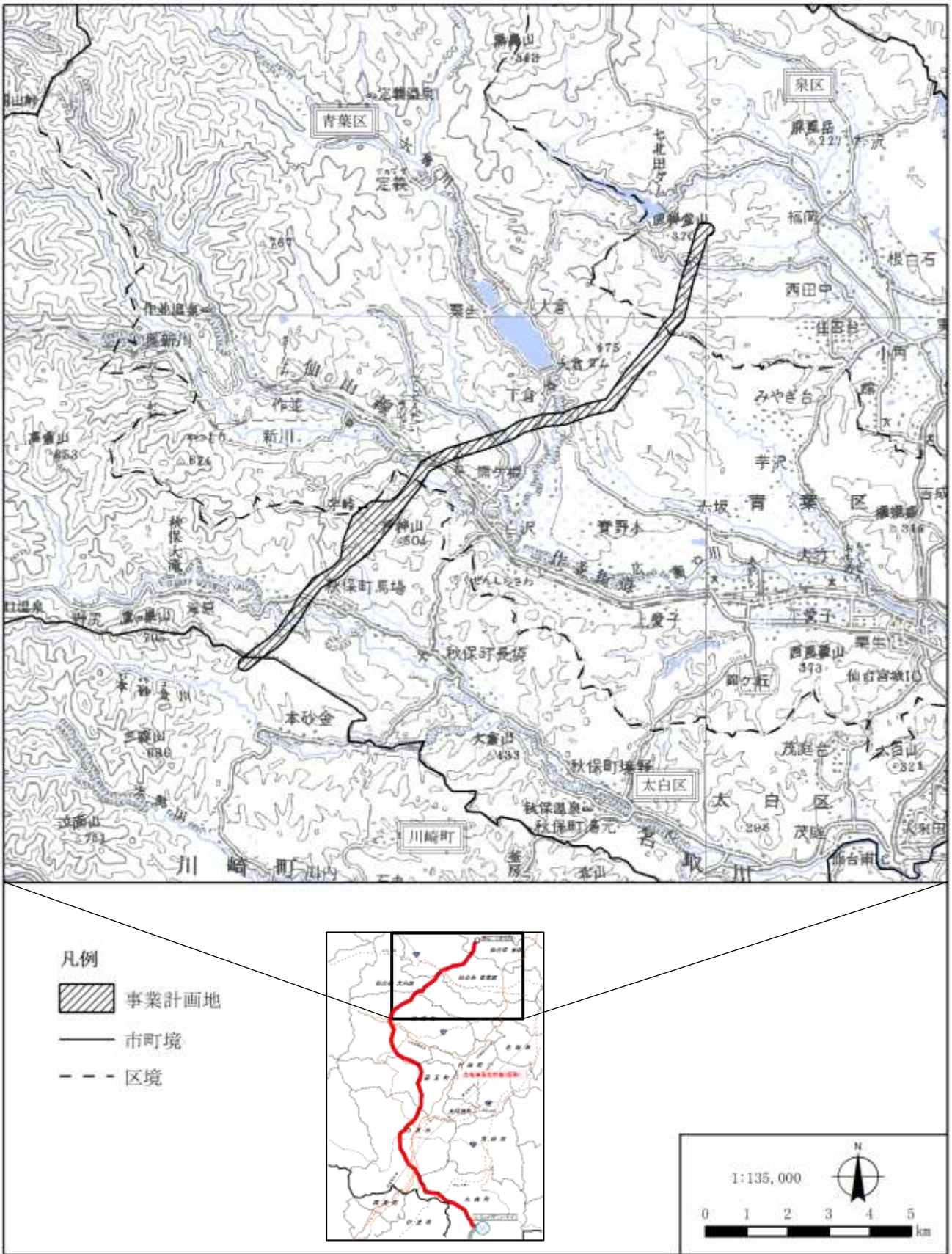


図 1.3-2 事業計画地の位置 (仙台市内)

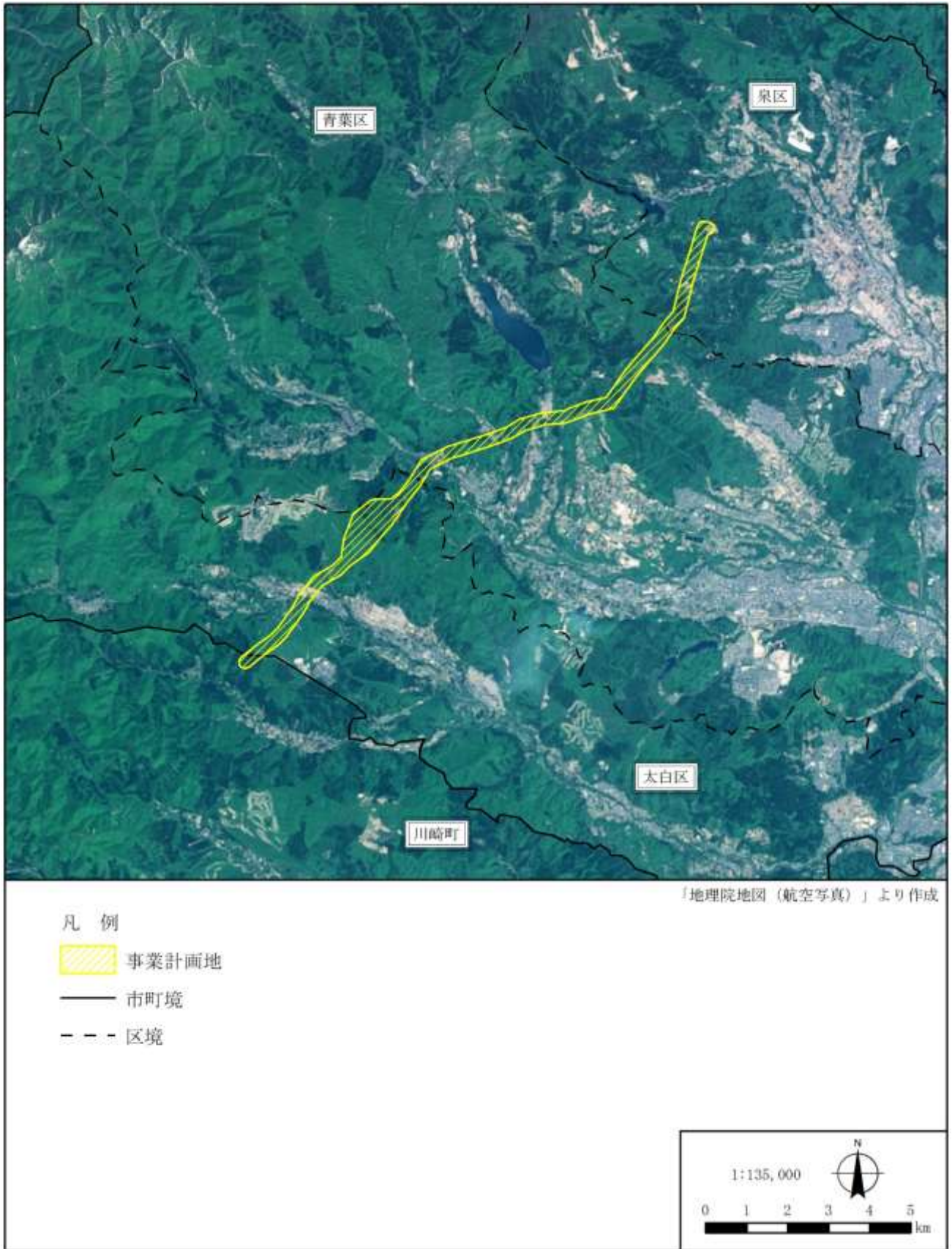


図 1.3-3 事業計画地の位置（空中写真）

1.4 対象事業の内容

1.4.1 対象事業の内容

仙台市環境影響評価条例に係る本事業の内容は表1.4-1、主な工作物である鉄塔の標準的な形状は図1.4-1に示すとおりである。また、鉄塔間の標準的な間隔は約400～450mである。

表 1.4-1 事業内容

項目	内容
事業の名称	(仮) 広域連系北幹線新設事業
事業の種類	電気工作物の設置の事業 (送電線路の設置)
架空地中別	架空
電 圧	50万V
こう長	約17km
支持物	鉄塔
鉄塔基数	約38基
回線数	2回線
がいし	懸垂がいし
電力線	亜鉛めっき鋼心アルミ合金より線 (超強力・耐熱) 530mm ² 4導体
架空地線	アルミ覆鋼より線 260mm ² 1条
	難着雪型光ファイバ複合架空地線 270mm ² 1条
工事工期	準備工事着工時期： 2022年 4月 (予定)
	鉄塔工事着工時期： 2022年 9月 (予定)
	架線工事着工時期： 2024年 4月 (予定)
	運用開始 : 2027年11月 (予定)
環境影響評価を実施することになった要件	「仙台市環境影響評価条例」(平成10年仙台市条例第44号)第2条第3項第6号 電気工作物の設置又は変更の事業

注)1. 「こう長」は、架空送電線路の長さ。

2. 「鉄塔」は、電線を支えるためのもので、鋼材や鋼管を組立てたものである。

3. 「がいし」は、電気が電線から鉄塔を伝わって流れていくのを防ぐためのもので、絶縁体でできている。

4. 「2回線」は、電圧の高い電気を送る場合一般的に3本(組)の電力線を1回線として送電する。

5. 「電力線」は、電気を流すためのもので、4本(導体)を1組にし、鉄塔の左右に3組ずつ、合わせて6組(電力線24本)施設する。

6. 「架空地線」は、雷が発生した時、周囲と設備を守るためのもので、鉄塔の頂部に左右1本(条)ずつ施設する。

耐張型鉄塔(一例)

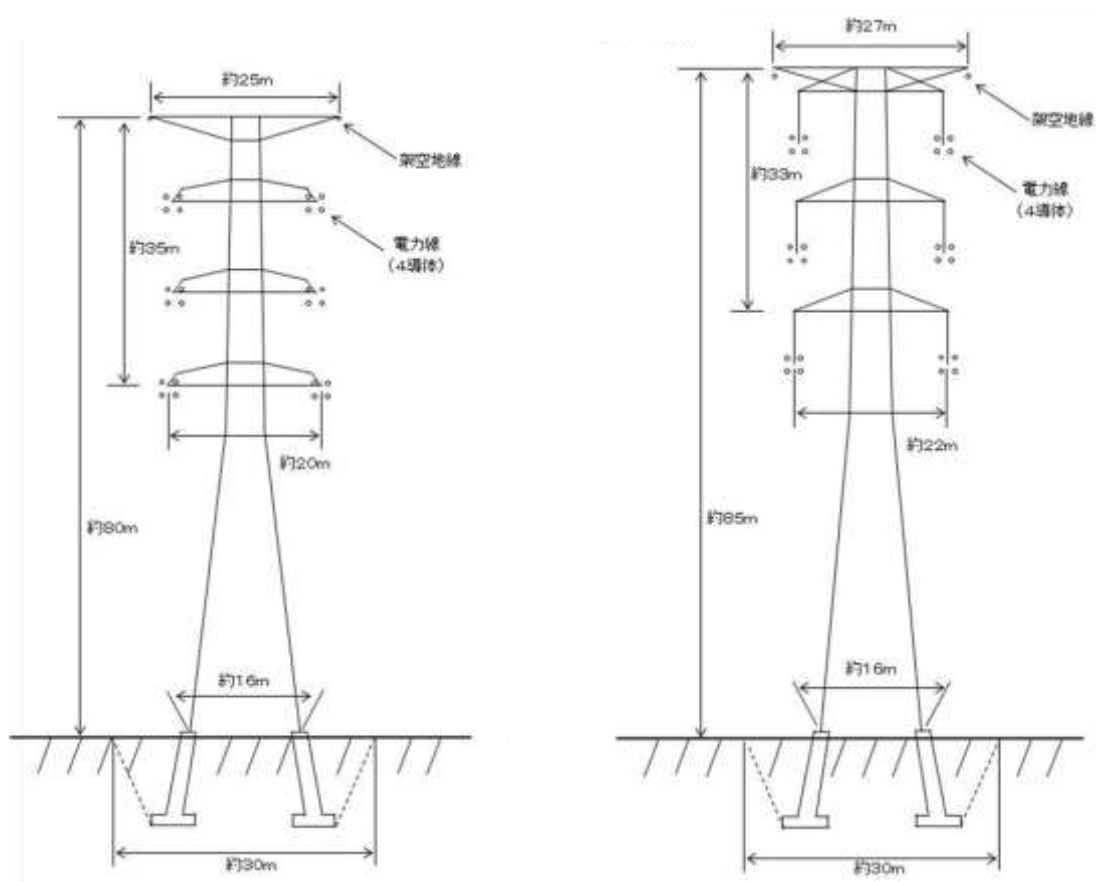


送電線を引張っている鉄塔

懸垂型鉄塔(一例)



送電線を吊り下げている鉄塔



- 注) 1. 「電力線」は、電気を流すためのもので、4本を1組にし、鉄塔の左右に3組ずつ、合わせて6組(電力線24本)施設する。
 2. 「鉄塔」は、電線を支えるためのもので、鋼材や鋼管を組立てたものである。
 3. 「架空地線」は、雷が発生した時、周囲と設備を守るためのもので、鉄塔の頂部に左右1本ずつ施設する。
 4. 各部の寸法は、地形等の条件により増減する。

図 1.4-1 鉄塔形状(例)

1.4.2 送電線路の維持管理内容

送電線路供用後は、維持管理のための設備は設けず、巡視点検のために通行するのみであり、地形の改変等は行わない。

巡視には、普通巡視・予防巡視・事故巡視があり、点検には、初期点検、定期点検、臨時点検があり、概要は表 1.4-2 のとおりである。

表 1.4-2 巡視点検の概要

項目	内容	頻度	備考
巡視	普通	2回/年程度	1回は2～4人で徒歩により4時間程度で実施する。また、1回は1～2人でヘリコプターにより約15分程度で実施する。
	予防	必要の都度	2～4人で徒歩により4時間程度で4日間程度実施する場合と、1～2人でヘリコプターにより約15分程度で実施する場合がある。
	事故	必要の都度	徒歩、又はヘリコプターにより実施するが、事故の状況、天候等により実施人数、実施時間は異なる。
点検	初期	供用開始時より2年目	昇塔による目視、または工具等により、10～15人が20日程度で実施する。
	定期	1回/10年程度	地上、昇塔による目視、または工具等により、10～15人が20日程度で実施する。
	臨時	必要の都度	地上、昇塔による目視、または工具等により実施するが、異常の状況、天候等により実施人数、実施時間は異なる。

注)1. 上記の他、経年変化による部品の交換、設備事故で被害を受けた場合の復旧があり得る。

2. 巡視時におけるヘリコプター使用時の飛行高度は約100mで、飛行速度は約80km/hである。

1.5 環境の保全及び創造に係る方針

事業計画地は「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画2011-2020（改定版）」（平成28年、仙台市）に示される山地地域及び西部丘陵地・田園地域に位置していることから、土地改変面積を最小化する等同プランに掲げる土地利用における環境配慮の指針を考慮しつつ、次のとおり計画段階において可能な限り環境負荷の低減に努める。

1.5.1 自然環境の保全

鉄塔位置の選定にあたっては、山地地域や希少な生物の生息・生育地の土地改変を可能な限り回避するとともに、植生自然度の高い地域については、土地改変や樹木の伐採を最小限にとどめるよう計画する。

工事中においては、動物の繁殖期を考慮した工事工程の検討や、低騒音型建設機械を用いる等騒音の低減、JR 仙山線付近の夜間工事で照明を設置する場合の動物への配慮に努めるとともに、周辺の植物や水生生物への配慮として土砂流出防止対策の徹底を図る。

また、工事用運搬道路は極力既設道路を活用するとともに、ロードキル防止の観点から、工事用運搬車両の走行速度や走行時間に配慮する。土地改変が伴う工事用地については、土地改変面積を必要最小限に留めるほか、工事終了後は原則として原形復旧する。工事用地を含め原形復旧や敷地の緑化に際しては、郷土種を採用するなど元の環境と同等の水準が確保されるよう努める。

(1) 植物、動物、生態系

- ・山地地域や希少な生物の生息・生育地等は可能な限り回避する。
- ・鉄塔敷地や工事用地等の土地改変面積は必要最小限に留める。
- ・工事用運搬道路は極力既設道路を活用することとし、地域事情により道路の拡幅や新設が必要な場合は仮設とする。
- ・工事用地については、原則として原形復旧し、復旧や敷地の緑化に際しては、郷土種を採用する。
- ・大径木の存在が確認された場合は、保全を図るよう検討する。
- ・希少猛禽類の営巣が確認された場合は、確認種の繁殖期を考慮した工事工程を検討する。
- ・可能な限り低騒音型建設機械を使用する。
- ・架線工事及び供用後の巡視点検に伴うヘリコプターの飛行にあたっては、飛行時間を最小限となるよう工程調整を行うとともに、周辺環境に配慮した飛行経路を選定する等騒音の影響を極力低減する。
- ・作業員や建設機械が工事範囲以外には立ち入らないよう周知徹底する。
- ・降雨時の濁水は、工事範囲の外周に設置する側溝により集水し、必要に応じて仮設沈澱槽等により適切に処理した後、雨水排水路に排水する。

(2) 景観

- ・鉄塔には環境融和塗色（反射しにくい、グレーを基調とした色彩）の採用により周辺景観との調和に努める。

1.5.2 生活環境の保全

鉄塔位置の選定にあたっては、鉄塔による圧迫感等を低減するため、可能な限り居住地や学校等の公共施設からの隔離を図るよう計画する。また、景観資源の土地改変は可能な限り回避するとともに、鉄塔には環境融和塗色の採用を検討する等周辺景観との調和を図る。

工事中においては、工事用運搬車両・建設機械は排出ガス対策型及び低騒音型の採用、アイドリングストップや点検整備により騒音の発生防止に努めるとともに、工事工程調整により工事用運搬車両の集中軽減を図る等自然との触れ合いの場の利用への影響低減に留意する。また、工事用地等の土地改変箇所は、土砂流出防止や濁水防止対策を検討し、極力周辺への影響の低減に留意する。

(1) 大気環境

- ・可能な限り排出ガス対策型及び低騒音型・低振動型建設機械を採用する。
- ・工事工程の調整により、建設機械の稼働台数及び工事用運搬車両台数を平準化することによってピークの稼働台数を削減する。
- ・建設機械の稼働停止時のアイドリングストップの徹底を図る。
- ・一般車両が集中する通勤時間帯は、可能な限り工事用資材等の搬入出は行わない。
- ・架線工事及び供用後の巡視点検に伴うヘリコプターの飛行にあたっては、飛行時間を最小限となるよう工程調整を行うとともに、周辺環境に配慮した飛行経路を選定する等騒音の影響を極力低減する。

(2) 水環境及び土壌環境

- ・土地改変箇所は、土留柵等の土砂流出対策を行い、濁水が河川に流入するのを防止する。
- ・鉄塔周辺工事用地等は、降雨時には露出した地面をシートで覆う等、濁水の発生を防止する。
- ・降雨時の濁水は、仮設沈澱槽等により適切に処理した後、工事範囲の外周に設置する雨水排水路に排水する。
- ・工事の完了後は、速やかに緑化を行い、濁水の発生を防止する。

(3) 廃棄物

- ・伐採木等は可能な限り造成地の土留材等の建設資材として有効利用する計画である。
- ・掘削残土は極力現地で盛土材等に有効利用するほか、事業計画地で利用できない残土については、事業計画地以外に搬出して有効利用を図る。

1.6 防災に関する事項

鉄塔位置の選定にあたっては、土砂災害の危険性の高い地域の土地改変を回避するよう計画するとともに、必要最小限の土地改変に努め、樹木の伐採に伴う土砂災害防止対策の徹底を図る。また、鉄塔は、電気事業法等の法令に基づき適切に耐震設計を行い、必要に応じて構造物の基礎を杭基礎とする。

1.7 工事計画の概要

1.7.1 工事概要

主要な建設工事としては、準備工事、鉄塔工事及び架線工事がある。工事の手順と内容は、表1.7-1に示すとおりである。

表 1.7-1 工事手順と工事内容

工事手順	工事の内容
(1) 準備工事 ①仮設備工事 ↓ ②資機材の運搬 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採、資機材運搬設備の設置、工事用地の区画等 ・送電線建設工事に使用する資材の運搬（産業廃棄物、残土処理含む。）
(2) 鉄塔工事 ①基礎工事 ↓ ②組立工事 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・杭打ち（杭型式の基礎）、掘削、残土処理、配筋、型枠、コンクリート打設、埋め戻し等 ・重機（クレーン等）による鉄塔の組立等
(3) 架線工事 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘリコプター等によるロープ延線、電線・地線延線、がいし取付等
(4) 緑化工事	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用地の植生、植樹等

注) ヘリコプターは送電線敷設の初期に誘引ロープの延線に使用するものであり、使用期間は限定される。

1.7.2 工事工程

工事工程は、表1.7-2に示すとおりである。

準備工事は2022年4月に着工し、送電線の運用開始は2027年11月を予定している。

表 1.7-2 工事工程

項目	年度									
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
準備工事				▶						
鉄塔工事				▶						
架線工事						▶				
緑化工事							▶			
運用開始										▽

1.7.3 事業用地及び工事用地

送電線路の建設工事で使用する土地としては、事業用地として鉄塔用地及び送電線線下用地の他、工事用地として一時的に使用する鉄塔周辺工事用地、資材等の運搬のための工事用運搬道路・索道等があげられる。その概要は図1.7-1に示すとおりである。

それぞれの使用面積は地形によって異なるが、標準的な使用面積及び計画数量は、表1.7-3に示すとおりである。

【概略図】

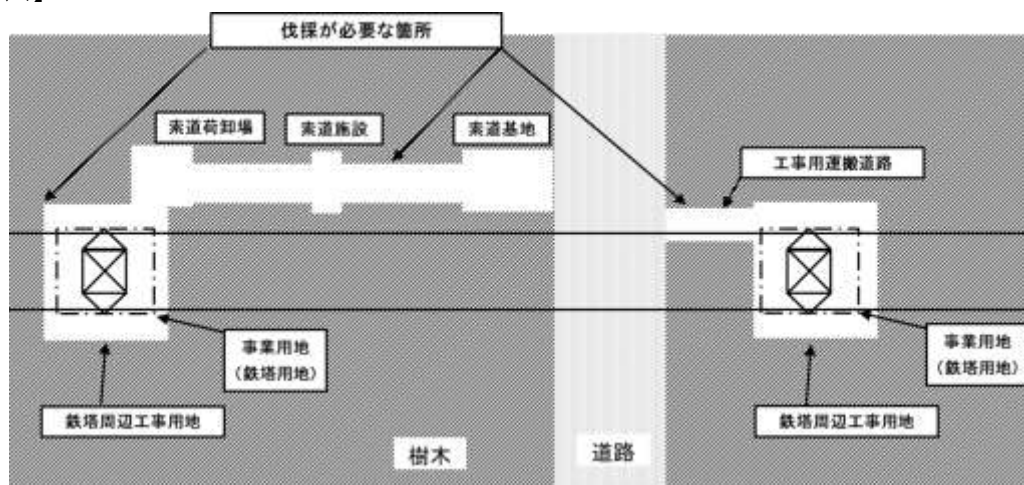


図1.7-1 事業用地及び工事用地の概念図

表 1.7-3 事業用地及び工事用地の標準的な使用面積及び計画数量

使用用途		標準面積	計画数量
事業用地	鉄塔用地	約 900m ² /基	約 38 基
	送電線線下用地	幅約 28m×こう長	約 17 km
	巡視路	幅約 2m×延長	調査中
工事用地	鉄塔周辺工事用地	約 1,600m ² /基	約 38 基
	索道基地	約 1,200m ² /箇所	調査中
	索道	幅約 5m×延長	調査中
	工事用運搬道路	有効幅員約 3m×延長	調査中
	資材置き場	約 4,000m ² /箇所	調査中
	エンジン場	約 750m ² /箇所	調査中
	ドラム場	約 2,000m ² /箇所	調査中
臨時ヘリポート	約 1,000m ² /箇所	調査中	

注)1. 「送電線線下用地」では、原則として土地の改変は行わないが、架線工事の際に樹木が支障となる場合には伐採を行う。

2. 工事用地については、原則として原形復旧とし、緑化等を行う。ただし、工事用運搬道路については関係個所と協議し、復旧方法を決定する。

3. 「エンジン場」とは、電線を引くための場、「ドラム場」とは、電線を繰り出すための場をいう。

1.7.4 工事内容

工事の実施にあたっては、環境への負荷を可能な限り回避・低減し、環境保全面及び景観保全面について適正な配慮を行うこととする。

なお、工事用地については、原則として原形復旧とし、緑化等を行う。ただし、工事用運搬道路については関係個所と協議し、復旧方法を決定する。

(1) 準備工事

準備工事は、鉄塔建設予定地点に、資材や建設機械の運搬をするための工事用運搬道路、索道基地の土地造成を行う。

① 工事用運搬道路

既設の林道等の補修、拡幅及び新たに工事用運搬道路の新設を行う。

拡幅及び新設は、ブルドーザー等により、切土・盛土を行い、幅員 3m程度の砂利敷道路を設置する。

計画数量及び標準的な規模、主な使用機械及び日数は、表 1.7-4 のとおりである。

工事用運搬道路の設置による環境への影響としては、植物の消失、建設機械の稼動による騒音の発生、土地造成による地形・地質や景観の変化、動物の生息域の分断、一時的な濁水等が考えられるが、必要最小限の土地改変、低騒音型機械の採用、点検整備、低速走行等の徹底により、周辺環境への影響を極力低減するよう計画する。

表 1.7-4 工事概要 [準備工事－工事用運搬道路]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
補修	調査中	既設道路の平坦化（かき起こし、敷きならし）及び砂利敷
拡幅	調査中	既設道路を幅員 3m 程度に拡幅
新設	調査中	新たに幅員 3m 程度の道路を造成

主な使用機械及び日数

(100mあたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
補修	グレーダー	1台	3.7m級	0.1日	
	ダンプ	3台	10t	-----	
拡幅	ブルドーザー	1台	15t級	3日	排出ガス対策型
	グレーダー	1台	3.7m級	0.5日	
	バックホウ	1台	0.4m ³ 級	1日	低騒音型・排出ガス対策型
	ダンプ	10台	10t	-----	
新設	ブルドーザー	1台	15t級	6日	排出ガス対策型
	グレーダー	1台	3.7m級	1日	
	バックホウ	1台	0.4m ³ 級	6日	低騒音型・排出ガス対策型
	ダンプ	20台	10t	-----	



工事用運搬道路

② 索道基地

索道（工事中運搬道路の設置に適さない山間部などで採用する方法で、ワイヤーケーブルに搬器を取付けて資材を運搬するもの。）で運搬する資材や建設機械を積降しする基地を、バックホウ等により設置する。

計画数量及び標準的な規模、主な使用機械及び日数は、表 1.7-5 のとおりである。

索道基地の設置による環境への影響としては、植物の消失、建設機械の稼働による騒音の発生、土地造成による地形・地質や景観の変化、動物の生息域の分断等が考えられるが、必要最小限の土地改変、低騒音型機械の採用、点検整備、低速走行等の徹底により、周辺環境への影響を極力低減するよう計画する。

表 1.7-5 工事概要 [準備工事－索道基地]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
基地	調査中	面積 約 1,200m ² /箇所
施設	調査中	2t 級 機材(ワイヤー・架台・鉄柱等) 約 50t

主な使用機械及び日数

(基地 1 箇所あたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
基地造成	バックホウ	1 台	0.4m ³ 級	10 日	低騒音型・排出ガス対策型
施設設置	バックホウ	1 台	0.1m ³ 級	3 日	低騒音型・排出ガス対策型
	原動機	1 台	エンジン式 50PS	100 日 (設置期間)	低騒音型
	索道機材	1 式	2t 級	100 日 (設置期間)	ワイヤー・架台・鉄柱等



索道基地

(2) 鉄塔工事

① 基礎工事

基礎工事は、予め必要な資材や建設機械をトラック（ダンプ、トラック等）、索道（2 t程度）で運搬し、鉄塔の基礎部をバックホウ等により建設する工事であり、掘削、基礎材据付け、配筋、コンクリート打設、埋戻し等を行う。

また、掘削残土は、極力現地で盛土材等に有効利用するほか、事業計画地で利用できない残土については、事業計画地以外に搬出して有効利用を図ることから土捨て場は設置しない。

なお、基礎の種類については、今後現地調査を十分に行い、地形、地盤の状況等を考慮の上、選定することとする。

計画数量及び標準的な規模、主な使用機械及び日数は、表 1.7-6 に示すとおりである。工事による影響が最大となる時期は、コンクリート打設時であり、1 日の最大使用数量は、生コン車 10 台である。なお、コンクリート打設時には資材等の運搬及び他の作業は行わない。

資材等の運搬による環境への影響としては、大型車両の運行に伴う騒音・振動の発生、動物の生息環境の変化等が考えられる。また、基礎工事では、建設機械の運転に伴う騒音・振動の発生、動物の生息環境の変化、掘削による地形の変化や濁水の発生が考えられる。

このため、車両の運行及び索道の運搬等並びに建設機械の使用等に当たっては、低速走行、点検整備、低騒音型機械の採用等の徹底、土砂流出防止対策として土留柵等の設置、濁水防止として降雨時には地面をシートで覆う他、降雨時の濁水は、工事範囲の外周に設置する側溝により集水し、必要に応じて仮設沈澱槽等により適切に処理した後、雨水排水路に排水する。また、工事完了後は速やかに緑化を行うことにより、周辺環境、特に動物への影響を極力低減するよう計画する。

表 1.7-6 工事概要 [鉄塔工事－基礎工事]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
掘削	約 38 基	掘削土 約 500m ³ /基
コンクリート	約 38 基	生コン 約 150m ³ /基

主な使用機械及び日数

(鉄塔 1 基あたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
資材運搬	トラック	10 台	10t	-----	ロングボディー
	ユニック付トラック	1 台	4t	60 日 (設置期間)	
掘削	バックホウ	1 台	0.4m ³ 級	30 日	低騒音型・排出ガス対策型
	ジブクレーン	1 台	36t・m 級	30 日	低騒音型
	発電機	1 台	150kVA	30 日	低騒音型
基礎材据付け	ジブクレーン	1 台	36t・m 級	2 日	低騒音型
	発電機	1 台	150kVA	2 日	低騒音型
配筋	ジブクレーン	1 台	36t・m 級	10 日	低騒音型
	発電機	1 台	150kVA	10 日	低騒音型
コンクリート打設	生コン車	40 台	6m ³	-----	
埋戻し	バックホウ	1 台	0.4m ³ 級	8 日	低騒音型・排出ガス対策型
整地	バックホウ	1 台	0.4m ³ 級	2 日	低騒音型・排出ガス対策型



鉄塔工事－基礎工事

② 組立工事

組立工事は、予め必要な資材や建設機械をトラック、索道で運搬し、鉄塔の組立てを行う工事であり、組立工法は、クライミングクレーン工法により、鉄塔付帯設備等も合せて設置する。組立て前の鉄塔材等を仮置きする資材置き場は、既造成地を予定しており標準的な配置例を図 1.7-2 に示す。

クライミングクレーン工法は、鉄塔中心部に鉄柱を構築し、その頂部に 360° 旋回可能なタワークレーン装置を取付けて鉄塔を組立てる工法で、主に山岳地の鉄塔の組立てに用いる。計画数量及び標準的な規模、主な使用機械及び日数は、表 1.7-7 に示すとおりである。

表 1.7-7 工事概要 [鉄塔工事－組立工事]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
組立	約 38 基	鉄塔材及び付属品 約 100t/基

主な使用機械及び日数

(鉄塔 1 基あたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
資材運搬	トラック	20 台	10t	-----	ロングボディー
	ユニット付トラック	1 台	4t	40 日 (設置期間)	
組立	クライミングクレーン	1 台	36t・m 級	40 日 (設置期間)	電動油圧式またはエンジン式
	発電機	1 台	150kVA	40 日 (設置期間)	低騒音型

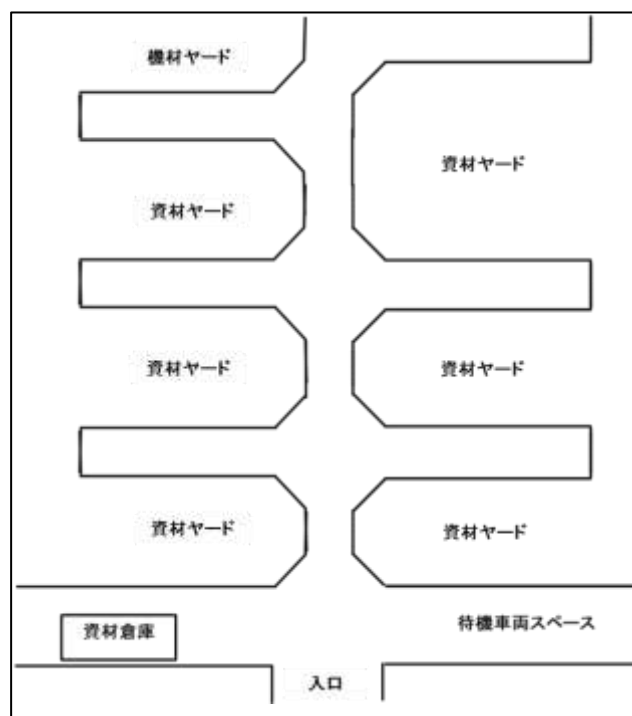


図 1.7-2 資材置き場の配置例



鉄塔工事—組立工事

(3) 架線工事

架線工事は、最初にヘリコプターによりナイロンロープを鉄塔～鉄塔間の一定区間に延線する。片端に電線を引く巻き上げ用エンジンを据付するためのエンジン場（電線牽引場）を、反対側に電線を繰り出すドラムを据付するためのドラム場（電線送り出し場）を設置して、延線を行い延線終了後、電線を留める。

計画数量及び標準的な規模、主な使用機械及び日数、ヘリコプター運航形態は、表 1.7-8～11 に示すとおりである。架線工事による環境への影響としては、ヘリコプター飛行に伴う騒音の発生や動物の生息環境の変化が考えられるが、飛行時間を最小限にするとともに周辺環境に配慮した飛行経路を選定する等により、騒音等の影響を極力低減するよう計画する。

なお、エンジン場、ドラム場及び臨時ヘリポートは、県立自然公園内には設置しない計画を検討する。

表 1.7-8 工事概要 [架線工事－延線]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
延線	電線 約 408km(約 17km×24 本) 地線 約 34km(約 17km×2 本) 懸垂がいし 懸垂型 調査中 耐張型 調査中	懸垂がいし 懸垂型 12 連/基 耐張型 6 連/基

主な使用機械及び日数

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	使用日数	備考
資材運搬	ユニック付トラック	1 台	4t	90 日 (設置期間)	
延線	ヘリコプター	1 機	1.5t 級	12 時間	6 時間程度×2 日

ヘリコプター運航形態

項目	飛行高度 (地上高さ)	飛行速度	備考
移動時	約 600m	約 180 km/h	
作業時 (延線)	約 100m	約 10 km/h	鉄塔高さと同程度

表 1.7-9 工事概要 [架線工事－エンジン場]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
エンジン場	調査中	面積 約 750m ² /箇所

主な使用機械及び日数

(エンジン場 1 箇所あたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
エンジン場造成	バックホウ	1 台	0.4m ³ 級	10 日	低騒音型・排出ガス対策型
施設設置	原動機	2 台	4t 引き	90 日 (設置期間)	低騒音型
	エンジン場機材	1 式	-----	90 日 (設置期間)	ワイヤー・架台等

表 1.7-10 工事概要 [架線工事－ドラム場]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
ドラム場	調査中	面積 約 2,000m ² /箇所

主な使用機械及び日数

(ドラム場 1 箇所あたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
ドラム場造成	バックホウ	1 台	0.4m ³ 級	10 日	低騒音型・排出ガス対策型
施設設置	発電機	2 台	150kVA	90 日 (設置期間)	低騒音型
	ドラム場機材	1 式	-----	90 日 (設置期間)	ワイヤー・架台・延線車等

表 1.7-11 工事概要 [架線工事－臨時ヘリポート]

計画数量及び標準的な規模

項目	計画数量	標準的な規模
臨時ヘリポート	調査中	面積 約 1,000m ² /箇所

主な使用機械及び日数

(臨時ヘリポート場 1 箇所あたり)

工種	主な使用機械	使用数量	規格・仕様	標準使用日数	備考
臨時ヘリポート造成	ユニック付トラック	10 台	4t	-----	
施設設置	鉄板	12 枚	1.5m×3m	90 日 (設置期間)	



エンジン場



ヘリコプターでの延線



ドラム場



架線作業

(4) 緑化工事

鉄塔用地については、工事終了後速やかに周辺の植生を考慮した在来種による種子吹付、工事用地については、工事期間中郷土種を採用した緑化を行い、自然環境の保全に努める。主な使用機械及び日数は、表 1.7-12 に示すとおりである。

また、必要に応じ土留柵等を設け土砂流出防止対策を実施する。

なお、工事用地のうち工事用運搬道路の復旧方法については、関係個所と協議し決定する。

表 1.7-12 工事概要 [緑化工事]

主な使用機械及び日数

工 種	主な使用機械	使 用 数 量	規格・ 仕様	標準使 用日数	備 考
資材運搬	ユニック付 トラック	1 台	4t	7 日	鉄塔 1 基の敷地及び その周辺平均
緑化	種子吹付機	1 台	2.5m ³ 級	7 日	

第2章 関係地域の範囲

第2章 関係地域の範囲

2.1 関係地域の範囲

関係地域は、第4章に示す環境影響評価項目として選定した項目のうち、最も広い範囲に影響が及ぶと想定される景観の調査範囲を参考に、事業計画地から2.5kmの範囲を図2.1-1、関係地域の範囲を表2.1-1に示す。

表 2.1-1 関係地域の範囲

番号	地域名
1	泉区福岡の一部
2	泉区根白石の一部
3	泉区西田中の一部
4	泉区住吉台の一部
5	青葉区芋沢の一部
6	青葉区大倉の一部
7	青葉区熊ヶ根の一部
8	青葉区みやぎ台の一部
9	青葉区赤坂の一部
10	青葉区作並の一部
11	青葉区ニッカ
12	青葉区新川の一部
13	青葉区上愛子の一部
14	太白区秋保町長袋の一部
15	太白区秋保町馬場の一部
16	川崎町大字本砂金、大字川内の一部

※関係地域内（青葉区、泉区）に国有林がある。

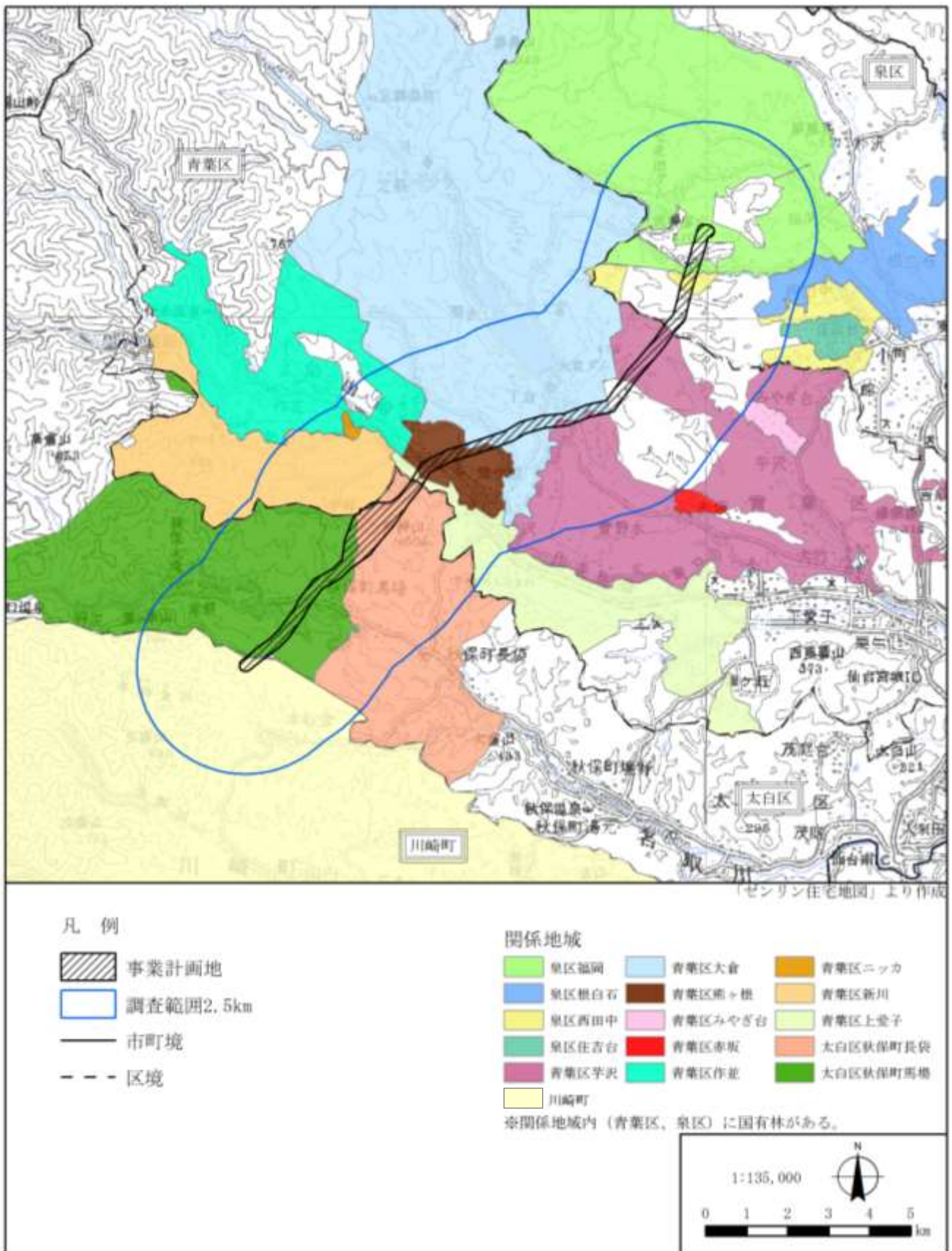


図 2.1-1 調査範囲

2.2 選定項目ごとの調査地域

選定項目ごとの調査地域及びその設定根拠を表 2.2-1 に示す。

選定項目ごとの調査地域については、「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」（平成 31 年、仙台市）を参考に、地域概況（第 3 章）を踏まえて設定した。

表 2.2-1 選定項目ごとの調査地域及びその設定根拠

項目		選定項目ごとの調査地域	調査地域設定の根拠
大気環境	大気質	事業計画地から 200m の範囲及び主要な資材等の工事用運搬道路沿道	地形、道路構造、保全対象の分布等を踏まえて設定した。
	騒音・振動		
水環境	水質	事業計画地及び工事用運搬道路計画地からの雨水排水が河川に流入すると考えられる地点の上流及び流入後十分混合する地点	地形、保全対象の分布等を踏まえて設定した。
土壌環境	地形・地質	事業計画地及び工事用運搬道路計画地から 200m の範囲	地形や地質、保全対象の分布等を踏まえて設定した。
その他の環境	電波障害	事業計画地から 1.0km の範囲	地形、保全対象の分布等を踏まえて設定した。
生物環境	植物	事業計画地及び工事用運搬道路計画地から 200m の範囲	土地造成位置及び地形や種群の生態的特性を踏まえて設定した。猛禽類が確認された場合は、「猛禽類保護の進め方」（環境省）を参考に範囲を拡大して設定する。
	動物		
	生態系		
景観等	景観	景観資源のうち建造物等は事業計画地から 1.0km、その他は 2.5km の範囲	景観対象の構造物の特性及び地形、保全対象等の分布位置を踏まえて設定した。
自然との触れ合いの場	自然との触れ合いの場	主要な資材等の工事用運搬道路沿道	保全対象の分布及びアクセスルートを踏まえて設定した。

第3章 地域の概況

第3章 地域の概況

方法書における地域概況の調査対象範囲（以下「調査範囲」という。）は、「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」（平成31年、仙台市）に示されている調査範囲を踏まえ、図3-1に示すとおり、事業計画地から半径5kmの範囲とした。



図 3-1 地域概況の調査範囲

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境

(1) 気象

事業計画地最寄りの気象観測所としては、図3.1.1-1に示すとおり、事業計画地の西約3kmに位置する新川地域気象観測所がある。

新川地域気象観測所の平年値の気象概況は表 3.1.1-1、平成29年の気象概況は表3.1.1-2に示すとおりである。

1) 気温の状況

新川地域気象観測所における気温は、平年値が年間平均で10.0℃、日最高は8月で26.9℃、日最低は1月で-4.9℃となっている。

平成29年の年平均気温は、10.1℃であり、日最高は7月で27.8℃、日最低は1月で-4.3℃となっている。

2) 降水量

新川地域気象観測所における降水量の平年値は、年間で1,531.1mmであり、月最多は8月の222.8mmとなっている。

平成29年の年間降水量は1,814.5mmであり、月最多は8月の346.5mmとなっている。

3) 風向・風速の状況

新川地域気象観測所における風速の平年値は、年間平均で1.7m/sであり、風向は、5～9月が東、10～4月は西が卓越し、年間では西が卓越している。

平成29年の平均風速は1.9m/sであり、最多風向は西となっている。



図 3.1.1-1 新川地域気象観測所の位置

表 3.1.1-1 新川地域気象観測所の気象状況（平年値）

項目		月												年間
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
気温	平均	-1.0	-0.7	2.2	8.1	13.2	17.0	20.6	22.1	18.1	12.1	6.3	1.8	10.0
	日最高	2.6	3.2	6.9	14.0	19.0	21.8	24.9	26.9	22.9	17.5	11.7	6.0	14.8
	日最低	-4.9	-4.8	-2.4	2.1	7.4	12.6	16.9	18.2	13.9	7.0	1.3	-2.2	5.5
降水量 (mm)		68.1	61.4	84.1	104.9	114.6	150.3	212.4	222.8	208.4	129.8	93.7	82.0	1,531.1
平均風速 (m/s)		2.2	2.2	2.3	2.2	1.8	1.4	1.2	1.2	1.1	1.3	1.6	2.0	1.7
最多風向		西	西	西	西	東	東	東	東	東	西	西	西	西
日照時間 (時間)		87.2	102.3	135.6	171.1	170.3	124.5	105.4	115.2	98.7	121.1	106.3	85.6	1,424.1
降雪の深さ合計 (cm)		131	117	50	3	0	0	0	0	0	0	5	66	375
最深積雪 (cm)		27	28	29	20	2	0	0	0	0	0	3	19	34

注) 統計期間は昭和 56 年～平成 22 年の 30 年間である。ただし、日照時間は昭和 61 年～平成 22 年の 25 年間、降雪の深さ合計及び最深積雪は昭和 59 年～平成 22 年の 27 年間である。

「過去の気象データ検索」(気象庁 HP) より作成

表 3.1.1-2 新川地域気象観測所の気象状況（平成 29 年）

項目		月												年間
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
気温	平均	-0.5	0.0	2.2	8.6	14.9	16.5	22.9	20.9	17.5	12.2	5.2	0.4	10.1
	日最高	2.7	3.8	6.5	14.8	20.8	21.6	27.8	24.2	23.2	16.6	11.3	4.4	14.8
	日最低	-4.3	-3.5	-1.8	2.2	8.7	11.3	18.7	18.1	12.0	8.2	0.1	-3.2	5.5
降水量 (mm)		108.5	85.0	8.2	115.5	162.0	81.5	207.0	346.5	225.0	308.5	41.5	51.5	1,814.5
平均風速 (m/s)		2.4]	3.0)	2.1)	2.5	1.8	1.9	1.2	1.1	1.6	1.3	1.7	2.4)	1.9]
最多風向		西	西	西	西	西	西	西	西南西	西	西	西	西	西
日照時間 (時間)		98.1	102.9	140.4	182.5	193.5	139.3	151.1	42.7	161.9	84.4	121.9	77.5	1,496.2
降雪の深さ合計 (cm)		148)	117	10	0	0	0	0	0	0	0	0	40)	305
最深積雪 (cm)		45)	33	5	0	0	0	0	0	0	0	0	21]	45

注) 観測期間は平成 29 年 1 月～12 月の 1 年間である。

※値欄の記号の説明 (気象庁 HP より)

-) : 統計を行う対象資料が許容範囲で欠けていますが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値 (資料が欠けていない) と同等に扱います (準正常値)。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なりますが、全体数の 80% を基準とします。
-] : 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けています (資料不足値)。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いませんが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上 (以下) であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があります。

「過去の気象データ検索」(気象庁 HP) より作成

(2) 大気質

1) 大気汚染の状況

大気汚染常時監視測定局の位置は図3.1.1-2、各測定局の測定項目は表3.1.1-3に示すとおりである。

調査範囲における大気汚染常時監視測定局としては、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）の秋総局が設置されているが、測定項目が微小粒子状物質のみであることから、調査範囲から最も近い一般局の広瀬局及び宮総局も調査対象とした。

表 3.1.1-3 調査範囲における大気汚染常時監視測定局の測定項目

No.	観測局種別	測定局	設置主体	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	一酸化炭素	微小粒子状物質	非メタン炭化水素	有害大気汚染物質
1	一般環境大気測定局	広瀬	仙台市	—	○	○	○	—	—	—	—
2		宮総	仙台市	—	—	—	—	—	○	—	—
3		秋総	仙台市	—	—	—	—	—	○	—	—

注) 1. No. は図3.1.1-2の図中番号に対応する。

2. 「—」は測定していないことを示す。

3. 広瀬局の旧名称は宮城局（平成26年7月14日 名称変更）

4. 微小粒子状物質の測定は、広瀬局は平成28年10月で終了、宮総局と秋総局は平成28年11月1日から開始。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成



図 3. 1. 1-2 大気汚染常時監視測定局の位置

ア. 二酸化窒素 (NO₂)

平成29年度の二酸化窒素の測定結果は表 3.1.1-4 に、平成25～29年度における年平均値及び日平均値の年間98%値の経年変化は表 3.1.1-5、図 3.1.1-3 に示すとおりである。

平成29年度における日平均値の年間98%値は、0.015ppm であり、環境基準の長期的評価及び仙台市環境基本計画の定量目標値に適合している。

また、経年変化で見ると、年平均値、日平均値の年間98%値ともに、横ばい傾向を示している。

表 3.1.1-4 二酸化窒素の測定結果（平成29年度）

局区分	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
			日	時間	ppm	ppm	日	%	日	%	ppm	日
一般局	広瀬	住	244	5,867	0.006	0.044	0	0.0	0	0.0	0.015	0

注) 1. 「環境基準」は、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。

2. 「杜の環境プラン 仙台市環境基本計画2011-2020（改定版）」（平成28年の、仙台市）の目標値は、日平均値の年間98%値が0.04ppm以下であること。

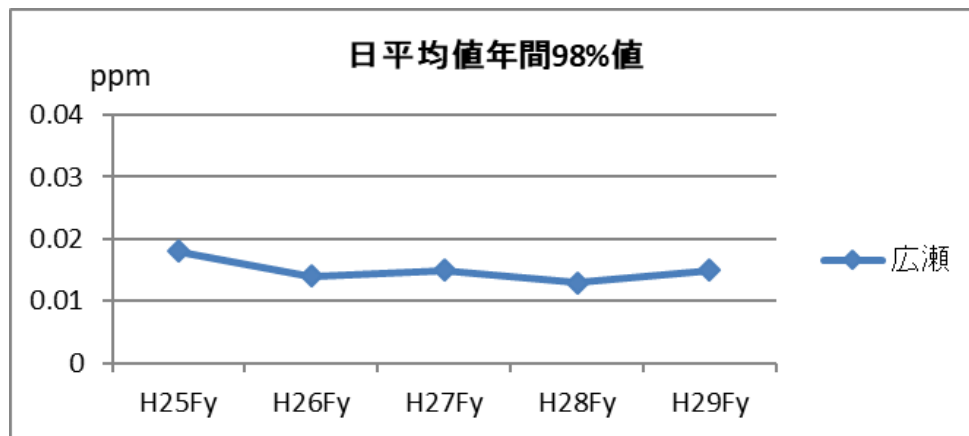
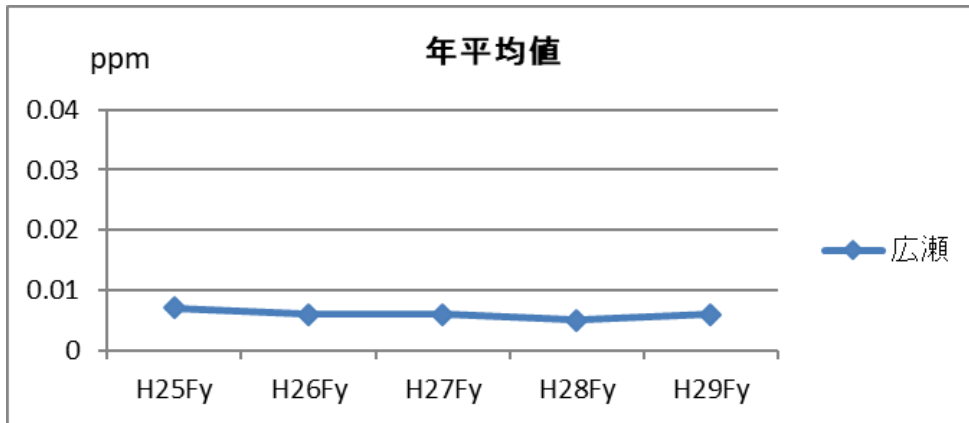
「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

表 3.1.1-5 二酸化窒素の経年変化（平成25～29年度）

測定局	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広瀬	年平均値 (ppm)	0.007	0.006	0.006	0.005	(0.006)
	日平均値の年間98%値 (ppm)	0.018	0.014	0.015	0.013	(0.015)

注) ()内は有効測定時間未満の測定値である。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成



「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

図 3.1.1-3 二酸化窒素の経年変化（平成25～29年度）

イ. 浮遊粒子状物質 (SPM)

平成29年度の浮遊粒子状物質の測定結果は表3.1.1-6に、平成25～29年度における年平均値及び日平均値の2%除外値の経年変化は、表3.1.1-7、図3.1.1-4に示すとおりである。

平成29年度において、1時間値が0.20mg/m³を超えた時間数はなく、また、日平均値が0.10mg/m³を超えた日もなかったことから、短期的評価及び長期的評価とも環境基準に適合している。

また、経年変化で見ると、年平均値、日平均値の2%除外値ともに、横ばい傾向を示している。

表 3.1.1-6 浮遊粒子状物質の測定結果 (平成29年度)

局区分	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価					長期的評価			環境基準の適否	
						1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数が2日以上連続した有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	短期的評価	長期的評価
						時間	%	日	%	mg/m ³	mg/m ³	有× ・無○	日	適○ ・否×	
一般局	広瀬	住	363	8,694	0.011	0	0.0	0	0.0	0.068	0.027	○	0	○	○

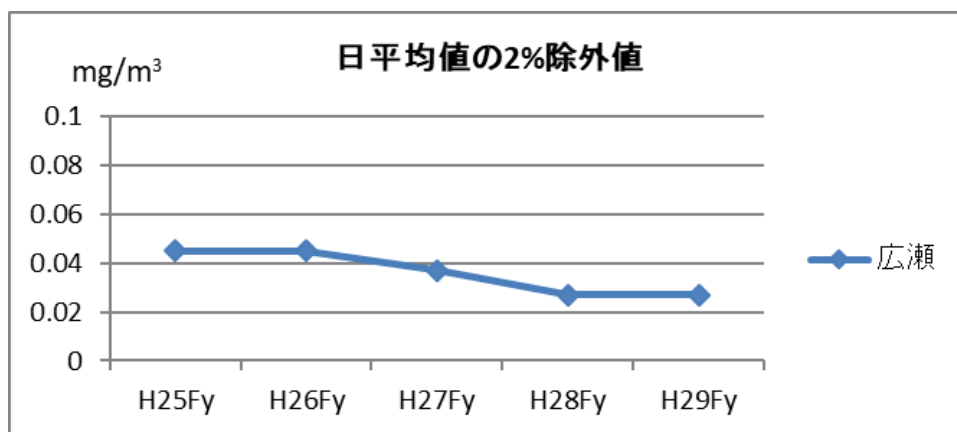
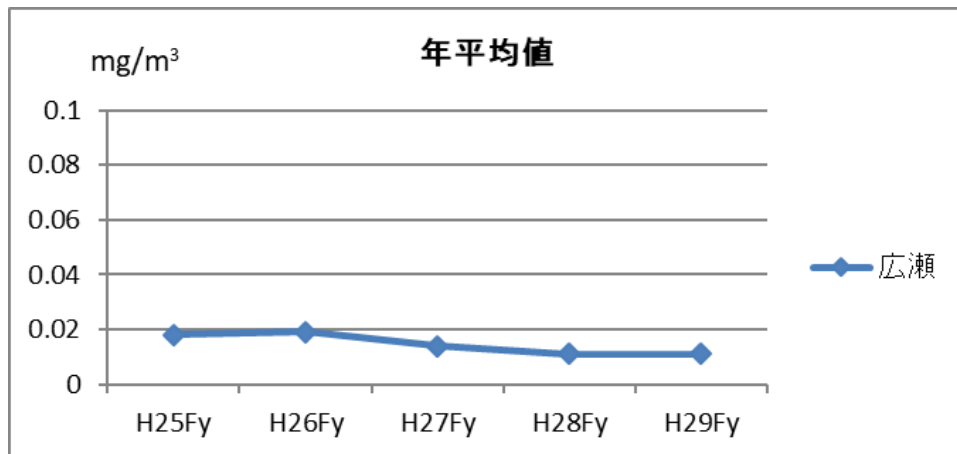
注) 「環境基準」は、1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果 (仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成

表 3.1.1-7 浮遊粒子状物質の経年変化 (平成25～29年度)

測定局	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広瀬	年平均値 (mg/m ³)	0.018	0.019	0.014	0.011	0.011
	日平均値の2%除外値 (mg/m ³)	0.045	0.045	0.037	0.027	0.027

「公害関係資料集 平成29年度測定結果 (仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成



「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

図 3.1.1-4 浮遊粒子状物質の経年変化（平成25～29年度）

ウ. 光化学オキシダント(Ox)

平成29年度の光化学オキシダントの測定結果は表3.1.1-8に、平成25～29年度における昼間の1時間値の最高値及び昼間の1時間値の最高値が0.06ppm を超えた時間数の経年変化は表3.1.1-9に示すとおりである。

平成29年度における昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間は、298時間(49日)であり、昼間の1時間値の最高値は0.104ppmと、環境基準に適合していない。また、経年変化で見ると横ばい傾向を示している。

表 3.1.1-8 光化学オキシダントの測定結果（平成29年度）

局区分	測定局	用途地域	昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	昼間の1時間値の日最高1時間値の年平均値	環境基準の適否
			日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm	
一般局	広瀬	住	364	5,372	0.035	49	298	0	0	0.104	0.046	×

注) 1. 昼間とは5時～20時までの時間帯をいう。

2. 「環境基準」は、1時間値が0.06ppm以下であること。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

表 3.1.1-9 光化学オキシダントの経年変化（平成25～29年度）

測定局	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広瀬	昼間の1時間値の最高値 (ppm)	0.081	0.094	0.089	0.076	0.104
	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数	141	268	302	126	298

注) 昼間とは5時～20時までの時間帯をいう。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

エ. 微小粒子状物質 (PM2.5)

平成29年度の微小粒子状物質の測定結果は表3.1.1-10に、平成25～29年度における年平均値及び日平均値の年間98%の経年変化は、表3.1.1-11に示すとおりである。

2測定局とも平成29年度における日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日はなく、1年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり環境基準に適合している。

また、経年変化で見ると、年平均値、日平均値の年間98%値ともに、横ばい傾向を示している。

表 3.1.1-10 微小粒子状物質 (PM2.5) の測定結果 (平成29年度)

局区分	測定局	用地地域	有効日数	年平均値	日平均値の年間98%値	日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
			日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%
一般局	宮総	住	359	7.7	22.1	0	0.0
	秋総	住	360	6.7	21.4	0	0.0

注) 「環境基準」は、1年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果 (仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成

表 3.1.1-11 微小粒子状物質 (PM2.5) の経年変化 (平成25～29年度)

測定局	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広瀬	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(9.4)	11.2	10.7	(10.0)	—
	日平均値の年間98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(27.3)	30.5	29.9	(20.3)	—
宮総	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	-	-	-	(7.6)	7.7
	日平均値の年間98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	-	-	-	(18.6)	22.1
秋総	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	-	-	-	(5.8)	6.7
	日平均値の年間98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	-	-	-	(15.2)	21.4

注) ()内は有効測定日数未滿の測定値である。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果 (仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成

オ. その他

調査範囲及び周辺の測定局では、二酸化硫黄、一酸化炭素、非メタン炭化水素及び有害大気汚染物質の測定は行われていない。

カ. 大気質に係る苦情の状況

調査範囲における過去5年間の大気質に係る苦情件数の経年変化は表3.1.1-12に示すとおりであり、平成29年度は12件となっている。

表 3.1.1-12 大気質に係る苦情件数の経年変化（平成25～29年度）

市町名	苦情件数（件）				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
仙台市	24	20	23	14	12

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

2) 影響を受ける施設等の状況

大気汚染の影響を受ける可能性のある施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に示すとおりである。

(3) 騒音

1) 騒音の状況

ア. 環境騒音

「公害関係資料集（仙台市環境局）」及び「宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）（宮城県環境生活部）」によると、調査範囲において、環境騒音の測定は行われていない。

イ. 自動車騒音

「公害関係資料集（仙台市環境局）」及び「宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）（宮城県環境生活部）」によると、調査範囲において平成26年度に一般国道48号で、調査範囲周辺では平成25～29年度に一般国道48号及び457号において自動車騒音の測定が実施されており、その測定区間は図3.1.1-5に、測定結果は表3.1.1-13に示すとおりである。調査範囲の一般国道48号の全日の環境基準達成状況は、79.5%であった。

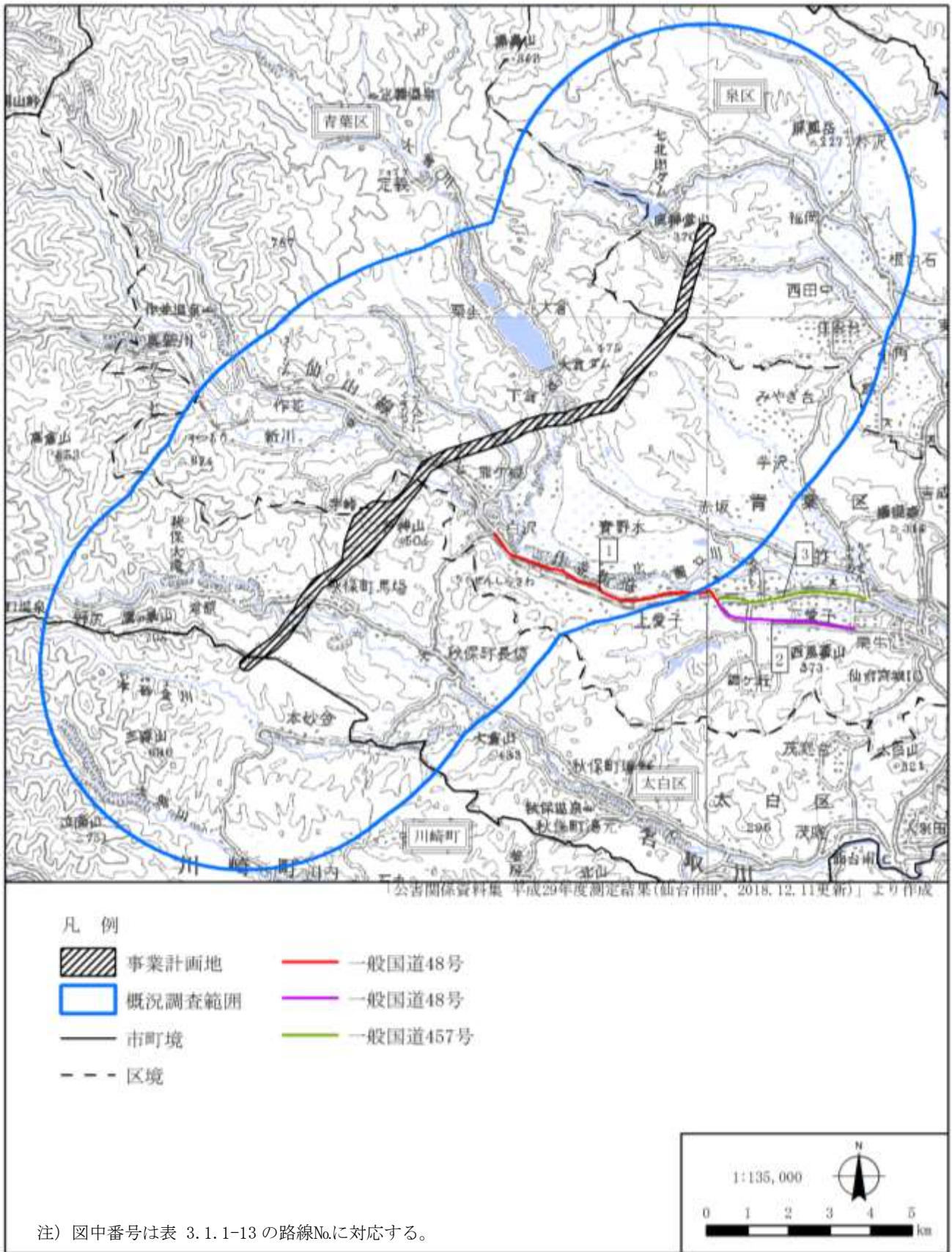


図3.1.1-5 自動車騒音測定地点

表 3.1.1-13 自動車騒音測定結果（平成25～29年度）

路線 No.	路線名	道路近傍騒音レベル実測区間				住居等 評価対象 戸数	環境基準達成戸数			未達成 戸数	環境基準達成率			未達成 率
		騒音 測定 年度	環境 基準 類型	等価騒音 レベル (dB)			全日	昼間 のみ	夜間 のみ		全日	昼間 のみ	夜間 のみ	
				昼間	夜間									
1	一般国道 48 号	H26	B	72	69	356	283	35	0	38	79.5	9.8	0.0	10.7
2	一般国道 48 号	H25	B	68	63	106	106	0	0	0	100	0.0	0.0	0.0
		H26		67	63	104	104	0	0	0	100	0.0	0.0	0.0
		H27		68	65	104	102	2	0	0	98.1	1.9	0.0	0.0
		H28		68	63	104	104	0	0	0	100	0.0	0.0	0.0
		H29		67	62	97	97	0	0	0	100	0.0	0.0	0.0
3	一般国道 457 号	H25	B	65	63	943	832	111	0	0	88.2	11.8	0.0	0.0

注) 1. 網掛けは、環境基準に未達成の住居があることを示す。

2. 昼間6：00～22：00、夜間22：00～6：00

3. 自動車騒音に関する環境基準については、表3.2.7-5参照。

4. 路線No.は図3.1.1-5の図中番号に対応する。

「公害関係資料集 平成25～29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」等より作成

ウ. 騒音に係る苦情の状況

調査範囲における過去5年間の騒音に係る苦情件数の経年変化は、表3.1.1-14に示すとおりであり、平成29年度で84件となっている。

表 3.1.1-14 騒音に係る苦情件数の経年変化（平成25～29年度）

市町名	年度	苦情件数 (件)				
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
仙台市	128	139	148	109	84	

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

2) 発生源の状況

仙台市における騒音規制法に基づく特定建設作業の届出状況は、表3.1.1-15に示すとおりである。

表 3.1.1-15 騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成29年度）

作業内容	届出件数 (件)								
	くい打機くい抜機を使用する作業	びょう打機を使用する作業	さく岩機を使用する作業	空気圧縮機を使用する作業	コンクリートプラントを設けて行う作業	バックホウを使用する作業	トラクターショベルを使用する作業	ブルドーザを使用する作業	合計
仙台市	18	1	149	14	0	20	0	1	203

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

3) 影響を受ける施設等の状況

騒音の影響を受ける可能性のある施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に示すとおりである。

(4) 振動

1) 振動の状況

ア. 環境振動

「公害関係資料集（仙台市環境局）」及び「宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）（宮城県環境生活部）」によると、調査範囲においては、環境振動の測定は行われていない。

イ. 道路交通振動

「公害関係資料集（仙台市環境局）」及び「宮城県公害資料（騒音・振動・悪臭編）（宮城県環境生活部）」によると、調査範囲においては、道路交通振動の測定は行われていない。

ウ. 振動に係る苦情の状況

調査範囲における過去5年間の振動に係る苦情件数の経年変化は、表3.1.1-16に示すとおりであり、平成29年度で9件となっている。

表 3.1.1-16 振動に係る苦情件数の経年変化（平成25～29年度）

年度 市町名	苦情件数（件）				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
仙台市	11	11	9	18	9

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

2) 発生源の状況

仙台市における振動規制法に基づく特定建設作業の届出状況は、表3.1.1-17に示すとおりである。

表 3.1.1-17 振動規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成29年度）

工種別	届出件数（件）				
作業内容	くい打機く い抜機を使 用する作業	鋼球を使用 して破壊す る作業	舗装破砕機 を使用する 作業	ブレーカを 使用する作 業	合計
仙台市	37	0	2	118	157

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

3) 影響を受ける施設等の状況

振動の影響を受ける可能性のある施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に示すとおりである。

(5) 低周波音

1) 低周波音の状況（苦情の状況）

調査範囲における過去4年間の低周波音に係る苦情件数の経年変化は、表3.1.1-18に示すとおりであり、平成28年度は2件の報告がある。

表 3.1.1-18 低周波音に係る苦情件数の経年変化（平成25～28年度）

市町名	年度	苦情件数（件）			
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
仙台市		0	0	0	2

「平成24～28年度公害苦情調査結果報告書（宮城県環境生活部環境対策課）」より作成

2) 影響を受ける施設等の状況

低周波音の影響を受ける可能性のある施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に示すとおりである。

(6) 悪臭

1) 悪臭の状況（苦情の状況）

仙台市における悪臭苦情の経年変化は表3.1.1-19に示すとおりであり、平成29年度は26件となっている。

また、平成29年度における仙台市の発生源区分別の苦情件数は、全体26件のうち、サービス業・その他の8件が最も多く、次いで不明の7件であった。

表 3.1.1-19 仙台市における悪臭に係る苦情件数の経年変化
(平成25～29年度)

市町名	年度	苦情件数（件）				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
畜産農業	2	1	1	0	1	
飼料・肥料製造工場	0	0	0	1	1	
食料品製造工場	1	0	1	1	2	
化学工場	0	0	0	0	0	
その他の製造工場	4	0	0	3	2	
サービス業・その他	6	5	5	7	8	
移動発生源	0	0	0	0	0	
建設作業現場	2	2	1	0	0	
下水・用水	0	0	0	1	0	
ごみ集積所	1	0	0	0	0	
個人住宅・アパート・寮	8	7	6	2	5	
不明	6	11	14	5	7	
計	30	26	28	20	26	

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

2) 影響を受ける施設等の状況

悪臭の影響を受ける可能性のある施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に示すとおりである。

3.1.2 水環境

(1) 水質

1) 水質汚濁の状況

ア. 水質の概況

調査範囲においては、河川10地点、湖沼3地点で調査が実施されている。調査地点の測定項目は表3.1.2-1に、測定位置は図3.1.2-1に示すとおりである。

表 3.1.2-1 水質調査地点の測定項目

水域名	地点名	類型	実施機関	測定項目			
				生活環境項目	健康項目	ダイオキシン類	
河川	名取川上流	深野橋	AA	仙台市	○	○	○
	本砂金川	本砂金川最下流	—	仙台市	○	△	—
	広瀬川(1)	相生橋	A	仙台市	○	○	—
	広瀬川(1)	野川橋	A	仙台市	○	△	—
	広瀬川(1)	鳴合橋	A	仙台市	○	○	○
	新川	山田橋下流	—	仙台市	○	△	—
	大倉川下流	大倉川最下流	AA	仙台市	○	○	—
	七北田川上流	原山橋	A	仙台市	○	○	—
	七北田川上流	福岡大堰	A	仙台市	○	○	○
	七北田川上流	長谷倉川最下流	A	仙台市	○	△	—
湖沼	大倉ダム	大倉ダムダムサイト	AA	仙台市	○	○	○
	七北田ダム	七北田ダムダムサイト	A	仙台市	○	○	○
	青下ダム	青下ダムダムサイト	—	仙台市	○	○	—

注) 「○」は全項目、「△」は一部の項目を測定していることを示す。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果(仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成

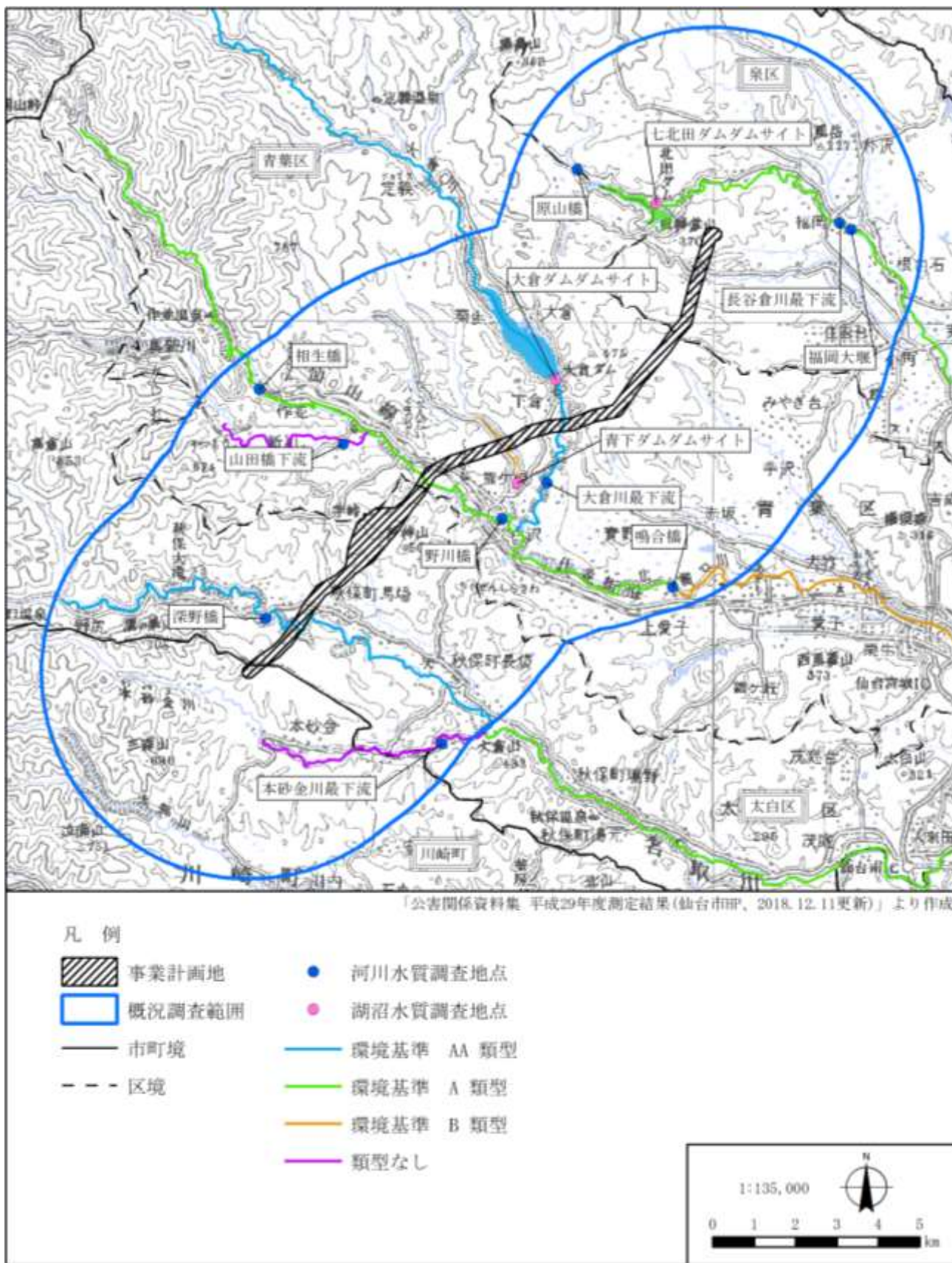


図 3.1.2-1 水質測定地点

① 河川

調査範囲における平成29年度の河川の水質調査結果は表3.1.2-2～表3.1.2-4に示すとおりである。

河川の水質調査結果の生活環境項目については、大腸菌群数が類型指定されている全ての地点で環境基準に適合していない。pH（水素イオン濃度）、SS（浮遊物質質量）、DO（溶存酸素量）、BOD（生物化学的酸素要求量）は、全ての地点で環境基準に適合している。

健康項目及びダイオキシン類については、いずれの項目も環境基準に適合している。

表 3.1.2-2 河川の水質調査結果（生活環境項目 平成29年度）

河川名	地点名	類型	pH	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
			最小～最大	最小～最大	最小～最大 (75%値)	最小～最大	最小～最大
名取川	深野橋	AA	7.3～7.7	9.2～14	<0.5～0.9 (<0.5)	<1～1	11～ <u>1,100</u>
本砂金川	本砂金川最下流	—	7.4～7.8	9.5～14	<0.5～1.0 (<0.5)	<1～8	33～22,000
広瀬川	相生橋	A	6.9～7.4	9.3～13	<0.5～1.3 (0.5)	<1～2	33～ <u>3,500</u>
広瀬川	野川橋	A	7.0～7.9	9.9～15	<0.5～0.9 (0.5)	<1～5	13～ <u>1,300</u>
広瀬川	鳴合橋	A	6.8～7.3	9.6～14	<0.5～1.2 (0.6)	<1～7	33～ <u>1,700</u>
新川	山田橋下流	—	7.1～7.4	9.3～14	<0.5～0.6 (<0.5)	<1～2	7.8～790
大倉川	大倉川最下流	AA	7.2～7.5	9.8～13	<0.5～0.8 (0.6)	<1～3	2.0～ <u>1,700</u>
七北田川	原山橋	A	7.0～7.8	9.2～11	<0.5 (<0.5)	<1	33～ <u>1,700</u>
七北田川	福岡大堰	A	7.2～8.1	8.7～14	<0.5～1.8 (0.6)	<1～6	33～ <u>4,900</u>
長谷倉川	長谷倉川最下流	A	7.4～8.1	8.8～14	<0.5～0.6 (0.5)	<1～7	46～ <u>7,900</u>
環境基準		AA	6.5以上 8.5以下	7.5 以上	1 以下	25 以下	50 以下
		A	6.5以上 8.5以下	7.5 以上	2 以下	25 以下	1,000 以下

注) 1. 環境基準欄の類型は以下のとおり（河川）

- AA：水道1 級、自然環境保全及びA 以下の欄に掲げるもの
- A：水道2 級、水産1 級、水浴及びB 以下の欄に掲げるもの
- B：水道3 級、水産2 級及びC 以下の欄に掲げるもの

2. BOD は、環境基準との適否を75%値で評価する。

3. 下線箇所は環境基準に適合していないことを示す。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

表 3.1.2-3(1) 河川の水質調査結果（健康項目 平成29年度）

項目	単位	名取川	本砂金川	広瀬川	広瀬川	環境基準
		深野橋	本砂金川 最下流	相生橋	野川橋	
カドミウム	mg/L	<0.001	-	<0.001	-	0.003 以下
全シアン	mg/L	<0.1	-	<0.1	-	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	-	<0.005	-	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	-	<0.02	-	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.007	-	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	-	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	-	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	-	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	-	<0.002	-	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	-	<0.0002	-	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	-	<0.0004	-	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	-	<0.002	-	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	-	<0.004	-	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	-	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	-	<0.0006	-	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	-	<0.001	-	0.01 以下
テトラクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	-	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	-	<0.0002	-	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	-	<0.0006	-	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	-	<0.0003	-	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	-	<0.001	-	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	-	<0.001	-	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	-	<0.002	-	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.15	0.21	0.16	0.13	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	0.09	-	0.8 以下
ほう素	mg/L	<0.02	0.03	0.10	-	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	-	<0.005	-	0.05 以下

表 3.1.2-3(2) 河川の水質調査結果 (健康項目 平成 29 年度)

項目	単位	広瀬川	新川	大倉川	七北田川	環境基準
		鳴合橋	山田橋 下流	大倉川 最下流	原山橋	
カドミウム	mg/L	<0.001	-	<0.001	<0.001	0.003 以下
全シアン	mg/L	<0.1	-	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	-	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	-	<0.02	<0.02	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	-	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	-	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	-	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	-	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	-	<0.002	<0.002	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	-	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	-	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	-	<0.001	<0.001	0.01 以下
テトラクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	-	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	-	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	-	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	-	<0.001	<0.001	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	-	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	-	<0.002	<0.002	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.22	0.11	0.16	0.22	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	-	<0.08	<0.08	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.12	-	0.04	<0.02	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	-	<0.005	<0.005	0.05 以下

表 3.1.2-3(3) 河川の水質調査結果（健康項目 平成 29 年度）

項目	単位	七北田川	長谷倉川	環境基準
		福岡大堰	長谷倉川 最下流	
カドミウム	mg/L	<0.0003	-	0.003 以下
全シアン	mg/L	<0.1	-	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	-	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	-	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	-	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	-	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	-	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	-	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	-	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	-	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	-	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	-	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	-	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	-	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	-	0.01 以下
テトラクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	-	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	-	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	-	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	-	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	-	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	-	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.16	0.20	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	-	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.05	-	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	-	0.05 以下

注) 1. 基準値との評価は年間平均値で行う。全シアンに係る基準値は年間最高値とする。

2. 「-」は測定値の報告がないものを示す。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

表 3.1.2-4 河川の水質調査結果（ダイオキシン類 平成29年度）

単位：pg-TEQ/L

水域名		地点名	調査結果	環境基準
河川	広瀬川	鳴合橋	0.063	1
	名取川	深野橋	0.062	
	七北田川	福岡大堰	0.080	

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

② 湖沼

調査範囲における平成29年度の湖沼の水質調査結果は、表3.1.2-5～7に示すとおりである。

湖沼の水質調査結果の生活環境項目については、pH（水素イオン濃度）が七北田ダムダムサイト、COD（化学的酸素要求量）及びSS（浮遊物質）が大倉ダムダムサイト及び七北田ダムダムサイト、大腸菌群数が大倉ダムダムサイトで環境基準に適合していない。DO（溶存酸素量）は両地点で環境基準に適合している。

健康項目及びダイオキシン類については、いずれの項目も環境基準に適合している。

表 3.1.2-5 湖沼の水質調査結果（生活環境項目 平成29年度）

水域名	地点名	類型	pH	DO (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
			最小～最大	最小～最大	最小～最大 (75%値)	最小～最大	最小～最大
大倉ダム	大倉ダムダムサイト	AA	7.0～8.3	9.3～13	1.3～3.5 (3.0)	<1～ <u>5</u>	2.0～ <u>1,700</u>
七北田ダム	七北田ダムダムサイト	A	7.4～ <u>9.8</u>	8.3～15	2.0～19 (3.3)	1～ <u>22</u>	<1.8～490
青下ダム	青下ダムダムサイト	—	7.2～7.9	8.3～14	2.3～6.3 (4.9)	<1～9	7.8～9,500
環境基準		AA	6.5以上 8.5以下	7.5 以上	1 以下	1 以下	50 以下
		A	6.5以上 8.5以下	7.5 以上	3 以下	5 以下	1,000 以下

注) 下線箇所は環境基準に適合していないことを示す。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

表 3.1.2-6 湖沼の水質調査結果（健康項目 平成 29 年度）

項目	単位	大倉川	七北田川	青下川	環境基準
		大倉ダム ダムサイト	七北田ダム ダムサイト	青下ダム ダムサイト	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.003 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
テトラクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.048	0.051	0.16	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.02	<0.02	0.02	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

注）基準値との評価は年間平均値で行う。全シアンに係る基準値は年間最高値とする。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018. 12. 11更新）」より作成

表 3.1.2-7 湖沼の水質調査結果（ダイオキシン類 平成29年度）

単位：pg-TEQ/L

水域名		地点名	調査結果	環境基準
湖沼	大倉ダム	ダムサイト	0.064	1
	七北田ダム	ダムサイト	0.064	

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

イ. 水質に係る苦情の状況

調査範囲における過去5年間の水質に係る苦情件数の推移は、表3.1.2-8に示すとおりであり、平成29年度は3件の報告がある。

表 3.1.2-8 水質に係る苦情件数の推移（平成25～29年度）

市町名	年度	苦情件数（件）				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
仙台市	0	1	2	6	3	

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

(2) 底質

1) 底質の状況

調査範囲において底質のダイオキシン類調査は、河川3地点、湖沼2地点において実施されている。

調査位置は図3.1.2-2に、調査結果は表3.1.2-9に示すとおりである。

底質のダイオキシン類の調査結果は、いずれの地点も環境基準に適合している。

表 3.1.2-9 底質のダイオキシン類の調査結果（平成29年度）

単位：pg-TEQ/g

水域名		地点名	調査結果	環境基準
河川	広瀬川(1)	鳴合橋	0.12	150
	名取川上流	深野橋	0.10	
	七北田川上流	福岡大堰	0.28	
湖沼	大倉ダム	ダムサイト	2.5	
	七北田ダム	ダムサイト	3.0	

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成



図3.1.2-2 底質の調査地点位置

2) 影響を受ける施設等の状況

本事業では河川への排水はないため、農業用水等の取水施設等底質への影響を受ける施設はない。

(3) 地下水汚染

1) 地下水汚染の状況

調査範囲における平成29年度の地下水の調査は、調査範囲内（国土地理院二次メッシュコード内）では概況調査が青葉区3地点、太白区3地点、泉区4地点、継続監視調査が青葉区3地点、泉区6地点、ダイオキシン類に関する地下水調査が青葉区1地点で実施されている。

調査位置は図3.1.2-3に、その調査結果は表 3.1.2-10～12に示すとおりである。

地下水概況調査では、泉区の1地点で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が基準に適合していないがそのほかの項目及びダイオキシン類に関する地下水水質調査は基準値に適合している。また、地下水継続監視調査では、泉区の2地点で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、青葉区の1地点及び泉区の2地点で砒素が基準値に適合していない。

表 3.1.2-10(1) 地下水概況調査結果 (平成29年度)

単位: mg/L

調査項目		区・二次メッシュコード・調査日			基準値、指針値
		青葉区①	青葉区②	青葉区③	
		5740-35 H29.10.20	5740-36 H29.9.27	5740-36 H29.10.5	
一般	水温	14.4	13.9	16.6	—
	pH	6.0	5.9	6.3	—
環境基準項目	カドミウム	<0.001	<0.001	<0.001	0.003 以下
	全シアン	ND	ND	ND	検出されないこと
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下
	砒素	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
	総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
	アルキル水銀	ND	ND	ND	検出されないこと
	PCB	ND	ND	ND	検出されないこと
	ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
	四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
	塩化ビニルモノマー	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004以下
	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.1以下
	1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04以下
	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1以下
	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
	トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
	テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01以下
	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
	チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
	シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003以下
	チオベンカルブ	<0.001	<0.001	<0.001	0.02以下
	ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.50	0.12	6.3	10 以下
	ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	0.8以下
	ほう素	<0.02	<0.02	0.02	1 以下
	1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下
	クロロホルム	<0.006	—	<0.006	0.06 以下
	1,2-ジクロロプロパン	<0.006	—	<0.006	0.06 以下
p-ジクロロベンゼン	<0.02	—	<0.02	0.2 以下	
イソキサチオン	<0.0008	—	<0.0008	0.008 以下	
ダイアジノン	<0.0005	—	<0.0005	0.005 以下	
フェニトロチオン (MEP)	<0.0003	—	<0.0003	0.003 以下	
イソプロチオラン	<0.004	—	<0.004	0.04 以下	
オキシ銅(有機銅)	<0.004	—	<0.004	0.04 以下	
クロロタロニル (TPN)	<0.005	—	<0.005	0.05 以下	
プロピザミド	<0.0008	—	<0.0008	0.008 以下	
EPN	<0.001	—	<0.001	0.006 以下	
ジクロロボス (DDVP)	<0.0008	—	<0.0008	0.008 以下	
フェノブカルブ (BPMC)	<0.003	—	<0.003	0.03 以下	
イプロベンホス (IBP)	<0.0008	—	<0.0008	0.008 以下	
クロルニトロフェン (CNP)	<0.001	—	<0.001	—	
トルエン	<0.06	—	<0.06	0.6 以下	
キシレン	<0.04	—	<0.04	0.4 以下	
フタル酸ジエチルヘキシル	<0.006	—	<0.006	0.06 以下	
ニッケル	<0.001	—	<0.001	—	
モリブデン	<0.007	—	<0.007	0.07 以下	
アンチモン	<0.002	—	<0.002	0.02 以下	
エピクロロヒドリン	<0.00004	—	<0.00004	0.0004 以下	
全マンガン	<0.02	—	<0.02	0.2 以下	
ウラン	<0.0002	—	<0.0002	0.002 以下	

表 3.1.2-10(2) 地下水概況調査結果 (平成29年度)

単位: mg/L

区・二次メッシュコード・調査日		太白区①	太白区②	太白区③	基準値、指針値
		5740-25	5740-25	5740-25	
		H29. 9. 27	H29. 9. 27	H29. 9. 27	
一般	水温	18.3	18.2	17.3	—
	pH	6.1	6.2	6.3	—
環境基準項目	カドミウム	<0.001	<0.001	<0.001	0.003 以下
	全シアン	ND	ND	ND	検出されないこと
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	0.05 以下
	砒素	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下
	総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
	アルキル水銀	ND	ND	ND	検出されないこと
	PCB	ND	ND	ND	検出されないこと
	ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
	四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
	塩化ビニルモノマー	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004以下
	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.1以下
	1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04以下
	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1以下
	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
	トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
	テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01以下
	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
	チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
	シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003以下
	チオベンカルブ	<0.001	<0.001	<0.001	0.02以下
	ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.06	2.1	2.2	10 以下
	ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	0.8以下
	ほう素	<0.02	0.07	<0.02	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下	
要監視項目	クロロホルム	—	—	—	0.06 以下
	1,2-ジクロロプロパン	—	—	—	0.06 以下
	p-ジクロロベンゼン	—	—	—	0.2 以下
	イソキサチオン	—	—	—	0.008 以下
	ダイアジノン	—	—	—	0.005 以下
	フェニトロチオン (MEP)	—	—	—	0.003 以下
	イソプロチオラン	—	—	—	0.04 以下
	オキシ銅(有機銅)	—	—	—	0.04 以下
	クロロタロニル (TPN)	—	—	—	0.05 以下
	プロピザミド	—	—	—	0.008 以下
	EPN	—	—	—	0.006 以下
	ジクロロボス (DDVP)	—	—	—	0.008 以下
	フェノブカルブ (BPMC)	—	—	—	0.03 以下
	イプロベンホス (IBP)	—	—	—	0.008 以下
	クロロニトロフェン (CNP)	—	—	—	—
	トルエン	—	—	—	0.6 以下
	キシレン	—	—	—	0.4 以下
	フタル酸ジエチルヘキシル	—	—	—	0.06 以下
	ニッケル	—	—	—	—
	モリブデン	—	—	—	0.07 以下
	アンチモン	—	—	—	0.02 以下
	エピクロロヒドリン	—	—	—	0.0004 以下
	全マンガン	—	—	—	0.2 以下
	ウラン	—	—	—	0.002 以下

表 3.1.2-10(3) 地下水概況調査結果 (平成29年度)

単位: mg/L

調査項目		区・二次メッシュコード・調査日		泉区①	泉区②	泉区③	泉区④	基準値、指針値	
				5740-36	5740-36	5740-36	5740-36		
				H29. 9. 27	H29. 9. 27	H29. 10. 5	H29. 10. 5		
一般	水温			20.5	18.1	18.0	17.0	—	
	pH			6.9	6.0	6.8	8.8	—	
環境基準項目	カドミウム			<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003以下	
	全シアン			ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
	鉛			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01以下	
	六価クロム			<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05以下	
	砒素			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01以下	
	総水銀			<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005以下	
	アルキル水銀			ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
	PCB			ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
	ジクロロメタン			<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下	
	四塩化炭素			<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下	
	塩化ビニルモノマー			<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下	
	1,2-ジクロロエタン			<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004以下	
	1,1-ジクロロエチレン			<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1以下	
	1,2-ジクロロエチレン			<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04以下	
	1,1,1-トリクロロエタン			<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1以下	
	1,1,2-トリクロロエタン			<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下	
	トリクロロエチレン			<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下	
	テトラクロロエチレン			<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01以下	
	1,3-ジクロロプロペン			<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下	
	チウラム			<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下	
	シマジン			<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003以下	
	チオベンカルブ			<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02以下	
	ベンゼン			<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下	
	セレン			<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01以下	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素			0.11	11	1.0	0.18	10以下	
	ふっ素			<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8以下	
	ほう素			<0.02	0.03	<0.02	0.03	1以下	
	1,4-ジオキサン			<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05以下	
	要監視項目	クロロホルム			—	—	<0.006	—	0.06以下
		1,2-ジクロロプロパン			—	—	<0.006	—	0.06以下
p-ジクロロベンゼン				—	—	<0.02	—	0.2以下	
イソキサチオン				—	—	<0.0008	—	0.008以下	
ダイアジノン				—	—	<0.0005	—	0.005以下	
フェニトロチオン(MEP)				—	—	<0.0003	—	0.003以下	
イソプロチオラン				—	—	<0.004	—	0.04以下	
オキシ銅(有機銅)				—	—	<0.004	—	0.04以下	
クロロタロニル(TPN)				—	—	<0.005	—	0.05以下	
プロピザミド				—	—	<0.0008	—	0.008以下	
EPN				—	—	<0.001	—	0.006以下	
ジクロロボス(DDVP)				—	—	<0.0008	—	0.008以下	
フェノブカルブ(BPMC)				—	—	<0.003	—	0.03以下	
イプロベンホス(IBP)				—	—	<0.0008	—	0.008以下	
クロロニトロフェン(CNP)				—	—	<0.001	—	—	
トルエン				—	—	<0.06	—	0.6以下	
キシレン				—	—	<0.04	—	0.4以下	
フタル酸ジエチルヘキシル				—	—	<0.006	—	0.06以下	
ニッケル				—	—	<0.001	—	—	
モリブデン				—	—	<0.007	—	0.07以下	
アンチモン				—	—	<0.002	—	0.02以下	
エピクロロヒドリン				—	—	<0.00004	—	0.0004以下	
全マンガン				—	—	<0.02	—	0.2以下	
ウラン				—	—	<0.0002	—	0.002以下	

- 注) 1. 環境基準項目については基準値、要監視項目については指針値である。
 2. 基準値との評価は年間平均値で行う。全シアンに係る基準値は年間最高値とする。
 3. 「ND」は検出されないことを示す。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果(仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成

表 3.1.2-11(1) 地下水継続監視調査結果（平成29年度）

単位：mg/L

調査項目	区・二次メッシュコート・調査日					基準値
	青葉区	青葉区	青葉区	泉区	泉区	
	5740-36 H29.7.27	5740-36 H29.8.1	5740-36 H29.8.1	5740-36 H29.8.1	5740-36 H29.8.1	
水温	14.2	16.4	18.2	16.7	15.8	—
pH	6.4	6.3	6.6	5.9	6.5	—
クロロエチレン	<0.0002	—	—	—	—	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	—	—	—	—	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	—	—	—	—	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	—	—	—	—	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	—	—	—	—	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	—	—	—	—	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.001	—	—	—	—	0.01以下
テトラクロロエチレン	0.0012	—	—	—	—	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	—	10	—	19	6.5	10以下
亜硝酸性窒素	—	<0.005	—	<0.005	<0.005	—
砒素	—	—	0.013	—	—	0.01以下

表 3.1.2-11(2) 地下水継続監視調査結果（平成29年度）

単位：mg/L

調査項目	区・二次メッシュコート・調査日				基準値
	泉区	泉区	泉区	泉区	
	5740-36 H29.8.1	5740-36 H29.8.1	5740-36 H29.7.31	5740-46 H29.7.31	
水温	18.0	16.8	19.0	17.3	—
pH	6.1	6.6	9.1	7.4	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	14	9.2	—	—	10以下
亜硝酸性窒素	<0.005	<0.005	—	—	—
砒素	—	—	0.018	0.015	0.01以下

注) 網掛け箇所は基準値を超過していることを示す。

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

表 3.1.2-12 ダイオキシン類に関する地下水水質調査結果（平成29年度）

単位：pg-TEQ/L

調査項目	区・二次メッシュコート・調査日		環境基準
	青葉区		
	5740-35 H29.10.20		
ダイオキシン類年平均値	0.062		1以下

「公害関係資料集 平成29年度測定結果（仙台市HP、2018.12.11更新）」より作成

2) 影響を受ける施設等の状況

地下水汚染の影響を受ける可能性のある施設としては、飲料水用井戸が挙げられる。



図 3.1.2-3 地下水の調査地点位置

(4) 水象

1) 水象の概況

ア. 河川・湖沼等の概要

調査範囲における主な河川は、表3.1.2-13及び図3.1.2-4に示すとおりである。調査範囲には一級河川が名取川、広瀬川等8河川、二級河川が3河川及び準用河川が11河川ある。事業計画地は一級河川である名取川、広瀬川、大倉川及び青下川の4河川を横断している。

また、主な湖沼は、表3.1.2-14及び図3.1.2-4に示すとおりである。事業計画地の北西側に七北田ダム、大倉ダムのダム湖がある。

なお、調査範囲には「工業用水法」（昭和31年法律第146号）及び「宮城県公害防止条例」（昭和46年宮城県条例第12号）に基づく地下水採取規制地域はない。

表 3.1.2-13 河川の概要

種別		No.	河川名	総延長 (m)
河川	一級河川	1	名取川	42,543
		2	広瀬川	40,035
		3	芋沢川	8,000
		4	大倉川	19,636
		5	青下川	7,600
		6	新川	4,690
		7	基石川	18,816
		8	本砂金川	6,436
	二級河川	1	七北田川	40,899
		2	萱場川	3,300
		3	西田中川	3,400
	準用河川	1	赤坂川	7,800
		2	蒲沢川	3,400
		3	堀切川	2,315
		4	白沢川	2,210
		5	獺沢川	2,690
		6	大柴沢	2,260
		7	塩沢川	2,010
		8	花輪川	2,780
9		山田川	920	
10		長谷倉川	5,760	
11		鰻沢川	1,620	

「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）より作成

表 3.1.2-14 湖沼の概要

湖沼等名称	所在地
七北田ダム	仙台市泉区福岡蒜但木
大倉ダム	仙台市青葉区大倉高畑

「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）より作成



図 3.1.2-4 水象の状況

イ. 湧水等の概要

調査範囲における湧水の概要は表3.1.2-15、温泉の概要は表3.1.2-16、温泉保護地域等の概要は表3.1.2-17、位置は図3.1.2-5に示すとおりである。

調査範囲には、湧水が1地点、温泉が35地点ある。また、温泉保護地域及び温泉準保護地域がそれぞれ2箇所指定されている。

なお、事業計画地に湧水、温泉はない。

表 3.1.2-15 湧水の概要

名称	所在地
満興寺七不思議の清水	仙台市泉区根白石字町西上

「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）より作成

表 3.1.2-16 温泉の概要

温泉名	No.	源泉名
作並温泉	1	澁谷源泉1号泉
	2	作並鎌倉の湯
	3	作並岩谷堂温泉
	4	鳳鳴の湯
	5	個人
定義温泉	6	不動の湯
	7	不動の湯
愛子周辺温泉	8	河鹿の湯
	9	赤生木温泉
	10	渡場温泉
	11	広瀬川温泉
	12	苦地温泉
	13	渡幸2号泉
	14	守屋光泰泉
	15	(個人)
	16	(個人)
	17	No3号源泉
	18	樋口柳左衛門泉
	19	(個人)
	20	熊ヶ根温泉
	21	(個人)
22	緑泉1号泉	
23	緑泉2号泉	
24	月山温泉	
25	あおのき温泉(仮称)	
26	熊ヶ根赤沢の湯	
二口周辺温泉	27	菘の湯
	28	新作並温泉
	29	湯の辺田温泉
泉温泉	30	藤沢の湯
	31	花輪温泉
	32	泉ヶ岳温泉
	33	明日の湯
	34	泉ヶ岳温泉第2号泉
	35	スパ・ハッピーファーム

注)1. No. は図 3.1.2-4 の図中番号に対応する。

2. () は個人所有のため「個人」と記載した。

「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年、仙台市)より作成

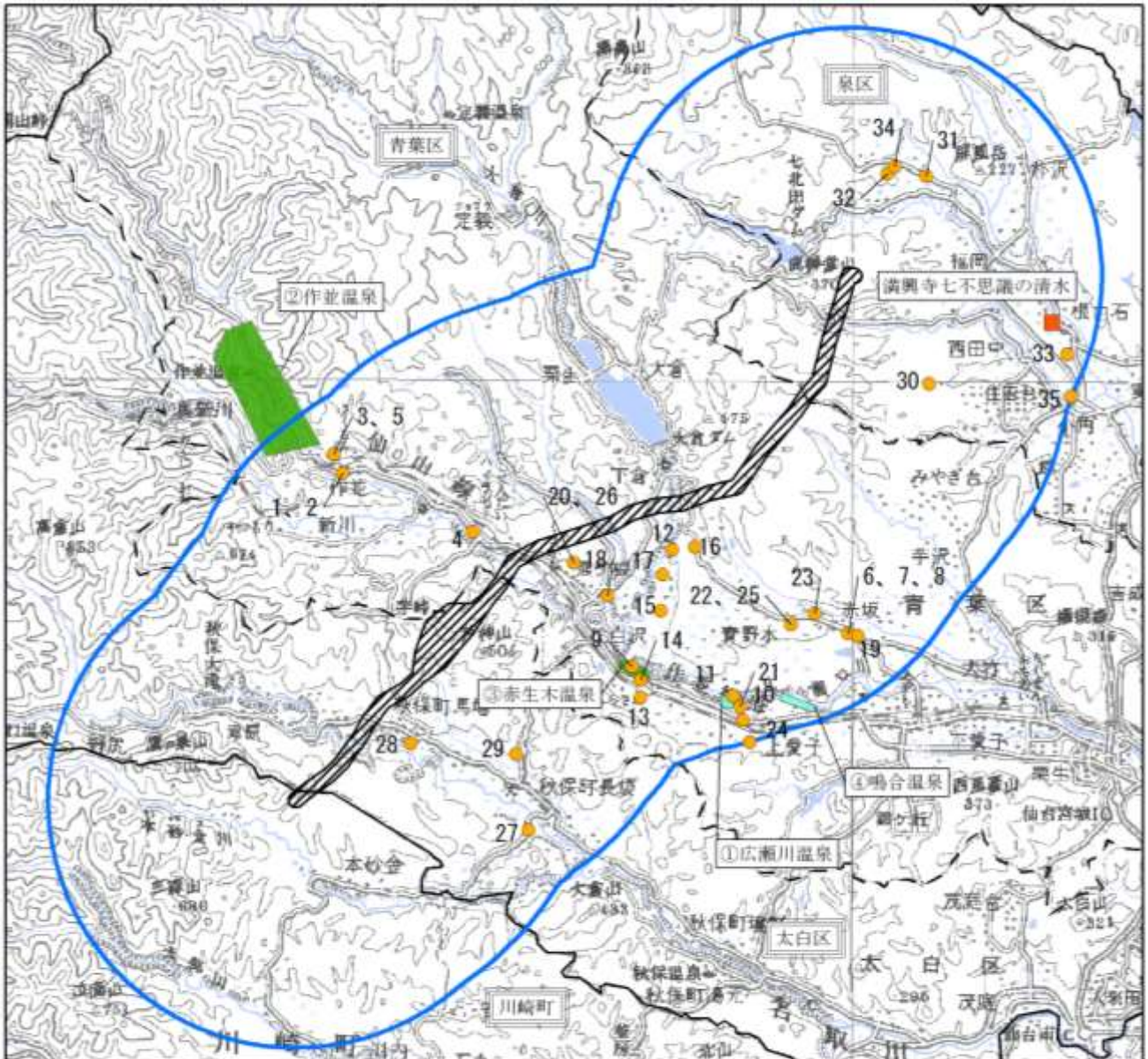
表 3.1.2-17 温泉保護地域等の概要

No.	温泉地名	温泉保護地域		温泉準保護地域	
		字名	範囲	字名	範囲
①	広瀬川温泉	—		柿崎南	一部
②	作並温泉	湯の原・長原・元木・中山・瀬戸原・上の台山・新坂	一部	—	—
③	赤生木温泉	大字上愛子 字白沢・大道・北田 大字芋沢 字座当・二尺木	一部	—	—
④	鳴合温泉	—	—	大字上愛子字松原 大字芋沢字大堀・新田	一部

注) 1. No. は図 3.1.2-5 の図中番号に対応する。

2. 温泉保護地域 : 地域内の温泉を積極的に保護しなければならないと認められる地域
3. 温泉準保護地域 : 現に温泉がゆう出し又はゆう出が予想される地域であって、その保護が必要と認められる地域

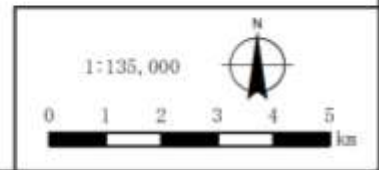
「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年、仙台市)より作成



「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
 (平成28年、仙台市)より作成

凡例

- | | | | |
|---|--------|---|---------|
|  | 事業計画地 |  | 湧水 |
|  | 概況調査範囲 |  | 温泉位置 |
|  | 市町境 |  | 温泉保護地域 |
|  | 区境 |  | 温泉準保護地域 |



注) 图中番号は表 3.1.2-15~17 のNo.に対応する。

図 3.1.2-5 温泉・湧水位置

ウ. 水辺の状況

植生自然度の区分基準は表 3.1.2-18、自然度の高い水辺地は表 3.1.2-19、位置は図 3.1.2-6 に示すとおりである。

調査範囲における自然度の高い水辺地としては、植生自然度 10 のヨシクラスをはじめ、植生自然度 9 のジュウモンジシダーサワグルミ群集、ケヤキ群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV) 等の自然度の高い植生が分布している。

なお、事業計画地には自然度の高い水辺地のうちケヤキ群落 (IV) 及びヤナギ低木群落 (IV) の一部が存在する。

表 3.1.2-18 植生自然度の区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クスギコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

「植生自然度調査 植生調査」(環境省自然環境局生物多様性センターHP) より作成

表 3.1.2-19 自然度の高い水辺地

植生自然度	自然度の高い水辺地
10	ヨシクラス、ツルヨシ群集、ヒルムシロクラス
9	ジュウモンジシダーサワグルミ群集、ケヤキ群落 (IV)、ハンノキ群落 (IV)、ヤナギ高木群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV)

「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年、仙台市)
「第 7 回自然環境保全基礎調査」(平成 17 年度～、環境省) より作成

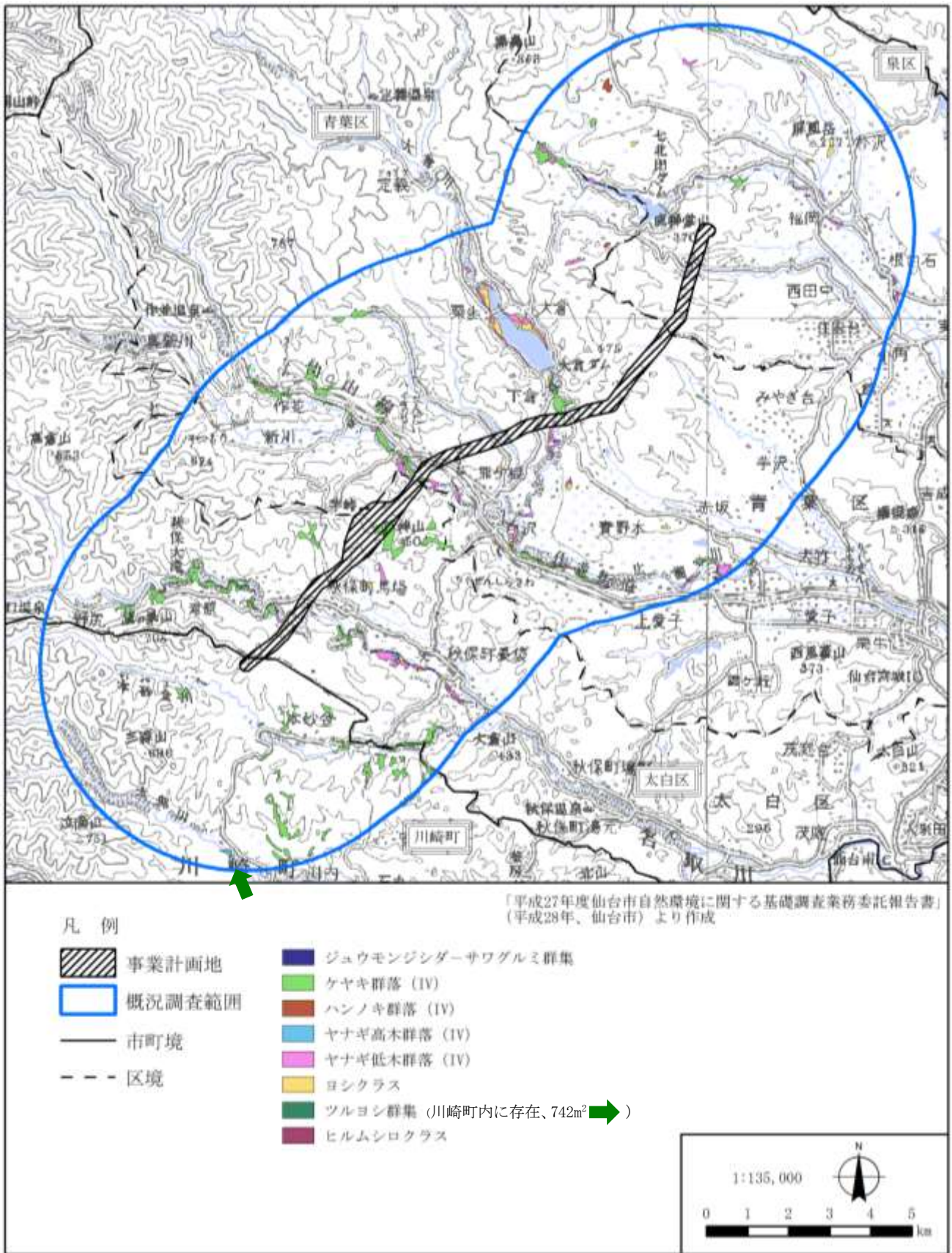


図 3.1.2-6 自然度の高い水辺地位置

エ. 水源地の状況

調査範囲における水道水源の概要は表3.1.2-20、位置は図3.1.2-7に示すとおりである。大倉ダム等のダム放流水のほか、大倉川等の河川を水源とする取水口がある。

また、農業用水取水施設の概要は表3.1.2-21、位置は図3.1.2-8に示すとおりである。取水堰が泉区福岡及び西田中を中心に点在し、この他分水堰、揚水機場及び砂防ダムが存在する。

なお、事業計画地に取水施設はない。

表 3.1.2-20 水道水源の概要

No.	取水口	浄水場	水源
1	国見浄水場取水口	国見浄水場	大倉ダム放流水
2	中原浄水場青下取水口	中原浄水場	大倉ダム放流水 大倉川表流水 青下ダム貯留水
3	中原浄水場苦地取水口		
4	福岡浄水場福岡取水口	福岡浄水場	七北田ダム放流水
5	熊ヶ根浄水場取水口	熊ヶ根浄水場	大倉川表流水
6	滝原浄水場取水口	滝原浄水場	滝原水源（湧水）
7	新川浄水場取水口	新川浄水場※	新川水源（浅井戸）

注) No. は図 3.1.2-7 の図中番号に対応する。

※ 休止中

「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）より作成



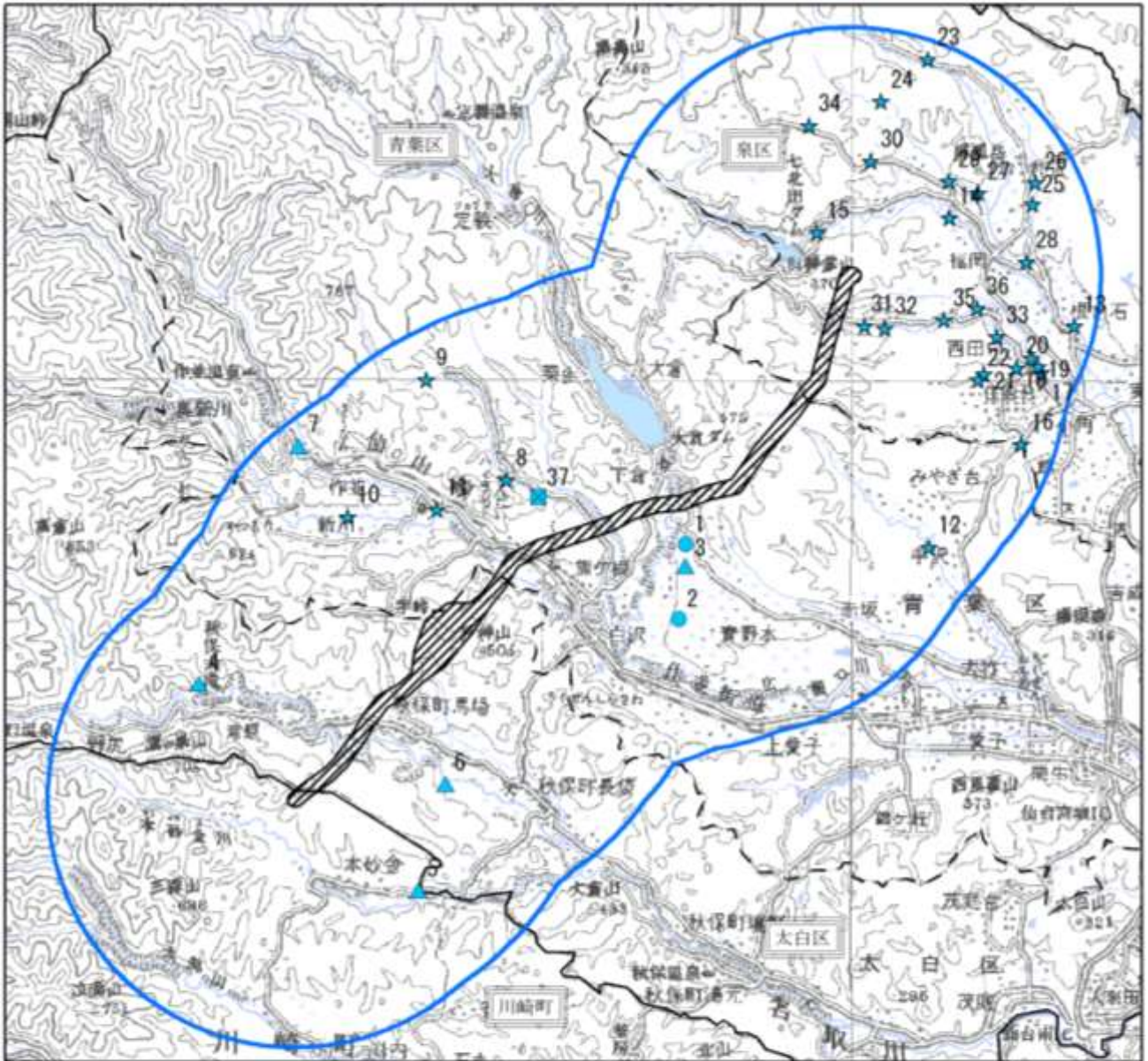
図 3.1.2-7 河川取水施設位置

表 3.1.2-21 農業用水取水施設の概要

No.	分類	施設名	所在地
1	分水堰	中田東分水口	青葉区苦地中
2		苦地下分水口	青葉区苦地下
3	揚水機場	青野木揚水機場	青葉区芋沢字苦地
4		目滝沢揚水機場	太白区秋保町馬場字西向
5		長袋ポンプ場	太白区秋保町長袋字畑
6		竹之内ポンプ	太白区秋保町長袋字上野原
7		壇の原揚水機	青葉区作並字壇の原
8	取水堰	越倉堰	青葉区大倉字越倉
9		大沢堰	青葉区大倉字大六天
10		岩谷堂堰	青葉区作並字岩谷堂西
11		熊ヶ根堰	青葉区作並字川崎
12		新堰	青葉区芋沢字一本木
13		新堰	泉区根白石字町東
14		根白石大堰	泉区福岡字坂下
15		北向堰	泉区福岡字岳山
16		萱場堰	泉区萱場字加賀屋敷
17		下堰	泉区西田中字露払向河原上
18		鍛冶輪堰	泉区西田中字下川添北
19		五百刈堰	泉区西田中字萩坂前上
20		才ノ前堰	泉区西田中字才ノ前
21		箱豊堰	泉区西田中字沢口前
22		鷹ノ巣堰	泉区西田中字上山下
23		朴沢大堰	泉区福岡字金畑
24		苦桃堰	泉区福岡字北苦桃
25		山田堰	泉区上原字新要害
26		寺堰	泉区小原字小原脇
27		小山水路堰	泉区福岡字細野
28		兎口堰	泉区朴沢原前
29		細野堰	泉区福岡字森下
30		朴蛇羅堰	泉区福岡字西朴蛇羅
31		寿連原上堰	泉区西田中字寿連原西
32		寿連原下堰	泉区福岡字上寿連原
33		堰田堰	泉区堰田字堰田
34		関口堰	泉区福岡字岳山
35		柏坊堰	泉区福岡字柏坊
36		花輪上堰	泉区根白石字上川原
37		砂防ダム	大倉堰

注) No. は図 3.1.2-8 の図中番号に対応する。

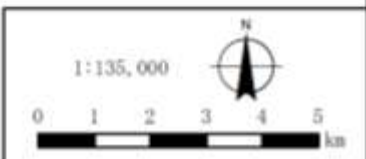
「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）より作成



「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
 (平成28年、仙台市) より作成

凡例

- | | | | |
|---|--------|---|------|
|  | 事業計画地 |  | 分水堰 |
|  | 概況調査範囲 |  | 揚水機場 |
|  | 市町境 |  | 取水堰 |
|  | 区境 |  | 砂防ダム |



注) 図中番号は表 3.1.2-21 に対応する。

図 3.1.2-8 農業用水取水施設位置

3.1.3 土壤環境

(1) 地形・地質

1) 地形の状況

調査範囲における地形の状況は、図3.1.3-1に示すとおりである。

調査範囲は、西部が山地及び丘陵地が広く分布し、河川の流域は段丘となっている。

なお、事業計画地は主に丘陵地及び段丘となっている。

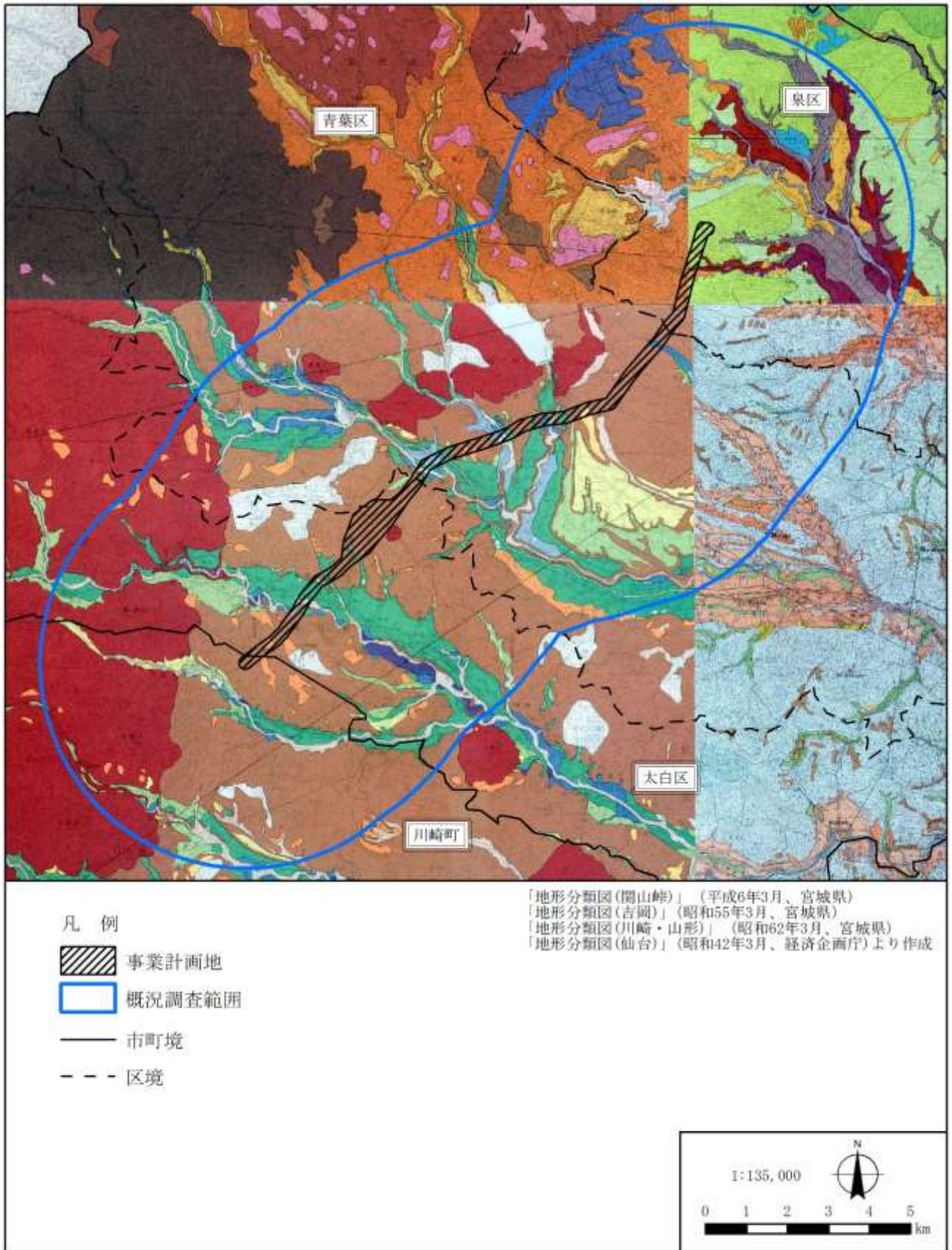
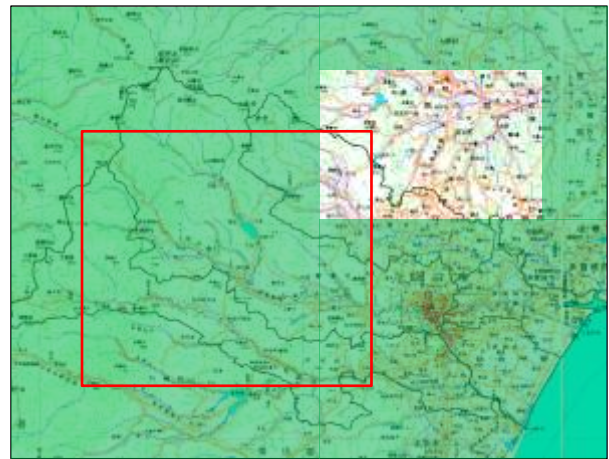


図 3.1.3-1(1) 地形分類



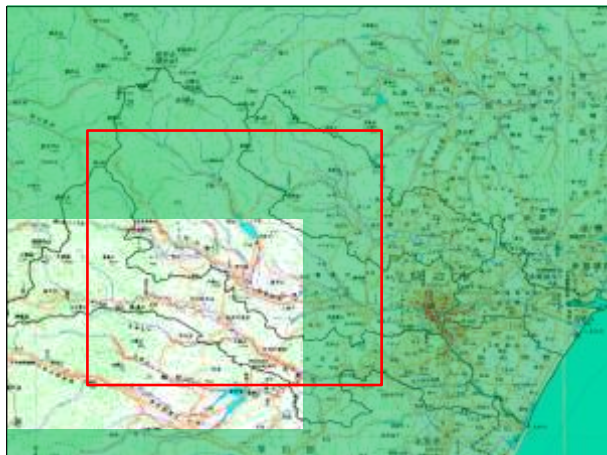
凡例(関山峠)



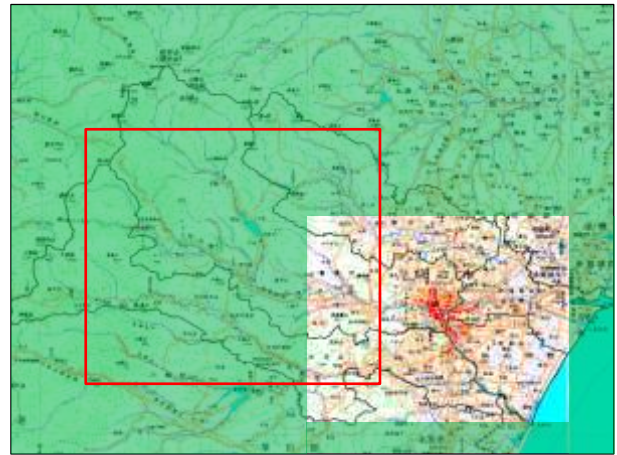
凡例(吉岡)



図 3.1.3-1(2) 地形分類



凡例(川崎・山形)



凡例(仙台)



図 3.1.3-1(3) 地形分類

2) 地質の状況

調査範囲における地質の状況は、図3.1.3-2に示すとおりである。

調査範囲には、酸性火砕岩、酸性凝灰岩及び礫・砂及び泥等が広く分布し、北部には火山岩塊・火山礫・火山砂及び火山灰が分布している。

なお、事業計画地の大部分は酸性凝灰岩となっている。

表層地質凡例



図 3.1.3-2(2) 表層地質

3) 注目すべき地形・地質

調査範囲における注目すべき地形・地質の状況は、表3.1.3-1、位置は図3.1.3-3に示すとおりである。

事業計画地は作並・屋敷平断層を横断している。

表 3.1.3-1 注目すべき地形・地質

No.	名称	概要
1	作並・屋敷平断層	活断層崖
2	愛子断層	撓曲崖
3	菖蒲沼	地すべり地 農地・村地・小集落・混在
4	大倉ダム湖畔	厚い段丘礫層 後期更新世河成段丘
5	秋保大滝	滝及び滝壺 名取川 県立自然公園二口峡谷
6	鳳鳴四十八滝	甌穴群 (ポットホール) 広瀬川
7	愛子盆地の広瀬川左岸一帯	河岸段丘及び段丘崖 広瀬川・大倉川
8	作並・屋敷平断層 (深野)	断層露頭
9	秋保長袋付近	環流丘陵 名取川

注) No. は図3.1.3-3の図中番号に対応する。

「日本の典型地形 都道府県別一覧」 (平成11年、国土地理院)

「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」 (平成29年、仙台市) より作成

4) 大規模な造成を要する斜面地等

調査範囲における傾斜30度以上の斜面状況は、図3.1.3-4に示すとおりであり、事業計画地の西側に多く分布している。

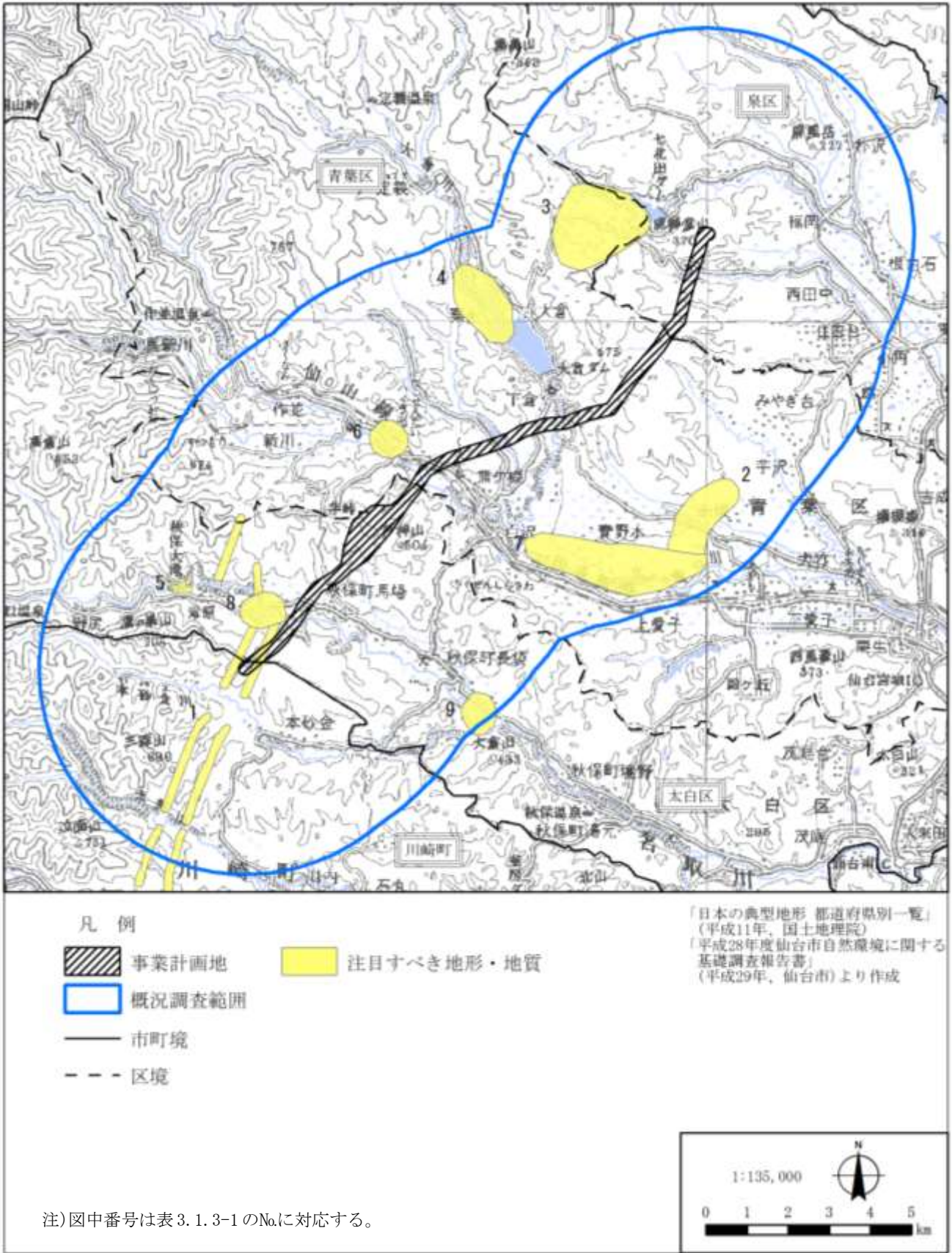


図 3.1.3-3 注目すべき地形・地質位置



図 3.1.3-4 傾斜30度以上の斜面地

5) 災害履歴

調査範囲において発生した主な過去の災害は表3.1.3-2に示すとおりである。

表 3.1.3-2 宮城県における過去の災害

区分	西暦	和暦・月	災害名称等
宮城県に おける地 震・津波 災害	2011年	平成23年 3月	平成23年3月11日東日本大震災
	2011年	平成23年 3月	平成23年3月9日三陸沖を震源とする地震
	2008年	平成20年 7月	平成20年7月24日岩手県沿岸北部地震
	2008年	平成20年 6月	平成20年6月14日岩手・宮城内陸地震
	2005年	平成17年 8月	8・16宮城地震
	2003年	平成15年 7月	平成15年7月26日宮城県北部連続地震
	2003年	平成15年 5月	平成15年5月26日三陸南地震
	1978年	昭和53年 6月	昭和53年6月12日宮城県沖地震
宮城県に おける風 水害等	2015年	平成27年 9月	平成27年9月関東・東北豪雨
	2011年	平成23年 9月	平成23年9月台風第15号
	2010年	平成22年12月	平成22年12月22日の低気圧
	2010年	平成22年 3月	平成22年3月9日から10日にかけての大雪
	2009年	平成21年10月	平成21年10月8日台風第18号
	2008年	平成20年 5月	平成20年5月20日大雨・洪水
	2008年	平成20年 4月	平成20年4月18日からの大雨・洪水・暴風
	2008年	平成20年 4月	平成20年4月1日からの暴風
	2008年	平成20年 1月	平成20年1月24日低気圧
	2007年	平成19年 9月	平成19年9月6日台風第9号
	2007年	平成19年 7月	平成19年7月15日台風第4号
	2006年	平成18年12月	平成18年12月26日低気圧
	2006年	平成18年10月	平成18年10月6日の大雨
	2006年	平成18年 9月	平成18年9月27日の大雨
2006年	平成18年 1月	平成18年1月4日の暴風	

注) 仙台市に何らかの被害が生じたものを抽出した。

「災害の記録-過去の災害（平成28年9月、宮城県HP）」等より作成

6) 災害危険箇所

調査範囲における災害の危険箇所の概要は表3.1.3-3～7、位置は図3.1.3-5～7に示すとおりである。

調査範囲には「砂防法」（明治30年法律第29号）に基づく砂防指定地、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」（平成12年法律第57号）に基づく土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定があり、事業計画地も指定されている。

なお、調査範囲には、「地すべり等防止法」（昭和33年法律第30号）に基づく地すべり等防止区域及び「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」（昭和44年法律第57号）に基づく急傾斜地崩壊危険区域は指定されていない。

また、調査範囲には表3.1.3-5～7及び図3.1.3-7のとおり、国土交通省の調査・点検要領に基づき、土砂災害の危険性のある箇所を宮城県が抽出した土砂災害危険箇所（土石流危険渓流、土石流危険区域、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり危険箇所）の指定があり、事業計画地も指定されている。

表 3.1.3-3 砂防指定地

No.	種別	箇所名	所在地
1	砂防指定地	清川	泉区福岡字苦桃、朴沢字壺野々
2		元石沢	泉区福岡字小山
3		清川	泉区福岡字細野、福岡字小山
4		七北田川	泉区福岡字平場、福岡字北向
5		花輪川	泉区福岡字寿連原西、西田中字杭城山
6		花輪川	泉区福岡字寿連原西、西田中字杭城山
7		大堤沢	青葉区芋沢字平澤、泉区西田中字堤下
8		芋沢川	青葉区芋沢字奥武士
9		夜盗沢	青葉区大倉字夜盗沢
10		広瀬川	青葉区作並字湯ノ原
11		岩谷堂西沢	青葉区作並字中山、作並字岩谷堂西
12		宮の沢	青葉区新川字清水尻
13		宮の沢	青葉区新川字清水尻
14		青下川	青葉区大倉字熊ヶ根
15		佐手川	青葉区上愛子字田子上、新川字佐手山
16		広瀬川	青葉区大倉字野川、上愛子字白沢
17		箱倉川	青葉区上愛子字赤生木
18		箱倉川	青葉区上愛子字赤生木
19		空堀沢	青葉区上愛子字五ツ森
20		道上沢川	青葉区上愛子字道上、上愛子字五ツ森
21		赤坂川	青葉区芋沢字赤坂
22		大堀沢	青葉区芋沢字大堀、芋沢字新田
23		聖沢	青葉区芋沢字大堀
24		聖沢	青葉区芋沢字大堀、芋沢字中山下
25		水浅川	青葉区芋沢字本郷
26		南野尻沢	太白区秋保町馬場字鷹ノ巣西
27		南野尻沢2	太白区秋保町馬場字鷹ノ巣西
28		南野尻沢3	太白区秋保町馬場字鷹ノ巣西
29		本砂金川	川崎町大字本砂金字所夫他
30		本砂金川	川崎町大字本砂金字滝倉山他
31		戦沢及び横根沢	川崎町大字本砂金字原他
32		寺沢	川崎町大字本砂金字大城前他
33		運南沢	川崎町大字本砂金字運南山
34		大部田沢	川崎町大字本砂金字道畑他
35		北沢	川崎町大字本砂金字大平田山他
36		上平沢	川崎町大字本砂金字宿他
37		前の沢	川崎町大字本砂金字西下田山他
38		切払沢	川崎町大字本砂金字下田他
39		太郎川	川崎町大字川内字花地山他
40		万崎沢	川崎町大字川内字柳生川他
41		高欠沢	川崎町大字川内字朴木山他

注) No. は図3.1.3-5の図中記号に対応する。

「宮城県砂防設備現況図」(平成20年3月、宮城県土木部防災砂防課)より作成

表 3. 1. 3-4(1) 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

No.	種別	区域名	所在地
1	急傾斜地の崩壊	下倉	青葉区大倉字下倉、岩下、高畑、宮前
2		作並の1	青葉区作並字新坂
3		芋沢新田	青葉区芋沢新田
4		高畑	青葉区大倉字高畑
5		みやぎ台一丁目	青葉区みやぎ台一丁目
6		要害	青葉区芋沢字要害
7		平沢の2	青葉区芋沢字平沢
8		南ノ沢	青葉区大倉字南ノ沢、高畑
9		矢籠山の1	青葉区大倉字矢籠山
10		矢籠山の2	青葉区大倉字矢籠山
11		秋保町長袋	太白区秋保町長袋字町
12		西田中	泉区西田中字山崎、根岸、根岸南
13		平場	泉区福岡平場
14		台	泉区西田中字朴ノ木山
15		本砂金*	川崎町大字本砂金字道畑
16		本砂金	川崎町大字本砂金字道畑
17		山崎	川崎町大字本砂金字山崎、古寺山
18		山崎	川崎町大字本砂金字山崎、古寺山
19		山崎	川崎町大字本砂金字山崎、古寺山
20		山崎	川崎町大字本砂金字山崎、古寺山
21		大城前	川崎町大字本砂金字道畑
22		坂下	川崎町大字本砂金字坂下
23		重九	川崎町大字本砂金字重九
24	土石流	坂下	青葉区上愛子字五ツ森
25		大森沢	青葉区上愛子字五ツ森
26		五ツ森沢2	青葉区上愛子字五ツ森
27		道上沢*	青葉区上愛子道上
28		野尻沢2	青葉区新川野尻、北野尻
29		滝ノ上沢	青葉区作並字滝ノ上
30		相ノ沢*	青葉区作並字相ノ沢
31		北子原沢の1	青葉区作並字北子原
32		北子原沢の2	青葉区作並字北子原
33		川崎沢2	青葉区作並字川崎
34		川崎沢1	青葉区作並字川崎
35		棒目木沢1*	青葉区作並字棒目木
36		関一番沢2	青葉区熊ヶ根字関一番
37		関一番沢1*	青葉区熊ヶ根字関一番
38		赤沢山沢*	青葉区熊ヶ根字赤沢山
39		南ノ沢	青葉区大倉
40		下倉沢	青葉区大倉
41		高畑沢	青葉区大倉
42		獅籠沢	青葉区大倉矢籠山
43		矢籠沢2	青葉区大倉
44		矢籠沢1*	青葉区大倉矢籠
45		長坂沢	青葉区芋沢字長坂

表 3. 1. 3-4(2) 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

No.	種別	区域名	所在地
46	土石流	板橋沢 1	青葉区芋沢字板橋
47		板橋沢 2	青葉区芋沢字板橋
48		中の沢	太白区秋保町馬場中、大榎、北山西
49		石ヶ森の沢	太白区秋保町馬場北山西
50		西沢※	泉区西田中字朴ノ木山
51		朴ノ木沢	泉区西田中字朴ノ木山、朴ノ木、西沢東、台
52		蒜但木沢	泉区福岡蒜但木
53		水無沢	泉区福岡蒜但木
54		愛宕下中沢	泉区根白石字愛宕下中
55		下荒沢	泉区福岡字下荒沢
56		元石沢※	泉区福岡字小山
57		北長坂沢 1	泉区福岡北長坂、照岡
58		北長坂沢 2	泉区福岡北長坂
59		北長坂沢 3	泉区福岡北長坂
60		北長坂沢 4	泉区福岡北長坂
61		芳ノ沢	泉区福岡字芳ノ沢
62		台沢	泉区福岡字台
63		重九沢	川崎町大字本砂金字重九
64		下田沢	川崎町大字本砂金字下田
65		栃原沢 5	川崎町大字本砂金字北栃原山
66		栃原沢 6	川崎町大字本砂金字北栃原山、栃原
67		白具沢	川崎町大字本砂金字北栃原山、大鳥屋山、栃原
68		寺沢※	川崎町大字本砂金字山崎、字所夫、字大田原
69		山崎沢 2	川崎町大字本砂金字古寺山、山崎
70		山崎沢 1※	川崎町大字本砂金字山崎、字道畑、字大城前、字大田原、字野中
71		本砂金沢 1	川崎町大字本砂金字運南山、道畑
72		本砂金沢 2※	川崎町大字本砂金字道畑、字大城前、字野中
73	本砂金沢 3	川崎町大字本砂金字運南山、大平田山	
74	北沢※	川崎町大字本砂金字宿、字道畑、字野中	
75	宿沢 1	川崎町大字本砂金字宿	
76	宿沢 2	川崎町大字本砂金字廻戸沢山、宿	
77	宿沢 3	川崎町大字本砂金字廻戸沢山、熊野沢山	
78	地すべり	矢籠※	青葉区大倉矢籠

注) 1. No. は図3. 1. 3-6の図中番号に対応する。

2. ※記載は土砂災害警戒区域のみ。

「土砂災害警戒区域等指定箇所」(平成30年、宮城県)等より作成

表 3.1.3-5(1) 土砂災害危険箇所（土石流危険渓流及び土石流危険区域）

名称	所在地
西沢	泉区西田中字朴ノ木山
朴ノ木沢	泉区西田中字朴ノ木山
杭城山沢	泉区西田中字杭城山
愛宕下中沢	泉区根白石字愛宕下中
元石沢	泉区福岡字小山
芳ノ沢	泉区福岡字芳ノ沢
台沢	泉区福岡字台
蒜但木沢	泉区福岡字蒜但木
水無沢	泉区福岡字蒜但木
北長坂沢 1	泉区福岡字北長坂
北長坂沢 2	泉区福岡字北長坂
北長坂沢 3	泉区福岡字北長坂
北長坂沢 4	泉区福岡字北長坂
下荒沢	泉区福岡字下荒沢
荒屋敷沢	青葉区芋沢荒屋敷
長坂沢	青葉区芋沢長坂
板橋沢 1	青葉区芋沢板橋
板橋沢 2	青葉区芋沢板橋
奥武士西沢	青葉区芋沢奥武士西
未坂沢	青葉区芋沢未坂
汁垂道上沢	青葉区芋沢垂道上
大六天沢	青葉区大倉大六天
木戸沢	青葉区大倉木戸
木戸沢	青葉区大倉木戸
木戸沢 2	青葉区大倉木戸
木戸沢 1	青葉区大倉木戸
上田沢の沢	青葉区大倉上田沢
下田沢	青葉区大倉下田沢
下田沢の沢 1	青葉区大倉下田沢
下田沢の沢 2	青葉区大倉下田沢
下田沢の沢 3	青葉区大倉下田沢
根地木沢	青葉区大倉根地木
南ノ沢	青葉区大倉南ノ沢
下倉沢	青葉区大倉下倉
高畑沢 1	青葉区大倉高畑
高畑沢 2	青葉区大倉高畑
地境沢	青葉区大倉地境
高森沢	青葉区大倉高森
矢籠沢 2	青葉区大倉矢籠
矢籠沢 1	青葉区大倉矢籠
矢籠山沢	青葉区大倉荒沢口
向大倉山沢 2	青葉区大倉向大倉山
向大倉山沢 3	青葉区大倉向大倉山
上菅田沢	青葉区大倉上菅田沢
上菅田	青葉区大倉上菅田
山根沢 1	青葉区大倉山根
山根沢 2	青葉区大倉山根
日向沢	青葉区大倉日向
薬師沢	青葉区大倉薬師
神明前沢	青葉区大倉神明前
上山崎沢	青葉区大倉上山崎

表 3.1.3-5(2) 土砂災害危険箇所（土石流危険渓流及び土石流危険区域）

名称	所在地
夜盗沢	青葉区大倉夜盗沢
夜盗沢	青葉区大倉夜盗沢
中白木	青葉区大倉中白木
御林沢	青葉区大倉御林
大手門沢	青葉区大手門
道上沢	青葉区上愛子道上
五ツ森沢 2	青葉区上愛子五ツ森
大森沢	青葉区上愛子大森山
坂下	青葉区上愛子坂下
石積沢	青葉区熊ヶ根石積
西原沢 2	青葉区熊ヶ根西原
関一番沢 1	青葉区熊ヶ根関一番
関一番沢 2	青葉区熊ヶ根関一番
赤沢山沢	青葉区熊ヶ根赤沢山
新田沢	青葉区熊ヶ根新田
西原沢 1	青葉区熊ヶ根西原
棒目木沢 1	青葉区作並棒目木
棒目木沢 3	青葉区作並棒目木
棒目木沢 2	青葉区作並棒目木
川崎沢 1	青葉区作並川崎
川崎沢 2	青葉区作並川崎
御櫃前南 1	青葉区作並御櫃前南
御櫃前南 2	青葉区作並御櫃前南
岩谷堂沢	青葉区作並岩谷堂
薬師前沢	青葉区作並薬師前
岩谷堂西沢	青葉区作並岩谷堂西沢
北子原沢の 2	青葉区作並北子原
北子原沢の 1	青葉区作並北子原
相ノ沢	青葉区作並相ノ沢
滝ノ上沢	青葉区作並滝ノ上
下山際沢	青葉区新下山際
上山際沢	青葉区新川上山際
佐手山の沢 1	青葉区新川佐手山
佐手山の沢 2	青葉区新川佐手山
中山田沢	青葉区新川中山田
中山田沢 2	青葉区新川中山田
中山田	青葉区新川中山田
野尻沢 2	青葉区新川野尻
みやぎ台沢	青葉区みやぎ台 5 丁目
弥平田の沢	太白区秋保町境野辺田山
沢端の沢	太白区秋保町長袋沢端
菅刈の沢 2	太白区秋保町長袋菅刈
向国久の沢	太白区秋保町長袋向国久
石木の沢	太白区秋保町長袋石木
菅刈の沢 1	太白区秋保町長袋菅刈
国久の沢	太白区秋保町長袋国久
畑の沢	太白区秋保町長袋畑
深野沢 1	太白区秋保町馬場深野
丸山沢	太白区秋保町馬場丸山
丸山沢 2	太白区秋保町馬場大滝

表 3.1.3-5(3) 土砂災害危険箇所（土石流危険溪流及び土石流危険区域）

名称	所在地
丸山沢 3	太白区秋保町馬場丸山
西向の沢	太白区秋保町馬場西向
大杉の沢	太白区秋保町馬場中
森安沢	太白区秋保町馬場中
中の沢	太白区秋保町馬場中
石ヶ森の沢	太白区秋保町馬場石ヶ森
熊沢	太白区秋保町馬場山口
辺田の沢	太白区秋保町馬場辺田
大雲寺沢	太白区秋保町馬場水上北
南野尻の沢 4	太白区秋保町馬場野尻町南
南野尻沢 3	太白区秋保町馬場野尻町南
南野尻沢 1	太白区秋保町馬場野尻町南
南野尻沢 2	太白区秋保町馬場野尻町南
重九沢	川崎町大字本砂金
下田沢	川崎町大字本砂金
中内野沢 2	川崎町大字本砂金下田
中内野沢 1	川崎町大字本砂金中内野
坂下沢 2	川崎町大字本砂金坂下
本砂金沢 3	川崎町大字本砂金
本砂金沢 2	川崎町大字本砂金
本砂金沢 1	川崎町大字本砂金
山崎沢 1	川崎町大字本砂金
寺沢	川崎町大字本砂金
山崎沢 2	川崎町大字本砂金
坂下沢 1	川崎町大字本砂金坂下
東内野沢 2	川崎町大字本砂金
東内野沢 1	川崎町大字本砂金
中ノ小谷沢	川崎町大字川内
宿沢 3	川崎町大字本砂金
宿沢 2	川崎町大字本砂金宿
宿沢 1	川崎町大字本砂金宿
北沢	川崎町大字本砂金
栃原沢 1	川崎町大字本砂金
栃原沢 2	川崎町大字本砂金
栃原沢 3	川崎町大字本砂金
栃原沢 4	川崎町大字本砂金
栃原沢 5	川崎町大字本砂金
栃原沢 6	川崎町大字本砂金
白具沢	川崎町大字本砂金

「宮城県土砂災害危険箇所図」（平成27年、宮城県）等より作成

表 3.1.3-6(1) 土砂災害危険箇所（急傾斜地崩壊危険箇所）

名称	所在地
平沢の2	泉区芋沢平沢
平沢の1	泉区芋沢平沢
湯船沢	泉区芋沢湯船沢
細棚向芦沢	泉区実沢細棚向芦沢
館	泉区館4丁目
大満寺	泉区小角大満寺
堰田	泉区西田中堰田
朴ノ木山	泉区西田中朴ノ木山
西田中	泉区西田中西田中
杭城山	泉区西田中字杭城山
小山	泉区根白石小山
花輪山	泉区根白石花輪山
青笹山	泉区根白石青笹山
壇ノ原	泉区福岡壇ノ原
新小山	泉区福岡新小山
細野	泉区福岡細野
上菅	泉区福岡上菅
上菅	泉区福岡上菅
中菅	泉区福岡中菅
小家下	泉区福岡小家下
平場	泉区福岡平場
平場	泉区福岡平場
沢ノ口	泉区朴沢沢ノ口
草井原	泉区朴沢草井原
草井原	泉区朴沢草井原
壇ノ原	泉区朴沢壇ノ原
岩下	泉区朴沢岩下
瀬木沢	泉区朴沢瀬木沢
坂下	泉区朴沢坂下
鷹鳥屋	泉区朴沢鷹鳥屋
荒神	青葉区芋沢荒神
要害	青葉区芋沢要害
甲野田南	青葉区芋沢甲野田南
大堀の1	青葉区芋沢大堀
大堀の2	青葉区芋沢大堀
花坂下	青葉区芋沢花坂下
芋沢新田	青葉区芋沢芋沢新田
柿崎	青葉区芋沢柿崎
柿崎下	青葉区芋沢柿崎下
芋沢八幡	青葉区芋沢芋沢八幡
未坂	青葉区芋沢未坂
白坂西	青葉区芋沢白坂西
下田沢の1	青葉区大倉下田沢
下田沢の2	青葉区大倉下田沢
上田沢の1	青葉区大倉上田沢
上田沢の2	青葉区大倉上田沢
下田沢の3	青葉区大倉下田沢
上田沢の3	青葉区大倉上田沢
下田沢の4	青葉区大倉下田沢
下田沢の5	青葉区大倉下田沢
下田沢の6	青葉区大倉下田沢
下田沢の7	青葉区大倉下田沢
西原の1	青葉区大倉西原
西原の2	青葉区大倉西原
西原の3	青葉区大倉西原
西原の4	青葉区大倉西原
西原の5	青葉区大倉西原
西原の6	青葉区大倉西原
西風側	青葉区大倉西風側
矢籠山の3	青葉区大倉矢籠山
向大倉山の1	青葉区大倉向大倉山
向大倉山の2	青葉区大倉向大倉山

表 3.1.3-6(2) 土砂災害危険箇所（急傾斜地崩壊危険箇所）

名称	所在地
向大倉山の3	青葉区大倉向大倉山
向大倉山の4	青葉区大倉向大倉山
向大倉山の3	青葉区大倉向大倉山
向大倉山の5	青葉区大倉向大倉山
向大倉山の2	青葉区大倉向大倉山
向大倉山の6	青葉区大倉向大倉山
大倉薬師	青葉区大倉薬師
向大倉山の1	青葉区大倉向大倉山
岩下	青葉区大倉岩下
下倉	青葉区大倉下倉
南ノ沢	青葉区大倉南ノ沢
岩下	青葉区大倉岩下
佐井利の1	青葉区大倉佐井利
佐井利の2	青葉区大倉佐井利
赤坂2丁目	青葉区赤坂2丁目
棒目木	青葉区作並棒目木
湯ノ原の2	青葉区作並湯ノ原
作並の1	青葉区作並新坂
みやぎ台の2	青葉区みやぎ台5丁目
みやぎ台の1	青葉区みやぎ台5丁目
みやぎ台3丁目	青葉区みやぎ台3丁目
みやぎ台1丁目	青葉区みやぎ台1丁目
秋保町長袋	太白区秋保町長袋町
館	太白区秋保町長袋館
境野辺田山	太白区秋保町境野辺田山
辺田山	太白区秋保町境野辺田山
辺田山	太白区秋保町境野辺田山
館南の1	太白区秋保町長袋館
館南の2	太白区秋保町長袋館
野尻	太白区秋保町境野野尻
上戸	太白区秋保町境野上戸
館山原	太白区秋保町長袋館山原
前山	太白区秋保町長袋前山
野尻町南の1	太白区秋保町馬場野尻町南
野尻町南の2	太白区秋保町馬場野尻町南
西向の1	太白区秋保町馬場西向
西向の2	太白区秋保町馬場西向
西向の3	太白区秋保町馬場西向
大杉の2	太白区秋保町馬場大杉
大杉の1	太白区秋保町馬場大杉
中	太白区秋保町馬場中
馬場山口	太白区秋保町馬場山口
辺田	太白区秋保町馬場辺田
土蔵	太白区秋保町馬場土蔵
町北	太白区秋保町馬場町北
水上北	太白区秋保町長袋水上北
長袋畑の1	太白区秋保町長袋畑、川崎町大字本砂金宿
長袋畑の2	太白区秋保町長袋畑
坂下	川崎町大字本砂金坂下
山崎	川崎町大字本砂金
大城前	川崎町大字本砂金
本砂金	川崎町大字本砂金

「宮城県土砂災害危険箇所図」（平成27年、宮城県）等より作成

表 3.1.3-7 土砂災害危険箇所（地すべり危険箇所）

名 称	所在地
吹付	泉区吹付
栗生 2	青葉区大倉
栗生	青葉区大倉
日向	青葉区大倉
下倉	青葉区下倉
菖蒲沼	青葉区菖蒲沼
馬場	太白区秋保町馬場

「宮城県土砂災害危険箇所図」（平成27年、宮城県）等より作成

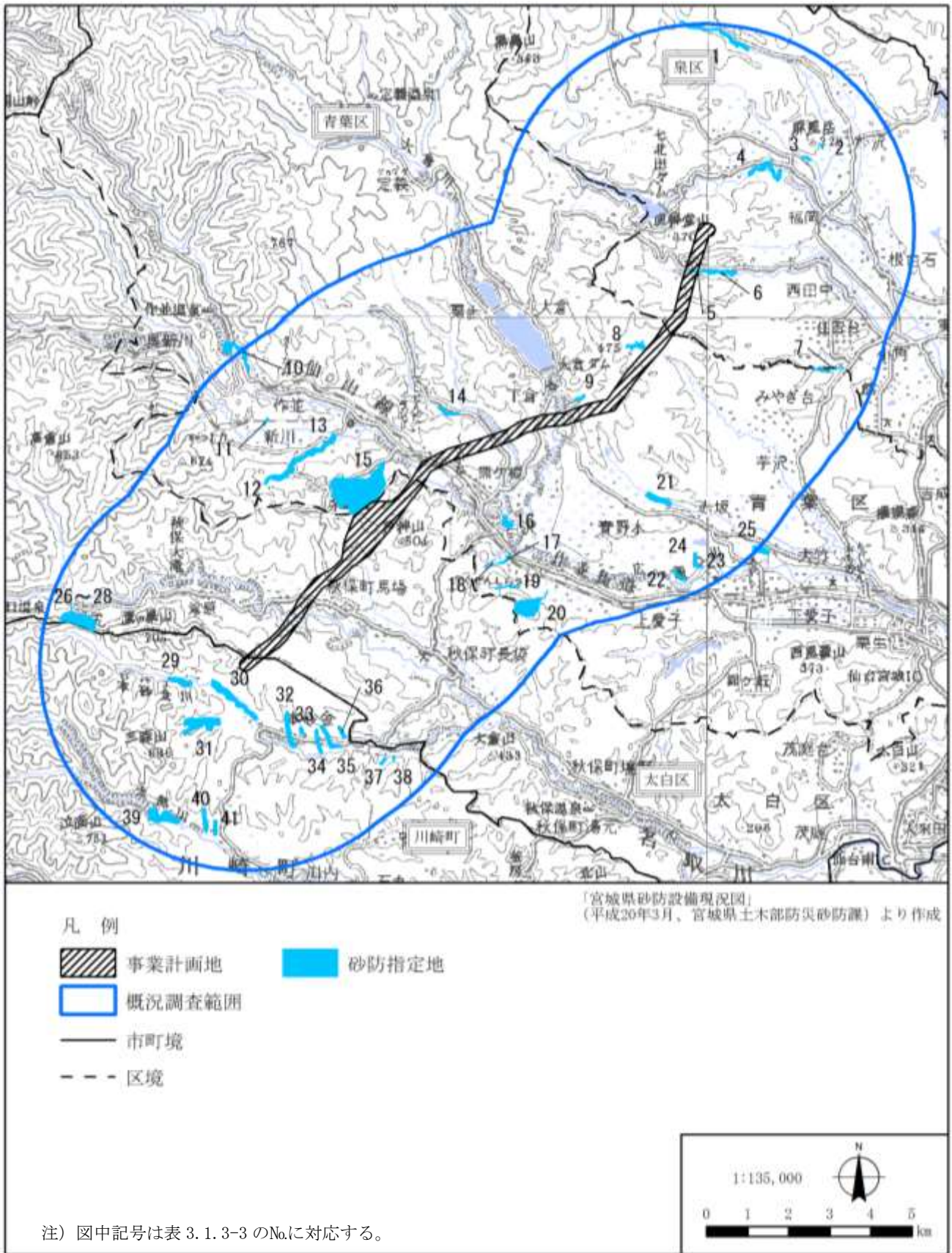


図 3.1.3-5 砂防指定地

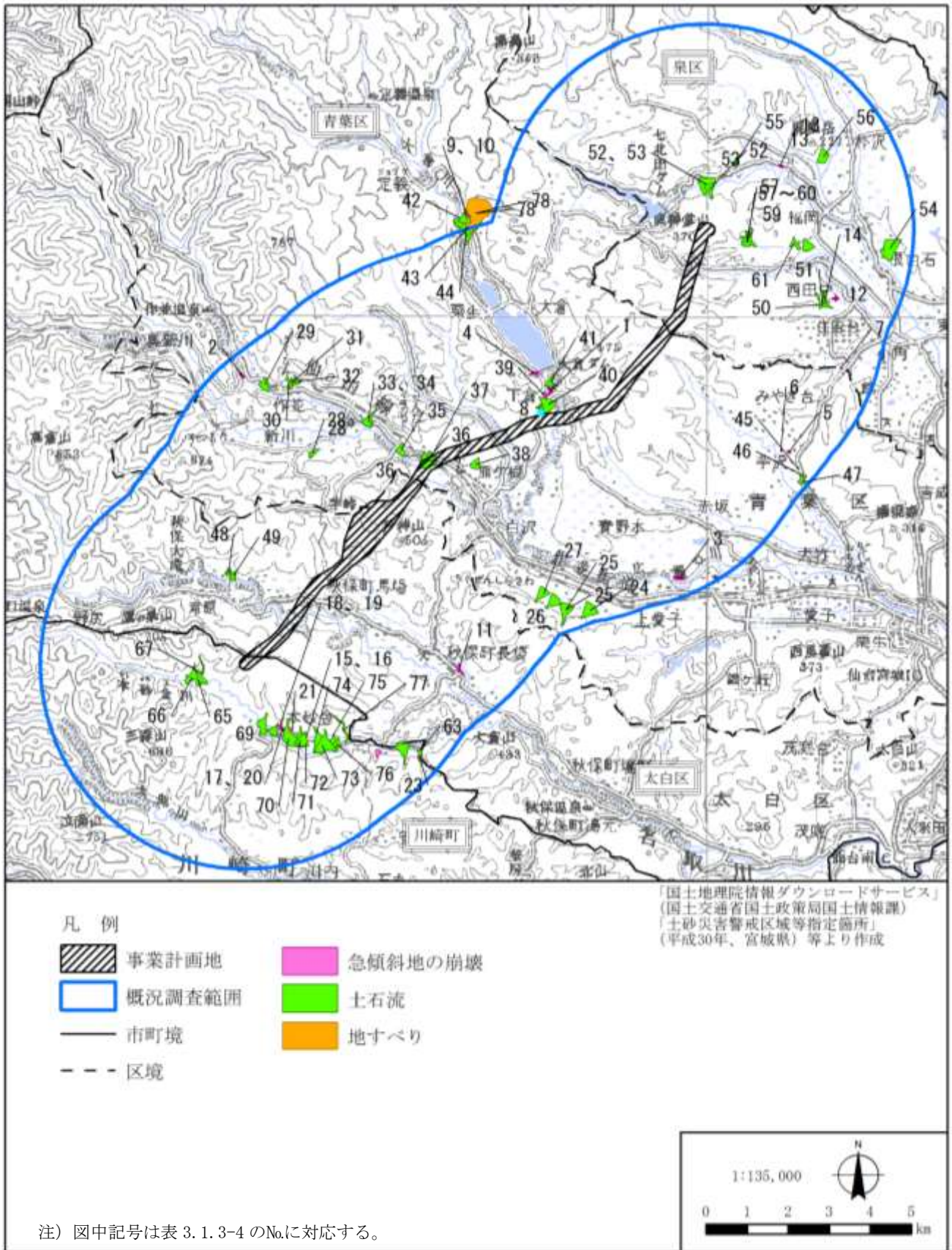


図 3.1.3-6 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

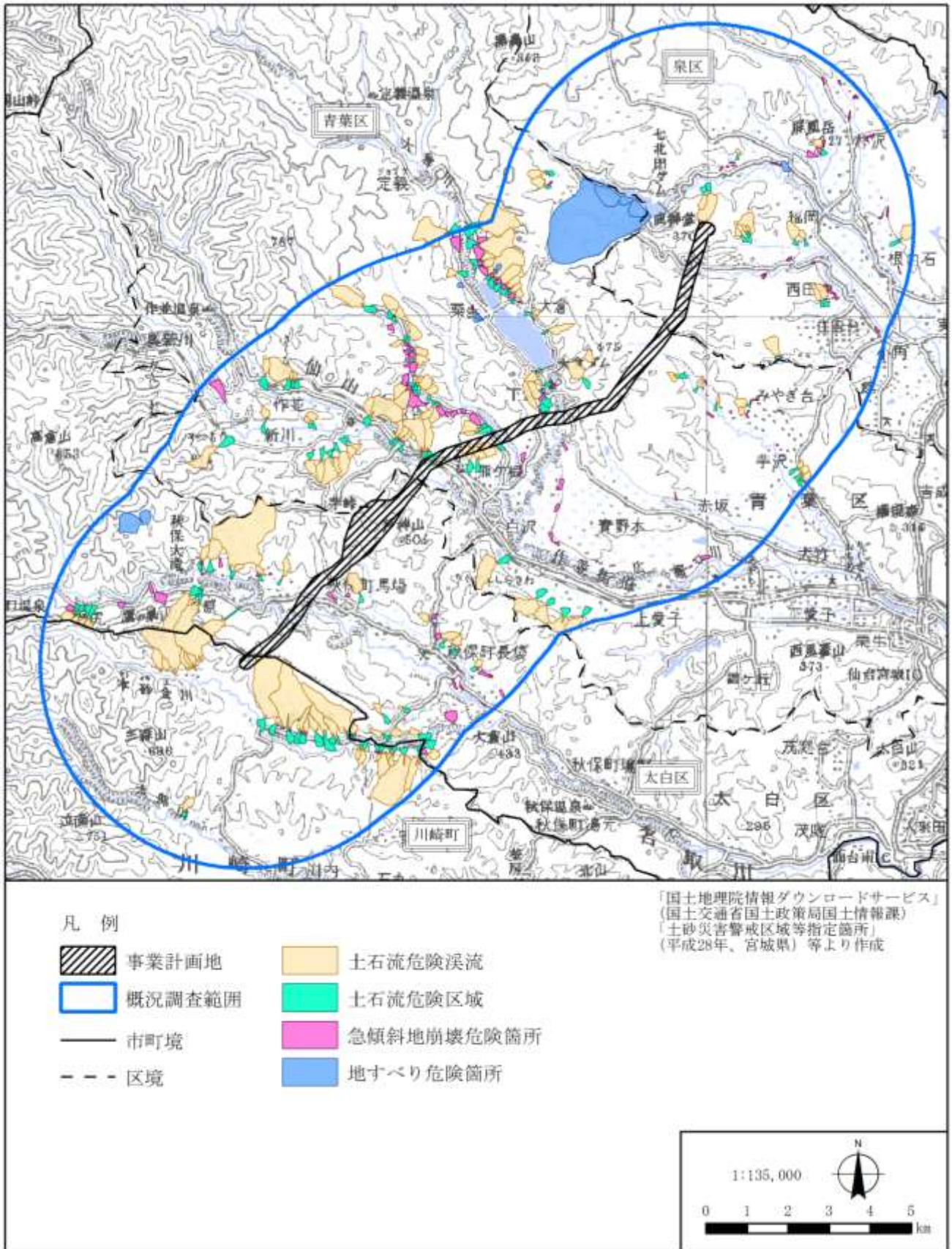


図 3.1.3-7 土砂災害危険箇所

(2) 地盤沈下

1) 地盤沈下の状況

ア. 規制地域の指定状況

宮城県では宮城県公害防止条例及び工業用水法に基づき地下水採取規制を行っているが、調査範囲には「工業用水法」（昭和31年法律第146号）及び「宮城県公害防止条例」（昭和46年宮城県条例第12号）に基づく地下水採取規制地域はない。

イ. 地下水位の観測結果

仙台市では、軟弱地盤地域を中心に水位計及び沈下計を設置し、井戸の深さごとの水位及び地盤収縮量の変動を継続的に観測しているが、調査範囲に地盤沈下測定局及び観測井はない。

ウ. 地盤沈下に係る苦情件数

調査範囲における過去5年間の地盤沈下に係る苦情はない。

2) 影響を受ける施設等の状況

本事業では地下水の汲み上げは行わず、盛土も行わないことから圧密沈下は発生しないと考えられる。

(3) 土壌汚染

1) 土壌汚染の状況

調査範囲においては、過去5年間に2地点で土壌のダイオキシン類調査が行われている。ダイオキシン類の測定結果は表3.1.3-8、調査地点位置は図3.1.3-8に示すとおりであり、全ての地点で環境基準に適合している。

調査範囲においては、土壌汚染対策法に基づく要措置区域等の指定はされていない。

表 3.1.3-8 土壌のダイオキシン類調査結果（平成25年度～平成29年度）

No.	調査地点 名称	区分	測定結果 (pg-TEQ/g)					環境基準 (pg-TEQ/g)
			平成25年 8月30日	平成26年 10月15日	平成27年 8月20日	平成28年 8月19日	平成29年 8月17日	
1	川前小学校	一般 環境	—	0.022	—	—	—	1,000
2	秋保小学校		—	0.075	—	—	—	

注) 1. No. は図3.1.3-8の図中番号に対応する。

2. —は実施していないことを示す。

「公害関係資料集 平成25～29年度測定結果(仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成



図 3.1.3-8 土壌のダイオキシン調査位置

2) 土壌汚染に係る苦情の状況

調査範囲における過去5年間の土壌汚染に係る苦情は表3.1.3-9に示すとおりであり、苦情の報告はない。

表 3.1.3-9 土壌汚染に係る苦情件数の推移

年度 市町名	苦情件数（件）				
	平成25年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
仙台市	0	0	0	0	0

「公害関係資料集 平成25～29年度測定結果(仙台市HP、2018.12.11更新)」より作成

3.1.4 生物環境

(1) 植物

1) 注目すべき植物の状況

仙台市は海岸から奥羽山脈まで市域が広がっており、市内で最も標高が高い船形山では高山帯や亜高山帯の植物が、太平洋に面した沿岸部には暖地系の植物が生育するなど、植物相は非常に多様である。特に仙台市で広い面積を占める丘陵地帯は、暖温帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域であり、暖地系と寒地系の植物の両方が見られる。また、主に標高約 400m以上の山地帯には多雪の日本海側の地域に特徴的に見られる日本海側要素と呼ばれる植物も分布しており、多様な植物相を構成する一因となっている。

調査範囲における注目すべき植物の状況について、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（平成 28 年、宮城県）、「宮城県植物誌 2017」（平成 29 年、宮城植物の会）、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年、仙台市）に記載されている種から調査範囲内に生育が確認されている種を抽出し、そのうち表 3.1.4-1 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として整理した。なお、仙台市における保全上重要な種のうち、減少種については地域区分が「山地地域」及び「西部丘陵地・田園地域」に該当する種とした（表 3.1.4-2 参照）。

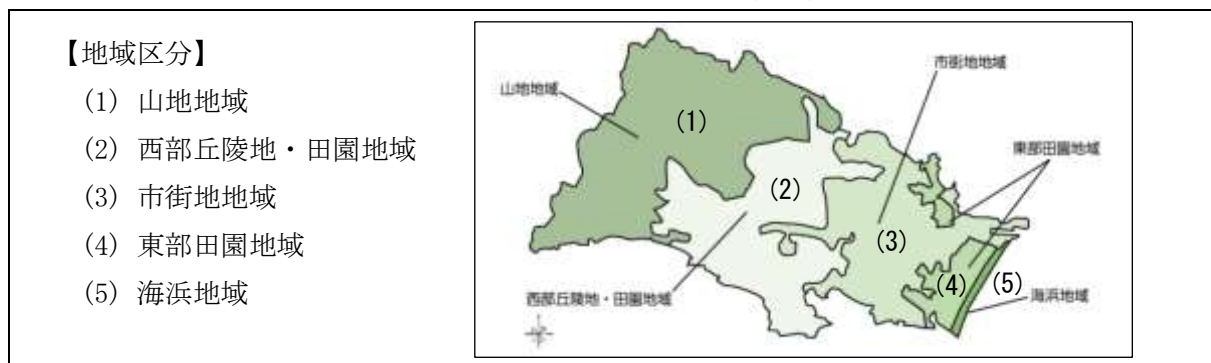
調査範囲における注目すべき植物種は、表 3.1.4-3 に示すとおりである。確認された種数は 108 科 397 種であり、環境省レッドリスト掲載種は 103 種、宮城県レッドデータブック掲載種は 220 種である。

表 3.1.4-1 注目すべき動植物種の選定基準

判断基準		記号等	説明	
仙台市における保全上重要な種	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種、あるいは生息地・生育地がごく限られている種	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティ）となっている種	
		4	1、2、3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
			A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種
			B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
			C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種
			+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
			/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
			・	判断に資する情報がない
	環境指標種	○	本市の各環境分類における環境を指標する種	
レッドデータブック等	「環境省レッドリスト 2019」(平成 31 年、環境省)	EX	絶滅（我が国ではすでに絶滅したと考えられる種）	
		EW	野生絶滅（飼育・栽培下でのみ存続している種）	
		CR+EN	絶滅危惧 I 類（絶滅の危機に瀕している種）	
		CR	絶滅危惧 IA 類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）	
		EN	絶滅危惧 IB 類（IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）	
		VU	絶滅危惧 II 類（絶滅の危険が増大している種）	
		NT	準絶滅危惧（現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）	
		DD	情報不足（評価するだけの情報が不足している種）	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）	
	「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)	EX	絶滅（本県ではすでに絶滅したと考えられる種）	
		EW	野生絶滅（飼育・栽培下でのみ存続している種）	
		CR+EN	絶滅危惧 I 類（本県において絶滅の危機に瀕している種）	
		VU	絶滅危惧 II 類（本県において絶滅の危険が増大している種）	
		NT	準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種）	
		DD	情報不足（評価するだけの情報が不足している種）	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）	
		YO	要注目種（本県では、現時点で普通に見られるものの、特徴ある生息・生育状況等により注目すべき種）	
	「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)	特天	特別天然記念物	
		国天	天然記念物	
	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)	国内	国内希少野生動植物種	
		特定	特定国内希少野生動植物種（上記のうち、商業的に個体の繁殖をさせることができるもの）	
		国際	国際希少野生動植物種	
		緊急	緊急指定種	

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市) 等より作成

表 3.1.4-2 減少種の地域区分



注) 事業計画地は「(1) 山地地域」および「(2) 西部丘陵地・田園地域」に位置する。
 「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020 (改定版)」(平成 28 年、仙台市) より作成

表 3.1.4-3(1) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献		重要種選定根拠									
						仙台市における保全上重要な種				レッドデータブック等					
						①	②	③	学術上重要な種	減少種 山地地域 西部丘陵地・田園地域	環境指標種	環境省 RL	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	スギラン			○	1	・	・		VU	CR+EN			
2		イワヒバ	ヒモカズラ		○	○	1	・	・						
3			イワヒバ		○	○	1	B	B	○					
4		ミズニラ	ミズニラ		○	○	1	・	B		NT	NT			
5		トクサ	イヌスギナ			○		・	B						
6		ハナヤスリ	ヤマハナワラビ			○						VU			
7		ゼンマイ	ヤシャゼンマイ			○	1	C	C			NT			
8		ウラジロ	ウラジロ			○						CR+EN			
9		コケシノブ	コウヤコケシノブ			○	1	・	・						
10			ヒメハイホラゴケ			○	1	・	・						
11			コハイホラゴケ		○	○						VU			
12		イノモトソウ	オオバノイノモトソウ			○	1,2	・	B						
13			イノモトソウ			○	1,2	・	・			NT			
14		チャセンシダ	コタニワタリ		○	○		・	B						
15		オンダ	ナンタイシダ			○	1,2	・	・			YO			
16			リョウメンシダ		○	○		・	B	○					
17			オンダ		○	○		・	B						
18			オオクジャクシダ		○	○	1	・	・						
19			ニオイシダ			○	1,4	・	・						
20			ギフベニシダ		○	○	○	1,2	・	・			CR+EN		
21			キノクニベニシダ			○							VU		
22			アスカイノデ			○	○	2	・	・					
23			アイアスカイノデ			○	○	2	・	・					
24			イワシロイノデ			○	○		・	B					
25			イノデ			○	○	2	・	・					
26			サカゲイノデ			○	○		・	B					
27		ジュウモンジシダ			○	○		・	B	○					
28		ヒメシダ	ハシゴシダ			○						VU			
29			ヒメワラビ			○	2	・	B						
30		メシダ	ホソバイヌワラビ			○		・	C			NT			

表 3.1.4-3(2) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献		重要種選定根拠								
						仙台市における 保全上重要な種				レッドデータブック等				
				①	②	③	学術上重要種	減少種		環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法
31	シダ植物	メンド	トガリバイヌワラビ			○								
32			シケチシダ			○	1,2	・	・				YO	
33			セイタカシケシダ	○		○	1	・	・				VU	
34			イヌガンソク		○	○		・	C					
35			クサソテツ		○	○		・	B					
36			ウラボシ	ヒメサジラン			○	1	B	・				
37				イワオモダカ	○		○	1	B	・			VU	
38			デンジソウ	デンジソウ			○					VU	EW	
39			サンショウモ	サンショウモ		○		1	EX	EX		VU	NT	
40	裸子植物	マツ	モミ		○	○		・	C	○				
41			キタゴヨウ			○	4	B	・					
42			イチイ	カヤ		○	○		・	B				
43	離弁花類	クルミ	オニグルミ		○	○		・	B	○				
44		ヤナギ	ネコヤナギ		○	○	4	・	C	○				
45			シライヤナギ			○	1	・	・			CR+EN		
46			キツネヤナギ		○	○		・	C	○				
47			オオバヤナギ			○	1	B	・			NT		
48			カバノキ	ハンノキ		○	○	1,4	・	C	○			
49		ミズメ			○	○		C	C					
50		ウダイカンバ				○	4	C	C					
51		サワシバ			○	○		C	B	○				
52		アカシデ			○	○		C	B	○				
53		イヌシデ			○	○	4	C	B	○				
54		ブナ		ブナ		○	○	4	C	B				
55				イヌブナ		○	○	1,4	・	B	○			
56			アカガシ		○	○	2	・	C	○				
57			アオナラガシワ			○	1	・	・					
58			アラカシ			○	1,2	・	C			YO		
59			ミズナラ		○	○		C	B					
60			シラカシ		○	○	2	・	C	○				
61			ウラジロガシ		○	○	2	・	C					
62		ニレ	エノキ			○	4	・	B					
63	オヒョウ			○	○		C	・						
64	ケヤキ			○	○		C	C	○					
65	イラクサ	トキホコリ			○	1	・	B		VU	VU			
66		タチゲヒカゲミズ			○					VU	VU			
67		コケミズ			○	1	・	・			NT			
68	ヤドリギ	ホザキヤドリギ			○						NT			
69	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ		○	○	1	・	・		VU	VU			
70	タデ	ヤナギヌカボ		○		1	・	・		VU	YO			
71		イヌタデ		○	○		・	・	○					
72		サデクサ		○		1	・	・			NT			
73		ミゾソバ		○	○		・	C	○					
74		ホソバイヌタデ		○						NT	NT			
75		ノダイオウ		○	○	1,4	・	C		VU	YO			
76		ザクロソウ	ザクロソウ		○	○	1	・	・					
77	ナデシコ	カワラナデシコ		○	○		・	C						
78		タカネナデシコ			○		B	・			VU			
79		ナンブワチガイソウ		○	○	1	・	C		VU	NT			

表 3.1.4-3(3) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献			重要種選定根拠							
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等				
							学術上重要種	減少種 山地地域	西部丘陵地・田園地域	環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法
80	離弁花類	ナデシコ	シラオイハコベ			○	1	・	・					
81			イトハコベ			○					VU	CR+EN		
82			ナガバツメクサ				○					DD		
83		モクレン	タムシバ		○	○			・	・	○			
84		マツブサ	チョウセンゴミシ		○	○			・	A			CR+EN	
85		クスノキ	ヤブニッケイ			○							CR+EN	
86			ヤマコウバシ			○	1,2		・	B				
87			オオバクロモジ		○	○				・	・	○		
88			シロダモ		○	○	2			・	+	○		
89		キンボウゲ	センウズモドキ		○	○						VU	YO	
90			フクジュソウ		○	○	1		・	B			VU	
91			ニリンソウ		○	○				・	B	○		
92			スハマソウ		○	○				・	B			NT
93			キクザキイチゲ		○	○				C	B	○		
94			レンゲショウマ			○	1			・	B			
95			リュウキンカ		○	○				・	・	○		
96			カザグルマ		○	○	1			・	B		NT	VU
97			トウゴクサバノオ		○	○	1			・	B			
98			オキナグサ		○	○	1			・	A		VU	CR+EN
99			バイカモ		○	○	1			・	B			
100		シラネアオイ	シラネアオイ		○	○				B	B	○		
101		メギ	トガクシショウマ			○	1			・	・			
102		ツツラフジ				○							DD	
103		ウマノスズクサ	ミチノクサイシン		○								VU	NT
104			トウゴクサイシン		○	○				・	B	○		
105		ボタン	ヤマシャクヤク		○	○	1		B	B		NT	CR+EN	
106			ベニバナヤマシャクヤク			○	1		A	A		VU	VU	
107		ツバキ	ヤブツバキ		○	○				・	B	○		
108	ナツツバキ				○								VU	
109	オトギリソウ	オシマオトギリ			○			B	B			VU		
110	モウセンゴケ	モウセンゴケ		○	○				・	C				
111	ケン	キケマン			○								VU	
112		ナガミノツルキケマン			○	1			・	C		NT		
113		ヤマブキシソウ			○	○	1			・	B			
114		オサバグサ			○	○							CR+EN	
115	アブラナ	ナズナ		○	○				・	B	○			
116		コイヌガラシ			○							NT	CR+EN	
117	ベンケイソウ	ベンケイソウ			○								VU	
118		チチッパベンケイソウ			○	1			・	・				
119		キリンソウ			○					・	・	○		
120		ミヤママンネングサ			○				B	・			VU	
121	ユキノシタ	トリアシショウマ		○	○				C	B				
122		コガネネコノメソウ		○	○	1,2			・	・				
123		コチャルメルソウ		○	○					・	・	○		
124		タコノアシ		○	○					・	B		NT	
125		ヤシャビシャク			○	1			C	・		NT	VU	
126		ザリコミ			○	1			A	・			CR+EN	
127		トガスグリ			○	1				・	・		VU	
128		シコタンソウ			○	1				・	・		VU	

表 3.1.4-3(4) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献			重要種選定根拠								
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等					
							学術上重要種	減少種 山地地域	西部丘陵地・田園地域	環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法	
129	離弁花類	ユキノシタ	ダイモンジソウ		○	○		・	・	○					
130			エゾクロクモソウ			○	1	・	・						
131			ユキノシタ		○	○		・	B						
132		バラ	チョウセンキンミズヒキ			○					VU	NT			
133			ザイフリボク		○	○	1	・	B						
134			クサボケ			○						CR+EN			
135			ヤマブキ			○		・	C	○					
136			イワキンバイ		○	○		・	・	○					
137			エチゴキジムシロ		○	○		B	B			YO			
138			ミヤマザクラ			○		A	・			CR+EN			
139			カスミザクラ		○	○		・	C	○					
140			ミチノクナシ			○						EN	NT		
141			オオタカネイバラ			○	1	・	・						
142		サナギイチゴ			○		・	B			VU	YO			
143		ミヤマウラジロイチゴ			○	1	・	・				CR+EN			
144		マメ	ノアズキ			○						CR+EN			
145			ツクシハギ		○	○		・	B	○					
146	イヌハギ			○	○	1	・	・		VU	NT				
147	マキエハギ			○	○	1	・	・			NT				
148	オオバタンキリマメ				○		・	C			NT				
149	フウロソウ	コフウロ		○	○	1	・	・							
150	ユズリハ			○	○	1,2	・	C							
151	ミカン	ミヤマシキミ			○	1	・	C							
152	カエデ	ハウチワカエデ		○	○		・	C							
153		イタヤカエデ			○		・	C							
154		メグスリノキ		○	○	1	・	B							
155		ヤマモミジ		○	○		・	B	○						
156		ウリハダカエデ		○	○		・	C							
157	トチノキ	トチノキ		○	○		C	C							
158	モチノキ	イヌツゲ		○	○		・	C							
159		オクノフウリンウメモドキ			○						VU				
160		モチノキ			○						YO				
161		ソヨゴ		○	○	1,2	・	C			NT				
162	クロウメモドキ	ホナガクマヤナギ			○						VU				
163	シナノキ	カラスノゴマ		○	○	1	・	A							
164	ジンチョウゲ	ナニワズ			○						CR+EN				
165	スマレ	エゾノタチツボスミレ			○						NT				
166		サクラスマレ		○	○	1	・	B							
167		フモトスマレ			○	○	1	・	B			VU			
168		ナガハシスマレ		○	○	1	・	B							
169		ヒゴスマレ			○	○		A	・			CR+EN			
170	ミソハギ	ミズマツバ		○	○	○	1	・	・		VU	VU			
171	ヒシ	ヒメヒシ			○		・	A			VU	CR+EN			
172		ヒシ			○	○		・	B	○					
173	アカバナ	ヤナギラン			○		・	A				CR+EN			
174		カラフトアカバナ			○							NT			
175	アリノトウグサ	タチモ		○	○	1	・	・			NT	VU			
176	ミズキ	アオキ		○	○		・	C	○						
177	ウコギ	コシアブラ		○	○		C	C							

表 3.1.4-3(5) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献			重要種選定根拠									
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等						
							学術上重要種	減少種 山地地域	西部丘陵地・田園地域	環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法		
178	離弁花類	セリ	ハナビゼリ		○	○	1	・	・			NT				
179			ミシマサイコ		○	○	1	・	B		VU	CR+EN				
180			オオカサモチ			○	○	1	・	・			NT			
181			イワセントウソウ				○	○	1	・	・					
182			タニミツバ				○	○	1	・	C			VU		
183			サワゼリ				○	○	1	・	・					
184	合弁花類	イワウメ	コイワウチワ		○	○	1,4	C	C	○						
185		イチャクソウ	ウメガサソウ		○	○		・	C	※						
186			ベニバナイチャクソウ		○	○	1	・	・							
187		ツツジ	ヤマツツジ		○	○		・	C	○						
188			シロヤシオ		○	○		C	C	○						
189			トウゴクミツバツツジ		○	○	2	・	B							
190			ナツハゼ		○	○		・	C							
191		ヤブコウジ	ヤブコウジ		○	○		・	・	○						
192		サクラソウ	クリンソウ		○	○	1	B	B				VU			
193			サクラソウ		○	○	1	・	A	○	NT	CR+EN				
194		エゴノキ	オオバアサガラ		○	○	1	・	A							
195		モクセイ	イボタノキ		○	○		・	B	○						
196		マチン	ヒメナエ			○						VU	CR+EN			
197		リンドウ	ホソバツルリンドウ		○	○	1	・	C			VU	VU			
198			イヌセンブリ		○	○	1	・	・			VU	VU			
199		ミツガシワ	アサザ		○	○						NT	VU			
200		ガガイモ	フナバラソウ		○	○	1	・	・			VU	VU			
201			タチガシワ		○	○	1	・	・							
202			スズサイコ		○	○	1	・	A		NT	VU				
203			コカモメヅル			○	○	1	・	・						
204		アカネ	オオキヌタソウ			○		C	・				NT			
205		ムラサキ	サワリソウ			○							CR+EN			
206			ムラサキ		○	○	1	A	A		EN	CR+EN				
207			ルリソウ		○	○		・	C				NT			
208		クマツヅラ	カリガネソウ			○							CR+EN			
209			クマツヅラ		○			・	B				VU			
210		ハマゴウ			○							EX				
211	シソ	ヒロハヤマトウバナ		○	○	1	・	・								
212		フトボナギナタコウジュ		○	○	1,2	・	・								
213		キセウタ		○							VU	VU				
214		シラゲヒメジソ			○	○	1	・	・				YO			
215		タテヤマウツボグサ		○	○	1	・	・								
216		タイリンヤマハッカ		○	○		・	C					NT			
217		イガタツナミソウ			○	○							NT			
218		エゾニガクサ		○	○	1	・	・		EN	CR+EN					
219	ナス	ヤマホロシ			○							VU				
220	ゴマノハグサ	マルバサワトウガラシ		○	○		・	B		VU	VU					
221		アブノメ		○	○		・	B				VU				
222		オオアブノメ			○	○	1	・	・		VU	YO				
223		スズメノトウガラシ			○	○							NT			
224		サギゴケ		○	○		・	C	○							
225		ヒヨクソウ		○	○		C	・					NT			
226		カワヂシャ			○	1	・	・		NT	NT					

表 3.1.4-3(6) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献			重要種選定根拠							
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等				
							学術上重要種	減少種 山地地域	西部丘陵地・田園地域	環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法
227	合弁花類	ハマウツボ	オオナンパンギセル			○	1	B	B					
228		タヌキモ	ムシトリスミレ			○	1	・	・					
229			ホザキノミミカキグサ			○						CR+EN		
230			ヒメタヌキモ		○	○	1	・	A		NT	CR+EN		
231			イヌタヌキモ		○	○	1	・	B		NT	VU		
232			ムラサキミミカキグサ		○	○	1	・	A		NT	NT		
233		オオバコ	オオバコ		○	○			・	・	○			
234		スイカズラ	ニッコウヒョウタンボク			○	1, 2	・	・			YO		
235			オオカメノキ		○	○		・	・	○				
236		レンブクソウ	レンブクソウ			○	1	・	・			NT		
237		オミナエシ	オミナエシ		○	○		・	B	○				
238		マツムシソウ	マツムシソウ		○	○	1	A	A					
239		キキョウ	モイワシャジン			○						YO		
240			シデシャジン			○	1	・	・					
241			キキョウ		○	○	1	・	B	○	VU	VU		
242		キク	オクモミジハグマ		○	○		・	C	○				
243			キッコウハグマ		○	○		・	B	○				
244			シオン		○						VU			
245			オケラ		○	○		・	B	○				
246			エゾノタウコギ		○	○			B	B			VU	
247			モリアザミ		○	○							NT	
248			リクゼニアザミ		○	○							NT	
249			アワコガネギク		○	○		・	C		NT			
250			アズマギク		○	○	1	・	B	○		VU		
251			アキノハハコグサ			○						EN	VU	
252			タカサゴソウ		○	○			B	・		VU	VU	
253	カシワバハグマ				○			・	B			VU		
254	コウヤボウキ				○							CR+EN		
255	オオニガナ			○	○	1	・	C				NT		
256	シュウブソウ				○	○	1, 2	・	・					
257	ミヤコアザミ				○	○	1	・	A			CR+EN		
258	ヒメヒゴタイ				○	○	1	・	・		VU	CR+EN		
259	アキノキリンソウ			○	○			・	C	○				
260	エゾタンポポ			○	○			・	C	○				
261	単子葉植物	オモダカ	ヘラオモダカ		○	○		・	C	○				
262			サジオモダカ			○		・	C	○		NT		
263			アギナシ		○	○		・	C	○	NT	VU		
264			ウリカワ			○		・	C	○				
265			オモダカ		○	○		・	C	○				
266			ホソバオモダカ			○		・	C	○				
267		トチカガミ	ヤナギスブタ		○							VU		
268			クロモ		○	○		・	B	○				
269			ミズオオバコ		○		1	・	B		VU	NT		
270		ホロムイソウ	シバナ			○					NT	CR+EN		
271	ヒルムシロ	エビモ		○	○			・	B	○				
272			コバノヒルムシロ		○	○		・	C	○	VU	VU		
273			ヒルムシロ		○	○		・	C	○				
274			フトヒルムシロ		○	○		・	C	○				
275			オオミズヒキモ			○		・	C	○				

表 3.1.4-3(7) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献		重要種選定根拠											
						仙台市における 保全上重要な種				レッドデータブック等							
				①	②	③	学術上重要種	減少種 山地地域 西部丘陵地・田園地域		環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法			
276	単子葉植物	ヒルムシロ	センニンモ			○		・	C	○		VU					
277			オヒルムシロ		○	○		・	C	○							
278			ホソバミズヒキモ		○	○		・	C	○		VU					
279			イトモ		○	○	1	・	C		NT	YO					
280		イバラモ	ホッサモ		○	○		B	・			VU					
281			イトトリゲモ			○	1	・	B		NT	NT					
282			トリゲモ			○	1	・	B		VU	CR+EN					
283			オオトリゲモ			○	1	・	B			CR+EN					
284			ツツイトモ			○					VU	CR+EN					
285			リュウノヒゲモ			○					NT	CR+EN					
286		ホンゴウソウ	ホンゴウソウ		○						VU	CR+EN					
287		ユリ	ギョウジャニンニク			○							CR+EN				
288			カタクリ		○	○		・	B								
289			シヨウジョウバカマ		○	○		・	B	○							
290			ニッコウキスゲ			○		・	B								
291			コオニユリ		○	○		・	B								
292			ヤマスカシユリ			○	1	B	・		NT	CR+EN					
293			ヒメヤブラン		○	○		・	C	※							
294			オオバジャノヒゲ		○	○		・	B								
295			クルマバツクバネソウ			○							VU				
296			ユキザサ		○	○		・	C	○							
297			マルバサンキライ		○			・	A				CR+EN				
298			キンバイザサ	コキンバイザサ		○		1, 2	EX	EX				EX			
299			ミズアオイ	ミズアオイ			○		・	・	○	NT					
300		コナギ			○	○		・	・	○							
301		アヤメ	ヒオウギ			○	1	・	・				CR+EN				
302			ノハナショウブ		○	○	1	・	C	○							
303	ヒメシャガ			○	○		・	B	○	NT	NT						
304	カキツバタ			○	○	1	・	B		NT	VU						
305	ツユクサ	ヤブミョウガ		○			・	A				CR+EN					
306	ホシクサ	ホシクサ		○	○	1	・	・				YO					
307	イネ	ヒメコスカグサ		○							NT						
308		ヤマアワ		○	○		・	B									
309		メヒシバ		○	○		・	・	○								
310		カゼクサ		○	○		・	B	○								
311		オオウシノケグサ		○	○	4	・	B	※								
312		ウキガヤ		○			・	・				NT					
313		オギ			○		・	C	○								
314		ヨシ		○	○		・	C	○								
315		ツルヨシ			○		・	C	○								
316		アキウネマガリ		○	○	1	・	・					CR+EN				
317		オオクマザサ			○	3	・	・									
318		スエコザサ			○	3	・	・									
319		スズタケ			○		・	C	○								
320		マコモ			○		・	B	○								
321		シバ			○	○		・	B	○							
322		サトイモ	ヒメカイウ		○	○	1	・	・		NT	CR+EN					
323	ミズバショウ				○		・	B	○								
324	ヒメザゼンソウ				○	○		・	B								

表 3.1.4-3(8) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献			重要種選定根拠								
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等					
							学術上重要種	減少種 山地地域	西部丘陵地・田園地域	環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法	
325	単子葉 植物	ミクリ	ミクリ		○	○	1	・	B	○	NT	NT			
326			ヤマトミクリ		○	○	1	・	A		NT	CR+EN			
327			タマミクリ			○	1	A	・			NT	CR+EN		
328			ナガエミクリ		○	○	1	・	A			NT	NT		
329			オオミクリ			○						VU	CR+EN		
330			ガマ	ヒメガマ		○	○		・	C					
331		ガマ				○		・	C	○					
332		カヤツリグサ	ジョウロウスゲ			○					VU	CR+EN			
333			ハコネイトスゲ		○	○		・	A			CR+EN			
334			サナギスゲ			○		・	A			CR+EN			
335			ヤマクボスゲ	○	○	○	1	・	・		NT	VU			
336			タチスゲ	○	○	○	1	・	・			CR+EN			
337			ノゲヌカスゲ			○							YO		
338			タヌキラン		○	○		・	・		○				
339			マメスゲ	○	○		1	・	・			CR+EN			
340			オオカサスゲ		○	○			B	B					
341			センダイスゲ			○	4	・	・						
342			オニナルコスゲ		○	○			C	・			NT		
343			ニイガタガヤツリ		○	○						CR	YO		
344			チシママツバイ			○						VU	CR+EN		
345			サギスゲ		○	○			C	C			NT		
346			ミチノクホタルイ		○	○							VU		
347			フトイ		○	○			・	B					
348			カンガレイ		○	○			・	B					
349			サンカクイ		○	○			・	B					
350			ラン	コアニチドリ			○	1	A	・		VU	CR+EN		
351				エビネ		○	○	1	・	A		NT	VU		
352		キンセイラン				○	1	・	B		VU	CR+EN			
353		サルメンエビネ			○	○	1	・	B		VU	CR+EN			
354		ユウシュンラン			○	○	1	・	B		VU	NT			
355		キンラン			○	○	1	B	B		VU	VU			
356		トケンラン				○						VU	CR+EN		
357	シュンラン			○	○			・	C	○					
358	コアツモリソウ				○	1	・	B		NT	CR+EN				
359	クマガイソウ				○	1	B	A		VU	CR+EN				
360	アツモリソウ			○	○	1	・	A		VU	CR+EN		特定		
361	イチヨウラン				○	1	・	・			CR+EN				
362	セッコク				○	1	EX	EX			CR+EN				
363	エゾスズラン			○	○	1	・	A			NT				
364	アオキラン				○	1	・	・		CR	CR+EN				
365	シロテンマ			○						CR	VU				
366	ノビネチドリ			○				B	・		VU				
367	ミヤマモジズリ				○	1	B	・			CR+EN				
368	オオミズトンボ			○		1	・	B		EN	CR+EN				
369	サギソウ			○	○	1	B	A		NT	CR+EN				
370	ミズトンボ			○	○	1	・	A		VU	CR+EN				
371	ムカゴソウ			○		1	・	・		EN	VU				
372	ヒメノヤガラ			○	○	1	・	・		VU	VU				
373	ギボウシラン			○	○	1	C	・		EN	CR+EN				

表 3.1.4-3(9) 注目すべき植物種

No.	分類	科名	種名	文献		重要種選定根拠									
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等					
							学術上重要種	減少種 山地地域 西部丘陵地・田園地域		環境指標種	環境省 R	宮城県 RDB	文化財保護法	種の保存法	
374	単子葉 植物	ラン	フガクスズムシソウ		○		1	・	・		VU	CR+EN			
375			ジガバチソウ		○	○			・	C			NT		
376			セイタカスズムシソウ				○						CR+EN		
377			クモキリソウ		○	○		1, 4	・	B					
378			スズムシソウ				○						CR+EN		
379			ヒメフタバラン		○	○		2	・	・			YO		
380			アオフタバラン				○						VU		
381			ヒナチドリ		○	○		1	・	A		VU	CR+EN		
382			カモメラン				○	1	B	・		NT	CR+EN		
383			オノエラン				○	1	B	・					
384			ウチョウラン		○	○		1	B	A		VU	CR+EN		
385			タカネトンボ				○					VU	CR+EN		
386			ミズチドリ		○	○			B	B			VU		
387			ツレサギソウ		○	○			C	C			NT		
388			マイサギソウ				○	1	・	・			CR+EN		
389			オオバノトンボソウ		○				・	B			VU		
390			トキシソウ		○	○		1	・	A		NT	VU		
391			ヤマトキシソウ		○				・	A			CR+EN		
392			マツラン				○	1	・	B		VU	CR+EN		
393			カヤラン		○	○		1	・	B			VU		
394	ネジバナ		○	○			・	B	○						
395	イイヌママカゴ		○	○		1	・	・		EN	CR+EN				
396	ハクウンラン		○	○		1	・	・			VU				
397	ショウキラン				○	1	B	・			CR+EN				
合計	—	108 科	397 種	7 種	238 種	371 種	181 種	62 種	212 種	89 種	103 種	220 種	0 種	1 種	

注) 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)
- ② 「宮城県植物誌 2017」(平成 29 年、宮城植物の会)
- ③ 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については EX, A, B, C に該当する種数を合計した。

※ ウメガサソウ、ヒメヤブラン、オオウシノケグサは仙台市の環境指標種に指定されているが、指標する環境の内容が「海岸防潮林の自然環境」とされていることから、合計には含めていない。

2) 植生及び保全上重要な植物の生育地の状況

ア. 植生

調査範囲の現存植生は、図 3.1.4-1 に示すとおりである。

仙台市の山地地域には「クリーコナラ群集」、「スギ・ヒノキ・サワラ植林」が広がり、標高の高い地域では「クレーミズナラ群集」、「チシマザサープナ群団」が見られる。また、西部丘陵地・田園地域には「水田雑草群落」、「緑の多い住宅地」等が見られる。大倉ダム、七北田ダムや七北田川、広瀬川、名取川の水域周辺には「ケヤキ群落 (IV)」、「ヤナギ低木群落 (IV)」、「ヨシクラス」といった植生が見られる。

「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年 3 月、仙台市) では「自然性の高い植生」として、環境省の植生自然度 9、10 に該当する「チシマザサープナ群団」等の自然植生を挙げている。また、「希少性の高い植生」及び「脆弱性の高い植生」を選定している。

植生自然度の区分基準を表 3.1.2-18 (p3.1-41) に、仙台市における植生の特性区分、判断理由及び調査範囲においてこれらの特性に該当する植生を表 3.1.4-4 に、その位置を図 3.1.4-2 に示す。なお、事業計画地には自然性の高い植生のうちケヤキ群落 (IV) 及びヤナギ低木群落 (IV) の一部が存在する。

表 3.1.4-4 植生の特性区分及び判断理由

特性区分	判断理由	調査範囲において該当する植生
希少性の高い植生	仙台市において分布面積が少ない植生。または、人為的に他の植生に置き換えられるなど、現在では少ない面積しか認められない植生。	該当なし
脆弱性の高い植生	立地環境の特殊性が高く、人為による影響が顕著に表れやすいと考えられる植生。急峻な尾根や湿地等、特殊な立地に成立する植生が該当する。	クロベークタゴヨウ群落、ジュウモンジシダーサワグルミ群集、ケヤキ群落 (IV)、ハンノキ群落 (IV)、ヒメヤシャブシータニウツギ群落、ヒルムシロクラス
自然性の高い植生	環境省の植生自然度 9、10 (自然植生) に該当する植生。	チシマザサープナ群団、イヌブナ群落、モミーイヌブナ群集、クロベークタゴヨウ群落、アカマツ群落 (IV)、ジュウモンジシダーサワグルミ群集、ケヤキ群落 (IV)、ハンノキ群落 (IV)、ヤナギ高木群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV)、ヒメヤシャブシータニウツギ群落、ヨシクラス、ツルヨシ群集、ヒルムシロクラス

「平成 27 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 28 年 3 月、仙台市)
「自然環境調査 Web-GIS」(環境省自然環境局生物多様性センターHP) より作成

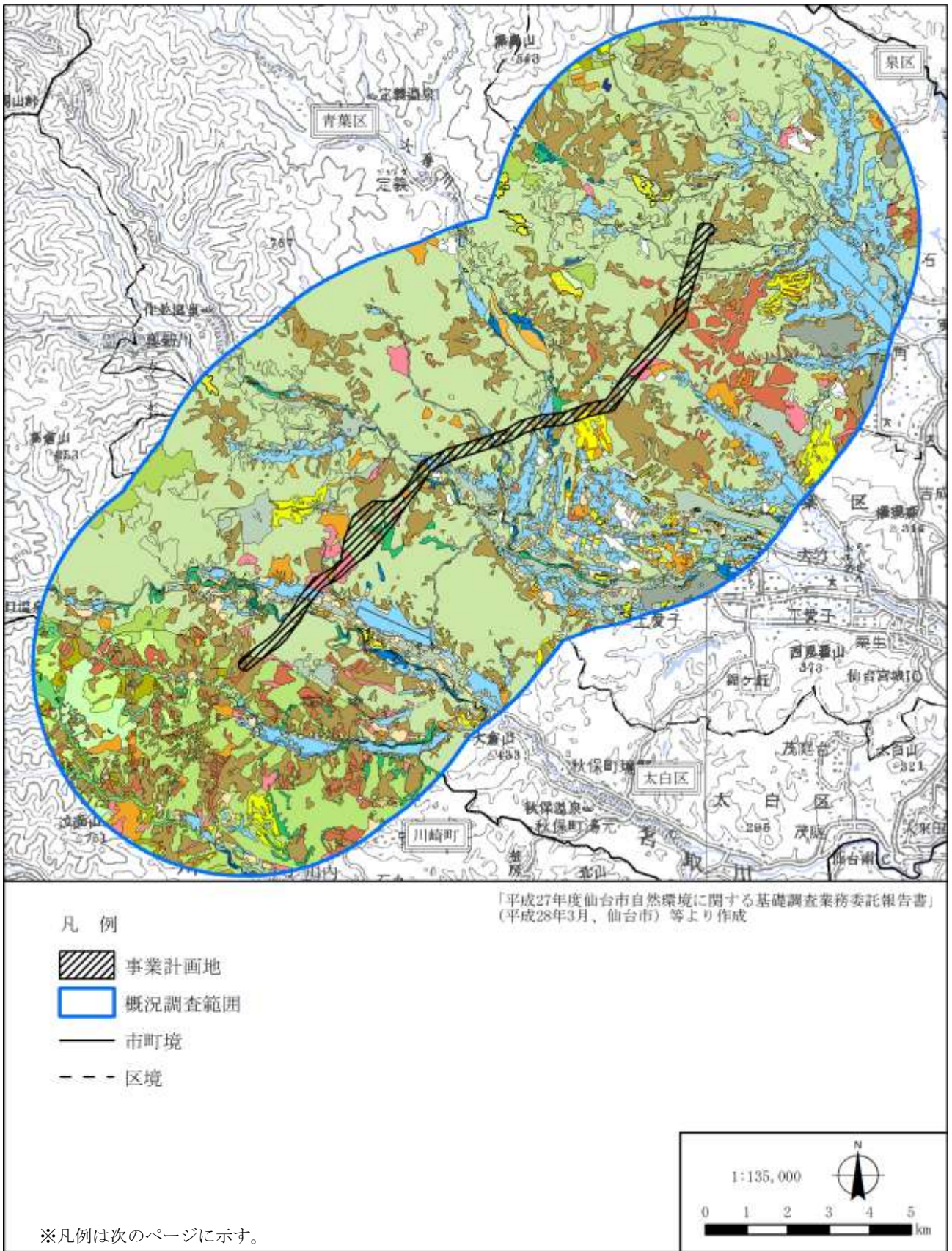


図 3.1.4-1 (1) 現存植生

＜植生凡例＞

<p>ブナクラス域自然植生</p> <ul style="list-style-type: none"> チシマザサ-ブナ群団 イヌブナ群落 モミーイヌブナ群集 クロバキタゴヨウ群落 アカマツ群落 (IV) ジュウモンジシダーサワグルミ群集 ケヤキ群落 (IV) ハンノキ群落 (IV) ヤナギ高木群落 (IV) ヤナギ低木群落 (IV) ヤマハンノキ群落 ヒメヤシブシータニウツギ群落 	<p>河辺・湿原・沼沢地・砂丘植生</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨシクラス ツルヨシ群集 ヒルムシロクラス
<p>ブナクラス域代償植生</p> <ul style="list-style-type: none"> プナーミズナラ群落 クリーミズナラ群集 オオバクロモジミズナラ群集 コナラ群落 (V) オニグルミ群落 (V) アカマツ群落 (V) 落葉広葉低木群落 タニウツギノリウツギ群落 ササ群落 (V) ススキ群団 (V) 伐採跡地群落 (V) 	<p>植林地・耕作地植生</p> <ul style="list-style-type: none"> スギ・ヒノキ・サワラ植林 アカマツ植林 カラマツ植林 竹林 ゴルフ場・芝地 牧草地 路傍・空地雑草群落 放棄畑雑草群落 果樹園 畑雑草群落 水田雑草群落 放棄水田雑草群落
<p>ヤブツバキクラス域代償植生</p> <ul style="list-style-type: none"> クリーコナラ群集 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地 緑の多い住宅地 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 造成地 開放水域 自然裸地

図 3.1.4-1 (2) 現存植生

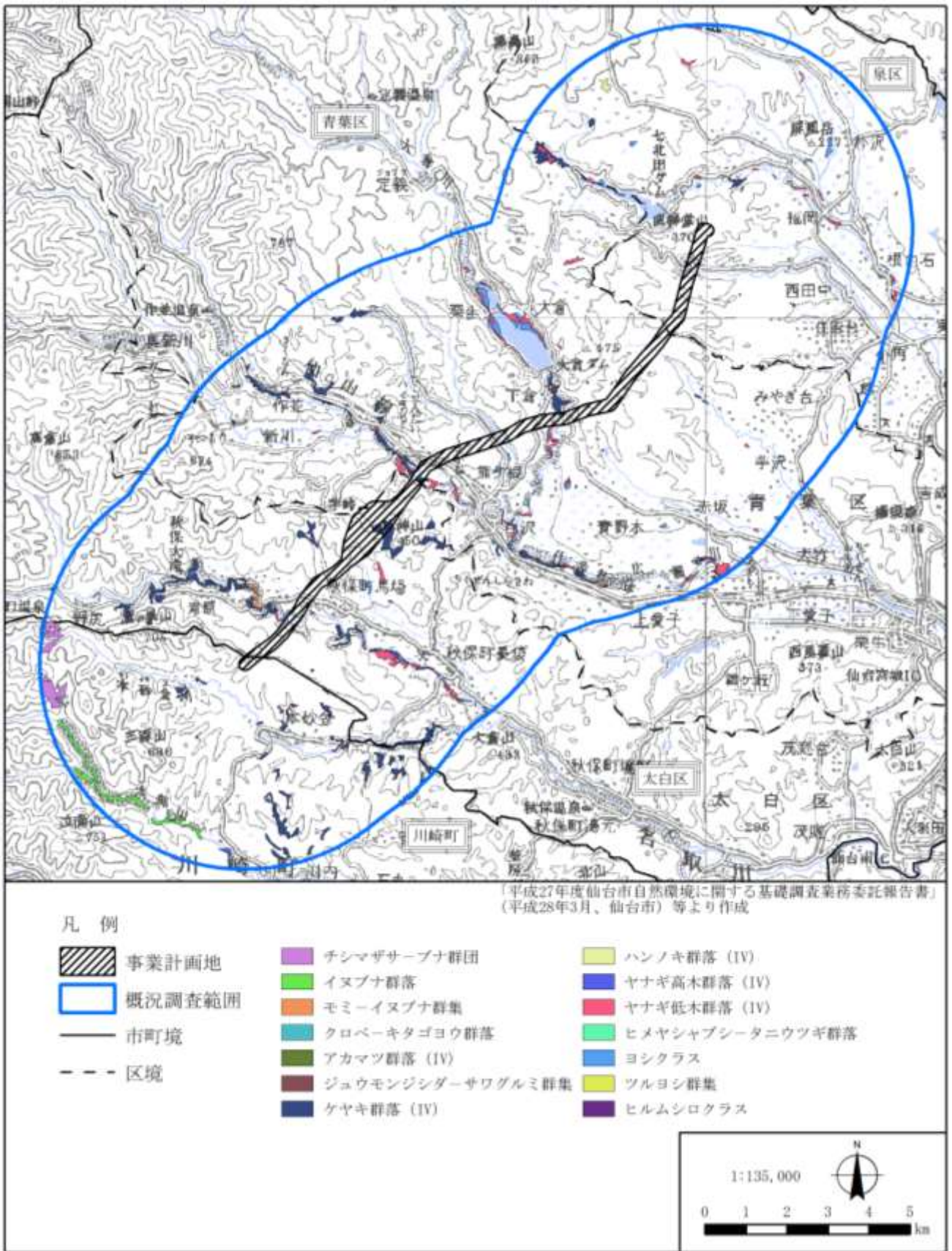


図 3.1.4-2 自然性及び脆弱性の高い植生位置

イ. 保全上重要な植物の生育地

調査範囲における注目すべき植物群落位置は図 3.1.4-3 に示すとおりである。「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月、仙台市）では、表 3.1.4-5 に示す選定基準により「植物生育地として重要な地域」を表 3.1.4-7 のとおり選定している。

また、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（平成 28 年、宮城県）では、表 3.1.4-6 に示す「特定植物群落選定基準」（環境省生物多様性センター）により、「希少な植物群落」を表 3.1.4-8 のとおり選定しているほか、環境省は平成 28 年に全国 500 箇所「生物多様性保全上重要な里地里山」を表 3.1.4-9 のとおり選定している。

なお、事業計画地には、「根白石（朴沢・実沢・福岡）地域及び西田中地域の里地・里山植生」、「奥武士・大倉地区の里地・里山植生」、「奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生」、「大倉・芋沢丘陵地の植生」、「秋保地区の里山」等が存在する。

表 3.1.4-5 重要な地域の選定基準

No.	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海辺や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月、仙台市）より作成

表 3.1.4-6 希少な植物群落の選定基準

No.	特定植物群落選定基準
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内の若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界となる産地に見られる植物群落又は個体群
D	砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落

「日本の重要な植物群落Ⅱ 東北版2 宮城県・福島県」(昭和63年、環境庁)より作成

表 3.1.4-7 注目すべき植物群落（植物生育地として重要な地域）

No.	地域名	対象	備考
1	芳の平のミズバショウ 自生地	植物	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳の南麓の芳の平にある中層-低層湿原。ハンノキ、ヤチダモの下層にミズバショウが群生する。ミズバショウ群生地としては面積も大きく、個体数が多い。乾燥化が懸念されており、基礎調査を実施中。
2	鎌倉山のケヤキ林	植物	県立自然公園二口峡谷。標高 375m の岩峰の山麓に形成された岩錐地に成立するケヤキが優占する林。30～40 年前の伐採跡に萌芽再生したものと思われるが、土壌的極相に近い組成であり貴重である。
3	鎌倉山の岸壁植物群落	植物	県立自然公園二口峡谷。標高 375m の岩峰の垂直崖に成立。イワキンバイ、イワデンダ、キリンソウ、スカシユリ等の耐乾性の草本が多く出現する。
4	棒目木のケヤキ林	植物	県立自然公園二口峡谷。丘陵南斜面の岩盤が露出する急傾斜地に成立するケヤキが優占する林。多少人為が加わっているが、土壌的極相に近い林分（森林）である。
5	黒森山国有林のソヨゴ 林と周辺の植生	植物	権現森緑地環境保全地域。仙台市を分布北限とするソヨゴが小群落を形成している。
6	名取川・広瀬川中～下 流域の河畔植生	植物	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場としても極めて貴重。
7	七北田川下流域の河畔 植生	植物	ヨシ群落自然植生度 10 のヨシクラスを主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場として極めて貴重。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。
8	朴沢のモミ林	植物	朴沢地区の国道 457 号線沿いに残存するモミ高木が林立する小林分。
9	根白石（朴沢・実沢・ 福岡）地域及び西田中 地域の里地・里山植生	植物	市街地の北西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。
10	奥武士・大倉地区の里 地・里山植生	植物	市街地の西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。
11	奥羽山脈～青葉山丘陵 地域の植生	植物	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。また、青葉山は、狭い地域内に 800 種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。
12	大倉・芋沢丘陵地の植 生	植物	市街地の中央部から北西にかけて位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。
13	秋保地区の里山	植物	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。
14	泉ヶ岳一帯	植物	県立自然公園船形連峰。良好なブナ、ミズナラ帯が残り、野生動植物のハビタットとして重要。

注) No. は図 3.1.4-3 の図中番号に対応する。

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月、仙台市）より作成

表 3.1.4-8 注目すべき植物群落（希少な植物群落）

No.	希少群落名	植生・群落 タイプ	所在地	面積 (ha)	備考
15	芳の平のハンノキ・ミズバショウ群落	冷帯温林・ハンノキ群落	泉区福岡	4	仙台市指定天然記念物、特定植物群落（対照番号 120）
16	鎌倉山のケヤキ群落	中間温帯林・ケヤキ群落	青葉区作並	0.2	特定植物群落（対照番号 121）
17	鎌倉山の植物群落	岩壁植生	青葉区作並	0.2	特定植物群落（対照番号 122）
18	棒目木のケヤキ群落	中間温帯林・ケヤキ群落	青葉区熊ヶ根	0.1	特定植物群落（対照番号 123）

注) No. は図 3.1.4-3 の図中番号に対応する。

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（平成 28 年、宮城県）より作成

表 3.1.4-9 生物多様性保全上重要な里地里山

No.	地域名	選定理由
a	奥武士・大倉地区	市の中西部に位置する、水田やため池、山林、山地草原のススキ草原などがモザイク状に広がる農村地域である。 都市近郊に位置しながら、「里地里山植生が良好な状態で残されている地域」として、市の「植物生育地として重要な地域」に選定されており、トウホクサンショウウオやヒメギフチョウなど希少な動植物の生息・生育が確認されている。また、豊かな里地里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。
b	根白石（朴沢・実沢・福岡）、西田中地区	市の北部に位置し、古くから薪炭生産等が盛んに行われてきた山村地域である。 手入れの行き届いた二次林、農地などモザイク状の土地利用形態が維持され、「里地里山植生が良好な状態で残されている地域」として、市の「植物生育地として重要な地域」に選定されており、サンショウクイやアオハダトンボなど希少な動植物の生息・生育が確認されている。また、豊かな里地里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。

注) 記号は、a が 図 3.1.4-3 の図中番号 10 及び図 3.1.4-4 の図中番号 8、b が図 3.1.4-3 の図中番号 9 及び図 3.1.4-4 の図中番号 9 に対応する。

「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省 HP）より作成

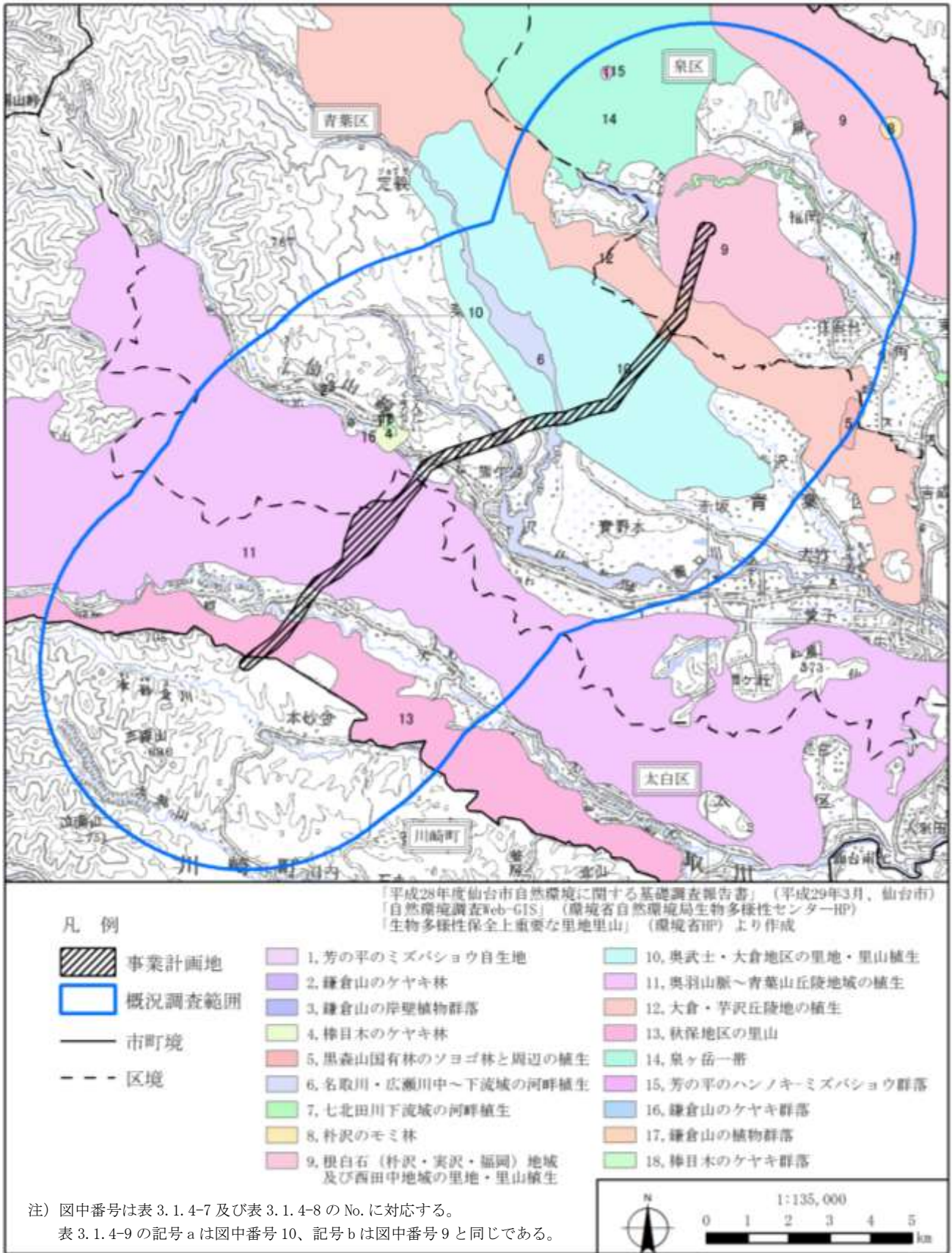


図 3.1.4-3 注目すべき植物群落位置

(2) 動物

1) 注目すべき動物の状況

仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域にはツキノワグマやカモシカをはじめとした哺乳類が生息している。近年はツキノワグマ、カモシカの低地丘陵への分布拡大が確認されている。鳥類では森林性の種が多く分布し、イヌワシやクマタカ等の猛禽類の生息も確認されている。爬虫類では自然度が高い林床を好むタカチホヘビなども生息している。両生類では山地の溪流にキタオウシュウサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標とするカジカガエルも生息している。魚類では山地の溪流にニッコウイワナ、カジカ等が生息する一方で、丘陵地の池沼等には移入種が定着しており、在来の種の生息が脅かされている。昆虫類では森林性の昆虫類が多数生息し、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではトンボ類も多く生息している。

市街地や田園地域では、人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が多くの動物にとって貴重な生息場所となっている。

調査範囲における注目すべき動物の状況を「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（平成 28 年、宮城県）、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年、仙台市）等に記載されている種から調査範囲内に生息が確認されている種を抽出し、そのうち表 3.1.4-1 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として整理した。なお、仙台市における保全上重要な種のうち、減少種については地域区分が「山地地域」及び「西部丘陵地・田園地域」に該当する種とした（表 3.1.4-2 参照）。

調査範囲における注目すべき動物種の種数は表 3.1.4-10、種類は表 3.1.4-11～16 に示すとおりである。確認された注目すべき動物種の種数は 38 目 115 科 246 種であり、環境省レッドリスト掲載種は 82 種、宮城県レッドデータブック掲載種は 141 種である。

表 3.1.4-10 注目すべき動物種の種数

項目	目数	科数	種数	重要種選定根拠							
				仙台市における保全上重要な種				レッドデータブック等			
				学術上 重要種	減少種		環境 指標種	環境省 RL	宮城県 RDB	文化財 保護法	種の 保存法
					山地 地域	西部丘陵 地・田園 地域					
哺乳類	5	11	29	21	19	17	23	3	13	2	1
鳥類	15	34	78	53	21	58	45	29	34	4	6
爬虫類	1	5	9	3	3	4	6	0	2	0	0
両生類	2	6	12	2	1	9	10	4	6	0	0
魚類	7	9	15	9	4	4	8	12	10	0	0
昆虫類	8	50	103	44	13	36	22	34	76	0	0
合計	38目	115科	246種	132種	61種	128種	114種	82種	141種	6種	7種

表 3.1.4-11 注目すべき動物 [哺乳類]

No.	目名	科名	種名	文献			重要種選定根拠							
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等				
							学術上 重要な種	減少種 山地地域	減少種 西部丘陵地・ 田園地域	環境指 標種	環境省 B	宮城県 R2B	文化財保 護法	種の保 存法
1	モグラ	トガリネズミ	シントウトガリネズミ		○	○		+	C	○		DD		
2			ホンシュウジネズミ			○			+	C	○			
3			カワネズミ		○	○	1,4	B	B	○		DD		
4		モグラ	ヒメヒミズ		○	○	1	+	・	○				
5			ミズラモグラ	○		○	1,4	C	・		NT	NT		
6	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ			○	1	C	C	○				
7			ニホンキクガシラ コウモリ		○	○	1	C	C	○				
8		ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	○		○	1,4	C	・	○		VU		
9			カグヤコウモリ	○		○	1,4	C	・	○		CR+EN		
10			モモジロコウモリ		○	○	1,4	C	C	○				
11			モリアブラコウモリ			○	1,4	C	・	○	VU	CR+EN		
12			ヤマコウモリ			○	1,4	C	C	○	VU	VU		
13			ヒナコウモリ			○	1,4	C	C	○		VU		
14			ウサギコウモリ	○	○	○	1,4	C	C	○		VU		
15			ユビナガコウモリ		○	○	1,4	C	C	○				
16			コテングコウモリ			○	1,4	C	C	○				
17			テングコウモリ		○	○	1,4	C	C	○		VU		
18		ネズミ	リス	ホンドモモンガ			○	1,4	C	・				
19				ムササビ			○	1,4	・	C	○			
20			ヤマネ ネズミ	ヤマネ			○	1,4	C	・			NT	国天
21				ヤチネズミ			○	4	+	+				
22				ハタネズミ			○		+	C	○			
23	カヤネズミ			○								YO		
24	ヒメネズミ					○		+	+	○				
25	ネコ	クマ	ツキノワグマ		○	○	4	C	C				国際	
26		イヌ	タヌキ		○	○		+	+	○				
27		イタチ	テン		○	○		C	C	○				
28			イタチ		○	○		C	C	○				
29	ウシ	ウシ	カモシカ		○	○	4	+	・	○		YO	特天	
合計	5目	11科	29種	5種	13種	28種	21種	19種	17種	23種	3種	13種	2種	1種

注) 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)
- ② 「宮城県の野生哺乳動物」(平成 8 年、宮城野野生動物研究会)
- ③ 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については B, C に該当する種数を合計した。

表 3.1.4-12(1) 注目すべき動物 [鳥類]

No.	目名	科名	種名	文献				重要種選定根拠								
				①	②	③	④	仙台市における 保全上重要な種				レッドデータブック等				
								学術上 重要な種	減少種 山地地域	減少種 西部丘陵地・ 田園地域	環境指 標種	環境省 R	宮城県 R2B	文化財保 護法	種の保 存法	
1	キジ	キジ	ウズラ				○	1,4		A			VU	CR+EN		
2			ヤマドリ		○		○	1,4	+	C	○					
3	カモ	カモ	ヒシクイ		○				・	・			VU	NT	国天	
4			マガン		○			1,4	・	・			NT		国天	
5			オシドリ		○		○	1,4	+	C			DD			
6	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		○		○		・	C	○					
7	ペリカン	サギ	サンカノゴイ				○	1	・	B			EN	NT		
8			ヨシゴイ				○	1,4	・	C	○		NT	NT		
9			ミゾゴイ		○		○	1,4	C	B			VU	NT		
10			アマサギ		○			4	・	・	○					
11			チュウサギ		○		○	1,2,4	・	C			NT			
12			コサギ		○		○		・	C	○					
13	ツル	クイナ	クイナ				○	1,4	・	C				YO		
14			ヒクイナ		○		○	1,4	・	C			NT	CR+EN		
15			バン		○		○	1,4	・	C	○					
16	カッコウ	カッコウ	ホトトギス		○		○	1,4	+	+	○					
17			カッコウ		○		○	1,4	C	C	○					
18	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		○		○	1,4	+	C	○		NT	NT		
19	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ		○									YO		
20	チドリ	チドリ	イカルチドリ		○		○	1,4	C	C	○					
21		シギ	オオジシギ		○		○	1,4	B	B			NT	NT		
22		カモメ	コアジサシ				○	1,2,4	・	・			VU	VU		
23	タカ	ミサゴ	ミサゴ		○	○		1,4	・	・	○		NT			
24		タカ	ハチクマ		○	○	○	1,4	C	C			NT	NT		
25			オジロワシ		○		○	1,2,4	・	B			VU	VU	国天	国内
26			チュウヒ		○		○	1,4	・	C	○		EN	NT		
27			ツミ		○	○	○	1,4	C	C				DD		
28			ハイタカ		○	○	○	1,4	C	C			NT	NT		
29			オオタカ		○	○	○	1,4	C	C	○		NT	NT		国内
30			サシバ		○	○	○	1,4	C	C			VU	VU		
31			ノスリ		○		○		+	C	○					
32			イヌワシ		○	○	○	1,4	B	・	○		EN	CR+EN	国天	国内
33			クマタカ		○	○	○	1,4	B	・	○		EN	CR+EN		国内
34	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○	○		○	1	C	C				YO		
35			コノハズク		○		○	1	C	C	○			YO		
36			フクロウ		○		○	1	C	C	○					
37			アオバズク		○		○	1	・	C	○			VU		
38			コミミズク				○	1	・	B	○			YO		
39	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン		○		○	1	C	・				YO		
40			カワセミ		○		○	1,4	・	C	○					
41			ヤマセミ		○		○	1,4	・	・	○			YO		
42		ブッポウソウ	ブッポウソウ		○								EN			
43	キツツキ	キツツキ	アカゲラ		○		○		+	C						
44			アオゲラ		○		○		+	C	○					

表 3.1.4-12 (2) 注目すべき動物 [鳥類]

No.	目名	科名	種名	文献				重要種選定根拠							
				①	②	③	④	仙台市における 保全上重要な種				レッドデータブック等			
								学術上 重要な種	減少種 山地 地域	西部 丘陵地・ 田園 地域	環境 指標種	環境省 R2	宮城県 R2B	文化財 保護法	種の 保存法
45	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○		○	1,4	・	C					
46			チゴハヤブサ		○		○		・	・			YO		
47			ハヤブサ		○	○	○	1,4	C	B		VU	NT		国内
48	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		○		○		C	C		VU	VU		
49		カササギヒタキ	サンコウチョウ		○		○	1	・	C	○				
50		モズ	チゴモズ				○	1,4	・	B		CR	CR+EN		
51			モズ		○		○	1	+	C	○				
52			アカモズ		○		○	1,4	・	B		EN	CR+EN		
53		ヒバリ	ヒバリ		○		○		・	C	○				
54		ツバメ	ツバメ		○		○		・	C	○				
55		ウグイス	ウグイス		○		○	1,4	+	+	○				
56		ムシクイ	オオムシクイ		○							DD			
57			センダイムシクイ		○		○		+	C	○				
58		センニュウ	オオセッカ		○			1,3,4	・	・		EN	VU		国内
59		ヨシキリ	オオヨシキリ		○		○	1,4	・	C	○				
60			コヨシキリ		○		○	1,4	・	C	○				
61		セッカ	セッカ		○		○	1,4	・	C	○				
62		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		○		○		+	・	○				
63		カワガラス	カワガラス		○		○		+	C	○				
64		ヒタキ	トラツグミ		○		○		+	C	○				
65			クロツグミ		○		○	1,4	+	C	○				
66			シロハラ		○		○		+	C	○				
67			コルリ		○		○	1,4	+	C	○				
68			ルリビタキ		○		○		+	C					
69			コサメビタキ		○		○		・	・	○				
70			キビタキ		○		○		+	C	○				
71			オオルリ		○		○	1,4	+	C	○				
72		イワヒバリ	イワヒバリ	○	○								YO		
73		セキレイ	キセキレイ		○		○	1,4	+	C	○				
74			セグロセキレイ		○		○	4	C	C					
75		ホオジロ	ホオジロ		○		○		+	+	○				
76			ホオアカ		○		○		B	C	○				
77			ノジコ		○		○	1,4	C	C		NT	YO		
78			アオジ		○		○		C	C	○				
合計	15 目	34 科	78 種	2 種	71 種	9 種	69 種	53 種	21 種	58 種	45 種	29 種	34 種	4 種	6 種

注) 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)
- ② 「宮城県の鳥類分布」(平成 14 年、日本野鳥の会宮城県支部)
- ③ 「宮城県猛禽類生息状況調査報告書(環境影響生物基礎調査)」(平成 28 年、宮城県環境生活部自然保護課)
- ④ 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については A, B, C に該当する種数を合計した。

表 3.1.4-13 注目すべき動物 [爬虫類]

No.	目名	科名	種名	文献			重要種選定根拠							
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種				レッドデータブック等			
							学術上 重要種	減少種		環境 指標種	環境省 RL	宮城県 RDB	文化財 保護法	種の 保存法
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ		○	○		1	・					
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○	○		+	+	○				
3		タカチホヘビ	タカチホヘビ		○	○	1	・	・				DD	
4		ナミヘビ	アオダイショウ		○	○		+	+	○				
5			ジムグリ		○	○		+	+	○				
6			シロマダラ			○	1	C	C				DD	
7			ヒバカリ		○	○		C	C	○				
8			ヤマカガシ		○	○		・	+	○				
9		クサリヘビ	ニホンマムシ		○	○		C	C					
合計	1 目	5 科	9 種	0 種	8 種	9 種	3 種	3 種	4 種	6 種	0 種	2 種	0 種	0 種

注) 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)
- ② 「宮城県の両生類・は虫類」(平成 12 年、宮城野野生動物研究会)
- ③ 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については C に該当する種数を合計した。

表 3.1.4-14 注目すべき動物 [両生類]

No.	目名	科名	種名	文献			重要種選定根拠								
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等					
							学術上 重要種	減少種 山地 地域	西部 丘陵地・ 田園 地域	環境 指標種	環境省 RL	宮城 県 RDB	文化財 保護法	種の 保存法	
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ		○	○	4	+	C	○	NT	NT			
2			クロサンショウウオ		○	○		+	C	○	NT	LP			
3			キタオウシュウ サンショウウオ		○	○	2	+	C	○		NT			
4		イモリ	アカハライモリ		○	○		+	C	○	NT	LP			
5	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル		○	○		+	C						
6			アマガエル	ニホンアマガエル		○	○		+	+	○				
7			アカガエル	タゴガエル		○	○		+	C					
8				トウキョウダルマガエル		○	○		C	C	○	NT	NT		
9				ツチガエル		○	○		+	C	○		NT		
10			アオガエル	シュレーゲルアオガエル		○	○		+	+	○				
11				モリアオガエル		○	○		+	B	○				
12				カジカガエル		○	○		+	+	○				
合計	2目	6科	12種	0種	12種	12種	2種	1種	9種	10種	4種	6種	0種	0種	

注) 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)
- ② 「宮城県の両生類・は虫類」(平成 12 年、宮城野野生動物研究会)
- ③ 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については B, C に該当する種数を合計した。

表 3.1.4-15 注目すべき動物 [魚類]

No.	目名	科名	種名	文献		重要種選定根拠								
				①	②	仙台市における 保全上重要な種				レッドデータブック等				
						学術上 重要な種	減少種		環境 指標種	環境省 RL	宮城県 RDB	文化財 保護法	種の 保存法	
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類		○		1	C						B
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		○	1	・	B	○	EN	NT			
3	コイ	コイ	キンブナ		○		+	+		VU	NT			
4			テツギョ		○	1	A	/			CR+EN			
5			エゾウグイ	○	○	1,4	B	/		LP	VU			
6			ウグイ		○			+	+	○				
7			シナイモツゴ		○	1,4	A	/			CR	CR+EN		
8			ドジョウ	ホトケドジョウ		○	1	+	+	○	EN	NT		
9			ナマズ	ギギ	ギバチ		○	1	・	+		VU	NT	
10	サケ	アユ	アユ		○		/	+	○					
11		サケ	ニッコウイワナ		○		+	B		DD				
12		サクラマス	○	○	1	+	・	○	NT	NT				
13		サクラマス(ヤマメ)		○		+	+	○	NT					
14	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		○	1	・	A	○	VU	NT			
15	カサゴ	カジカ	カジカ		○		+	+	○	NT				
合計	7 目	9 科	15 種	2 種	15 種	9 種	4 種	4 種	8 種	12 種	10 種	0 種	0 種	

注) 使用した文献は以下のとおりである。

①「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)

②「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については A, B, C に該当する種数を合計した。

表 3.1.4-16(1) 注目すべき動物 [昆虫類]

No.	目名	科名	種名	文献			重要種選定根拠										
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等							
							学術上 重要種	減少種 山地地域	西部 丘陵地・ 田園地域	環境 指標種	環境省 R2	宮城県 R2B	文化財 保護法	種の 保存法			
1	トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ		○							NT					
2			カラカネイトトンボ		○								CR+EN				
3		カワトンボ	アオハダトンボ		○							NT					
4			ムカシトンボ	ムカシトンボ		○	○	1,4	+	+	○						
5		ヤンマ	マダラヤンマ		○				・	・		NT	NT				
6			カトリヤンマ		○	○	1	・	B				CR+EN				
7		サナエトンボ	ウチワヤンマ		○	○	1	・	C								
8			ヒメサナエ	○	○	○	1	・	・				VU				
9			ナゴヤサナエ		○	○	1,2	・	・			VU	CR+EN				
10		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ		○	○	1,4	・	C	○							
11		エゾトンボ	オオトラフトンボ		○	○	1	C	C				VU				
12			エゾトンボ		○	○		・	・				VU				
13		トンボ	ハッチョウトンボ		○	○	1	・	B	○			VU				
14			コノシメトンボ	○	○	○	1	・	A				CR+EN				
15			キトンボ	○	○	○	1	・	A				VU				
16			ナツアカネ		○	○		・	C	○							
17			マユタテアカネ		○	○		・	C	○							
18			アキアカネ		○	○		・	C	○							
19			ノシメトンボ		○	○		・	C	○							
20			マイコアカネ		○	○		・	C	○							
21			ヒメアカネ	○	○	○	1	・	B				CR+EN				
22	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ	○				・	・			VU					
23	バッタ	マツムシ	ズムシ			○	1	・	B								
24		バッタ	カワラバッタ	○		○	1	・	・	○		NT					
25	カメムシ	セミ	エゾゼミ			○		・	+	○							
26		コオイムシ	コオイムシ	○		○	1	・	B		NT	NT					
27		タガメ	○		○	1	・	B	○	VU	CR+EN						
28	アミメ カゲロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ			○	1	・	B			VU					
29			ツノトンボ	○		○	1	・	A			CR+EN					
30		ウスバカゲロウ	カスリウスバカゲロウ	○		○		・	・			DD					
31	オオウスバカゲロウ				○		・	・	※		CR+EN						
32	チョウ	セセリチョウ	ホンチャバネセセリ	○		○	1	C	B		EN	VU					
33			チャマダラセセリ	○		○	1	A	A		EN	CR+EN					
34	シジミチョウ	スギタニルリシジミ 本州亜種	ジョウザンミドリシジミ			○		C	・	○							
35			クロミドリシジミ			○		・	・	○							
36			クロシジミ			○	1	・	C								
37			クロシジミ	○		○	1	・	A		EN	CR+EN					
38			フジミドリシジミ			○	1	・	・	○							
39			カラスシジミ	○		○		・	・				NT				
40	タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン			○		EX	EX		CR	EX						

表 3.1.4-16(2) 注目すべき動物 [昆虫類]

No.	目名	科名	種名	文献			重要種選定根拠										
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等							
							学術上 重要な種	減少種 山地地域	西部 丘陵地・ 田園地域	環境 指標種	環境省 記	宮城県 R2B	文化財 保護法	種の 保存法			
41	チョウ	タテハチョウ	オオムラサキ			○	1	・	C	○	NT						
42			ギンボシヒヨウモン 本州亜種			○	1	A	A				CR+EN				
43		アゲハチョウ	アオスジアゲハ			○	4	・	・	○							
44			ヒメギフチョウ本州亜種	○		○	1	C	B	○	NT	NT					
45		シロチョウ	ヒメシロチョウ 北海道・本州亜種			○		EX	EX		EN	CR+EN					
46		ジャノメチョウ	キマダラモドキ	○		○	1	C	・		NT	NT					
47			ウラジャノメ本州亜種			○	1,2	・	・			DD					
48			ジャノメチョウ			○		・	C	○							
49		ツトガ	ゼニガサミズメイガ	○		○		・	・			NT					
50		シャクガ	フタスジギンエダシャク	○								NT					
51		スズメガ	ヒメスズメ			○		・	・		NT	VU					
52			ギンボシスズメ	○		○	1	・	A			CR+EN					
53		シャチホコガ	タツタカモクメ シャチホコ	○		○	1,2	・	・			NT					
54			クワヤマエグリ シャチホコ	○		○	1	A	・		NT	NT					
55		ヒトリガ	キバラヒトリ	○		○	1	・	・			NT					
56		ドクガ	フタホシドクガ	○		○	1	・	・			NT					
57		ヤガ	キスジウスキヨトウ	○		○		・	・		VU	NT					
58			コシロシタバ			○	1	A	・		NT	VU					
59			ギンモンセダカモクメ	○		○	1	・	・		NT	DD					
60			オガサワラヒゲヨトウ	○		○	1	B	B		EN	CR+EN					
61			オオチャバネヨトウ	○		○		・	・		VU	NT					
62		コウチュウ	オサムシ	ツヤキベリアオゴミムシ			○		・	・		VU	VU				
63				セアカオサムシ	○		○		・	・		NT	NT				
64				ヤマトトクリゴミムシ			○	1	・	B							
65				マークオサムシ	○								VU	CR+EN			
66				シラハタキバナガ ゴミムシ	○									DD			
67			ハンミョウ	ハンミョウ			○		・	B							
68				ホソハンミョウ	○		○		・	・		VU	NT				
69			ゲンゴロウ	メススジゲンゴロウ	○								NT				
70	ゲンゴロウ			○		○	1	・	・		VU	NT					
71	シマゲンゴロウ					○		・	・		NT						
72	エゾヒメゲンゴロウ			○		○		・	・			DD					
73	コガシラミズムシ		マダラコガシラミズムシ	○		○		・	・		VU	DD					
74	クワガタムシ		ネプトクワガタ本土亜種			○		・	・			DD					
75			ミヤマクワガタ			○		・	C	○							
76			オニクワガタ			○	1	C	・	○							
77			ノコギリクワガタ			○		・	C	○							
78	コガネムシ	アカマダラハナムグリ	○		○		・	・		DD	NT						
79		ダイコクコガネ	○		○		・	・		VU	VU						

表 3.1.4-16(3) 注目すべき動物 [昆虫類]

No.	目名	科名	種名	文献			重要種選定根拠								
				①	②	③	仙台市における 保全上重要な種			レッドデータブック等					
							学術上 重要な種	減少種 山地地域	西部丘陵地・ 田園地域	環境指 標種	環境省 R2	宮城 県R2B	文化財 保護法	種の 保存法	
80	コウチュウ	コガネムシ	シナノエンマコガネ	○									DD		
81		コブスジコガネ	コブナシコブスジコガネ	○		○		・	・				NT		
82			アイヌコブスジコガネ	○									NT		
83		ナガハナノミ	タテスジヒメヒゲナガ ハナノミ	○		○		・	・				DD		
84		タマムシ	ヤマトタマムシ			○	1, 2	・	B				NT		
85		コメツクムシ	ミヤマヒサゴメツク	○									NT		
86		ホタル	ゲンジボタル			○	1	・	C	○			NT		
87			ヒメボタル	○		○		・	・				NT		
88			スジグロボタル	○		○			・	・			NT		
89			オオマドボタル	○									DD		
90		オオキノコムシ	クロホシチビオオキノコ	○		○	1	・	・				DD		
91		ツチハンミョウ	ムラサキオオツチ ハンミョウ	○									NT		
92		カミキリムシ	ヤマトキモンハナ カミキリ			○		・	・				VU		
93			ヨツボシカミキリ			○		・	・			EN	CR+EN		
94		ハムシ	ベニカメノコハムシ	○		○		・	・				NT		
95			タグチホソヒラタハムシ	○		○		・	・				VU		
96			シラハタミズクサハムシ	○		○			・	・			VU		
97			ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ			○		・	・				DD	
98		ハチ	ギングチバチ	ササキリギングチ			○		・	・			NT		
99			アリマキバチ	ミヤギノヨコバイバチ			○		・	・			VU		
100	ヒメハナバチ		エチゼンヒメハナバチ	○								NT			
101	コハナバチ		アオスジハナバチ			○	1, 2	・	・				CR+EN		
102	ハキリバチ		マイマイツツハナバチ	○		○	1	・	・				DD	VU	
103	コマユバチ		ウマノオバチ			○		・	・				NT		
合計	8目	50科	103種	52種	21種	88種	44種	13種	36種	22種	34種	76種	0種	0種	

注) 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(平成 28 年、宮城県)
- ② 「宮城県トンボ目録」(平成 29 年、柳田則明 著)
- ③ 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年、仙台市)

これらの文献は宮城県全域または仙台市全域を対象としていることから、確認位置に仙台市青葉区・太白区・泉区、川崎町の記載がある種を抽出した。ただし、これらの市区及び町内であっても詳細な確認位置が明らかに調査区域外であるものは除いた。

種名及び整列順は「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書(資料編) 仙台市野生生物目録」(平成 29 年、仙台市)に準拠した。

減少種については EX, A, B, C に該当する種数を合計した。

※ オオウスバカゲロウは仙台市の環境指標種に指定されているが、指標する環境の内容が「人手の入らない自然な海岸砂丘」とされていることから、合計には含めていない。

2) 保全上重要な動物の生息地の状況

調査範囲における注目すべき動物の生息地位置は図 3.1.4-4 に示すとおりである。

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年、仙台市）では、表 3.1.4-1 に示す選定基準により「動物生息地として重要な地域」を表 3.1.4-17 のとおり選定している。

また、環境省が平成 28 年に選定した「生物多様性保全上重要な里地里山」は表 3.1.4-9 のとおりであり、その位置は動物の生息地としても重要な地域である。

なお、事業計画地には「奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊」、「奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊」、「奥武士・大倉地区」、「西田中地区」、「秋保地区」等が存在する。

表 3.1.4-17(1) 動物生息地として重要な地域

No.	地域名	対象	備考
1	泉ヶ岳・北泉ヶ岳	昆虫類	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。県内でも代表的なチョウ類の生息地、ブナ林に依存する貴重なチョウ類の生息。
2	泉ヶ岳芳の平	昆虫類	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。シジミチョウ類の多産、ハッチョウトンボの生息。
3	広瀬川 (中～下流域)	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。
4	七北田川 (中流域～河口)	哺乳類・ 鳥類	野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。川に接する地域の環境変化が著しく、動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなっている。河川周辺のヨシ原はオオセッカ等希少な鳥類が生息する重要な自然になっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。
5	泉ヶ岳から根白石 への緑の回廊	動物 全般	市街地の北部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。根白石(朴沢・実沢・福岡)地区は No. 9 の西田中地区とともに環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。
6	奥羽山脈から大 倉・芋沢丘陵地域 への緑の回廊	動物 全般	市街地の中央部から北西にかけて位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。
7	奥羽山脈から青葉 山丘陵地域への緑 の回廊	動物 全般	市街地の南部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。

表 3.1.4-17(2) 動物生息地として重要な地域

No.	地域名	対象	備 考
8	奥武士・大倉地区	動物全般	市街地の西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要。水田やため池、山林、山地草原のススキ原等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、トウホクサンショウウオやヒメギフチョウなどの希少な動物の生息が確認されるほか、豊かな里地里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。
9	西田中地区	動物全般	市街地の北西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要である。手入れの行き届いた二次林や植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、サンショウクイやアオハダトンボなどの希少な動物の生息が確認されるほか、豊かな里地里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。No.5に含まれる根白石（朴沢・実沢・福岡）地域とともに環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。
10	秋保地区	動物全般	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。
11	名取川 （上～中流域）	鳥類・ 魚類	上流は蔵王国定公園、県立自然公園二口峡谷。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。
12	作並地区	動物全般	県立自然公園船形連峰。市街地の西部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。

注) No. は図 3.1.4-4 の図中番号に対応する。

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年、仙台市）より作成



図 3.1.4-4 注目すべき動物の生息地位置

(3) 生態系

調査範囲の地形は、河岸段丘を縦断しているため大部分が丘陵地であり、そのほとんどが落葉広葉樹林で占められている。水域は七北田ダム、大倉ダム等のダム湖や七北田川、広瀬川、名取川等の河川が分布する。河川沿いの一部には耕作地や水田地帯が分布し、里山地帯を形成している。

調査範囲に広く分布する落葉広葉樹林では、クマタカやイヌワシ等の猛禽類を頂点とする様々な動植物の生息・生育場所となっており、奥羽山脈から繋がる生態系回廊（生態系コリドー）として重要である。中でも泉ヶ岳は県立自然公園に指定されており、ブナ林に依存する貴重なチョウ類の生息地となっている。

ダム湖や河川沿いにはヤナギ高木群落やヤナギ低木群落が分布し、水辺環境に依存する動植物の生息・生育場所となっているほか、河川は動物の重要な移動経路となっていると考えられる。広瀬川流域は「広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域」に指定されており、中流域では森林性から草地性、水辺まで、様々な鳥類が豊富に生息している。

里山地帯では耕作地・植林地植生が広がっており、オオタカやサシバ等の猛禽類を頂点として、ノウサギ、タヌキ等の中型哺乳類やニホンアカガエル、ヤマカガシ等の両生類・爬虫類等、多様な動植物の生息・生育場所となっている。

このように、計画地の周辺は樹林帯を主として、水辺環境や里山地帯等、多様な生物基盤が分布する、自然度の高い地域であると考えられる。

3.1.5 景観等

(1) 景観

1) 自然的景観資源及び文化的景観資源の状況

調査範囲における主要な自然的景観資源及び文化的景観資源は、表3.1.5-1～3、位置は図3.1.5-1～2に示すとおりである。

調査範囲には、自然的景観資源として鳳鳴四十八滝、新川・奥新川溪谷等25箇所、文化的景観資源として国指定の名勝秋保大滝や仙台市指定文化財の小滝沢橋等24箇所があげられる。

なお、事業計画地には、自然的景観資源として「白岩(上流)」、「花輪川」、「広瀬川中流熊ヶ根棒目木間」、「落合・愛子・白沢広瀬川畔」が存在し、文化的景観資源は存在しない。

表 3.1.5-1(1) 自然的景観資源

No.	名称	種別	概要	見られ方	所在地	文献
1	鳳鳴四十八滝	滝	県立自然公園二口峡谷。作並-屋敷平良断層線の走る位置にかかる。本流滝一文字状落差30m	近	青葉区作並字棒目木	①～④
2	名取川(秋保町長袋・館下橋付近)	河川	館下橋から上流を望むと、遠く二口の山々が、下流側には、山々の木々が川に寄り添うように林立し、川原には、とがった二つの三角の岩がある。	近・中	太白区秋保町長袋付近	②
3	秋保大滝	滝	幅6m落差55mの文字通りの大滝で、日本三名瀑の一つ。	近	太白区秋保町馬場字大滝西向	①、②、④
4	白岩	断崖・絶壁	県立自然公園二口峡谷。延長1,000m、比高100m凝灰岩	近・中	太白区秋保町字馬場	①、②
5	白岩(上流)	断崖・絶壁	県立自然公園二口峡谷。延長900m、比高60m凝灰岩	近・中	太白区秋保町字馬場	①
6	光明の滝	滝	七北田川の支流である長谷倉川上流の静かな山の中にある隠れた名滝の一つ。	近	泉区朴沢字下平	②
7	七北田ダム周辺	河川	泉ヶ岳に建設された石積み式のダム。ダムの前の道路沿いには公園が整備されており、多くの人が訪れ身近な自然に親しんでいる。	近・中	泉区福岡字蒜但木	②
8	花輪川	河川	花輪地区を流れて七北田川に注ぐ川。川沿い上流には岩肌が白く続いている崖を見ることができる。	近・中	泉区根白石	②
9	七北田川	河川	七北田川は泉ヶ岳に源を発し、長谷倉川と合流する辺りから「鼻毛橋」にかけて、水田地帯の中をゆったりと流れている。鼻毛橋上流にある「今宮堰」も水と緑が織りなす四季の美しさを楽しめる。	近・中	泉区小角～根白石	②
10	戸神山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。白沢峠の西にそびえる火山岩頭。山頂からの景観も優れる。標高504.4m、比高144m	近・中・遠	太白区秋保町長袋	①
11	鎌倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。火山岩頭で中腹から山頂にかけて岩頭をなす。古くから一帯の名勝として知られる。標高520.0m、比高240m	近・中・遠	青葉区作並	①
12	名取川支流本砂金川	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。延長3.2km、巾200～300m、深さ50～150m	近・中	太白区秋保町長袋	①

表 3.1.5-1(2) 自然的景観資源

No.	名称	種別	概要	見られ方	所在地	文献
13	名取川中流大滝付近	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。 延長3.2km、巾200～300m、深さ50～150m	近・中	太白区秋保町馬場	①
14	二口溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。大行沢は上半部は滑状の美しい沢床の明るい溪谷、二口沢は屈曲の少ないV字谷。	近・中	太白区秋保町馬場	①
15	穴道沢溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。東大第の北面及び東面を源頭とする。大東岳東面の壮大な壁を眺めることができる。 延長4.8km、巾200～350m、深さ100～250m	近・中	太白区秋保町馬場	①
16	新川・奥新川溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。南沢の金剛沢は多くの滝が連なり、岩像沢は沢全体が滑状、新川は、釜、淵、河床滝と変化に富み特に八森付近の景観が優れる。 延長18km、巾300～600m、深さ100～300m	近・中・遠	青葉区新川八森	①
17	仙台市白沢・広瀬川中流付近	峡谷・溪谷	延長3.9km、巾80～150m、深さ80～100m	近・中	青葉区上愛子大道～芋沢新田	①
18	広瀬川中流熊ヶ根棒目木間	峡谷・溪谷	棒目木付近では狭い地形の中を流れ、垂直的变化が大きく大小の滝が連なる。 延長3.8km、巾200～300m、深さ100～200m	近・中	青葉区熊ヶ根棒目木	①、②
19	大倉川大倉ダム下流	峡谷・溪谷	延長1.0km、巾200m、深さ100～150m	近・中	青葉区大倉岩下	①
20	根白石七北田川中流	河成段丘	県立自然公園船形連峰。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。 延長5.0km、段数1、比高30～80m	近・中	泉区根白石	①
21	落合・愛子・白沢広瀬川畔	河成段丘	数段にわたる典型的な河成段丘の景観。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。 延長13.0km、段数4～5、比高50～100m	近・中・遠	青葉区熊ヶ根棒目木～栗生	①
22	広瀬川上流新川畔	河成段丘	県立自然公園二口峡谷。 延長3.8km、段数1、比高50m	近・中	山形市山寺～仙台市青葉区新川	①
23	名取川支流穴道沢中部	滝	本流滝 一文字状 落差30m	近	太白区秋保町馬場	①
24	大倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。 標高432.7m、比高212m	近・中・遠	太白区秋保町長袋	①
25	作並大沼	湿原	県立自然公園船形連峰。 低層湿原、面積13ha、外周長1,270m	近	青葉区作並	①

注) 1. No. は図3.1.5-1の図中番号に対応する。

2. 使用した文献は以下のとおりである。

- ① 「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」 (平成29年、仙台市)
- ② 「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選」 (平成14年、仙台市)
- ③ 「みやぎ・身近な景観百選」 (平成24年、宮城県)
- ④ 「仙台観光マップ」 (平成27年、仙台観光国際協会)

表 3.1.5-2 文化的景観資源の状況（指定文化財）

No.	名称	種類	指定状況	所在地	指定年月日
1	宇那禰神社本殿附棟札5枚	建造物	市指定	青葉区芋沢字明神12	昭和47年12月27日
2	小滝沢橋			太白区秋保町馬場字駅	昭和58年8月1日
3	旧熊谷家住宅			泉区福岡字岳山9-5	昭和61年4月1日
4	旧石垣家住宅附土蔵(米蔵)1棟			青葉区大倉字若林14-2	平成6年3月29日
5	栽松院墓所	史跡	市指定	泉区根白石字館下	昭和43年3月1日
6	秋保大滝	名勝	国指定	太白区秋保町馬場字大滝地内	昭和17年3月7日
7	鷲倉神社の姥杉	天然記念物	県指定	泉区福岡字小山19-2	平成10年1月16日
8	泉ヶ岳のミズバショウほか か湿生植物群生地		市指定	泉区福岡字岳山	昭和40年5月12日
9	常正寺の大銀杏		川崎町指定	川崎町本砂金字山崎46	昭和60年10月24日

注) No. は図3.1.5-2の図中番号に対応する。

「平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）等より作成

表 3.1.5-3 文化的景観資源の状況（登録文化財）

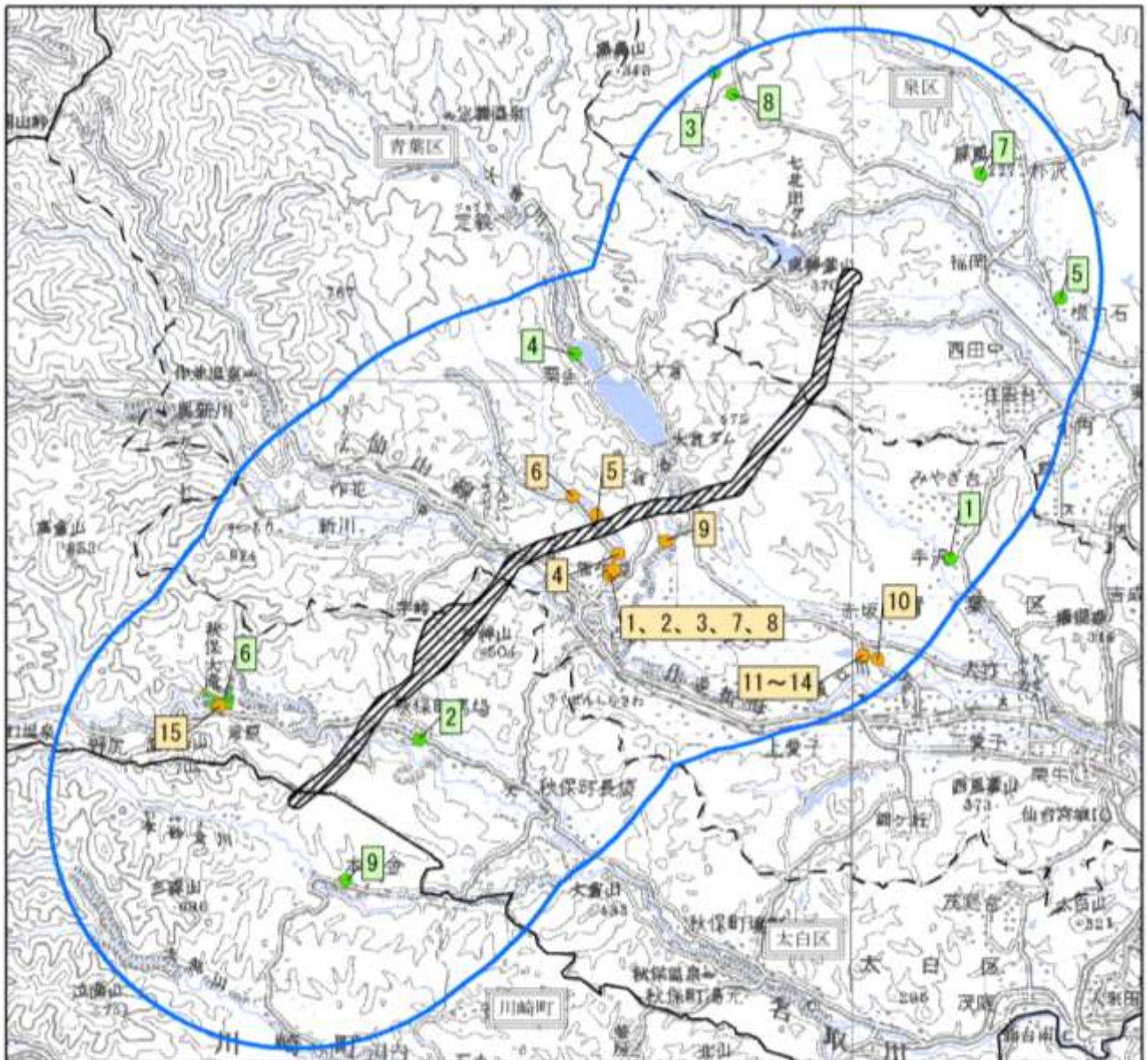
No.	名称	種類	登録状況	所在地	指定年月日
1	青下第1ダム	建造物	国登録	青葉区熊ヶ根字大原道17-2地先	平成11年7月19日
2	青下第1ダム取水塔			青葉区熊ヶ根字大原道17-2地先	平成11年7月19日
3	青下隧道入口			青葉区大倉字大原新田12-7地先	平成11年7月19日
4	青下第2ダム			青葉区熊ヶ根字大原道27-2地先	平成11年7月19日
5	青下第3ダム			青葉区大倉字前原1-2地先	平成11年7月19日
6	青下量水堰			青葉区大倉字西原38地先	平成11年7月19日
7	青下ダム旧管理事務所			青葉区熊ヶ根字大原道18地先	平成11年7月19日
8	青下ダム記念碑			青葉区熊ヶ根字大原道18地先	平成11年7月19日
9	中原系苦地取水口			青葉区芋沢字中田西29-1地先	平成11年7月19日
10	中原浄水場旧管理事務所			青葉区芋沢字中原24地先	平成11年7月19日
11	菊地家住宅主屋			青葉区芋沢	平成12年5月25日
12	菊地家住宅隠居所			青葉区芋沢	平成12年5月25日
13	菊地家住宅板倉			青葉区芋沢	平成12年5月25日
14	菊地家住宅土蔵			青葉区芋沢	平成12年5月25日
15	大滝不動堂	建造物	市登録	太白区秋保町馬場字大滝11	平成7年9月5日

注) No. は図3.1.5-2の図中番号に対応する。

「平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成28年、仙台市）より作成









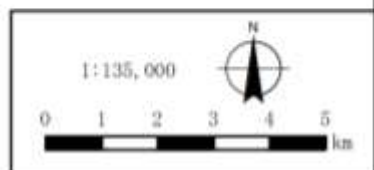
図 3.1.5-1 自然的景観資源の位置



「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
 (平成28年、仙台市)等より作成

凡例

-  事業計画地
-  概況調査範囲
-  市町境
-  区境
-  } 文化的景観資源 (指定文化財)
-  } 文化的景観資源 (登録文化財)



注) 図中番号は表 3.1.5-2~3 のNo.に対応する。

図 3.1.5-2 文化的景観資源の位置

2) 眺望点の状況

調査範囲の主要な眺望点は、表3.1.5-4、位置は図 3.1.5-3に示すとおりである。

調査範囲には主要な眺望点として、戸神山、秋保大滝等の公園レクリエーション施設等の16地点、熊ヶ根等の8集落が存在する。

表 3.1.5-4(1) 主要な眺望点

区分	No.	名称	概要	所在地	文献等
公園・レクリエーション施設等	1	屏風岳 (北東約 3km)	当初の「鷲倉神社」は屏風岳の山頂あったが、高所にあり強風で壊れやすく、改築のたびに東方へ移り、峰続きの現在地に落ち着いたといわれている。	泉区福岡小山	②
	2	戸神山 (南東約 0.2km)	県立自然公園二口峡谷。白沢峠の西にそびえる火山岩頸。山頂からの景観も優れる。標高504.4m、比高144m	太白区秋保長袋	①
	3	鎌倉山 (北西約 3.5km)	県立自然公園二口峡谷。仙台から作並温泉に向かう国道48号沿いで、ゴリラの頭に似た通称ゴリラ山。	青葉区作並	①、⑤
	4	鷹巣山 (西約 2km)	仙台市と柴田郡川崎町にまたがる標高705mの山。	川崎町本砂金	⑥
	5	森の駅 (南東約 5km)	産地直送朝採り野菜や、山の恵みの天然山菜・きのこなど森の駅会員農家が生産した旬の味。	青葉区上愛子上遠野原 1-5	⑥
	6	ニッカウキスキー仙台工場 (北西約 2.5km)	ウイスキーの製造工程やニッカウキスキーの歴史について見学できる宮城峡蒸溜所がある。	青葉区ニツカ 1	③
	7	秋保大滝パノラマのみち	大滝駐車場から秋保大滝までの1km間。途中に秋保大滝植物園、秋保大滝不動尊がある。	太白区秋保町馬場宇大滝	④
	8	宇那禰神社 (南東約 2km)	室町時代から続く古社神社、本殿と棟札5枚、スギ4本、ヒノキ1本が仙台市文化財に指定。	青葉区芋沢明神 8	①
	9	秋保神社 (南東約 2km)	平安初期に熊野神社を祀ったのが初めと伝えられ、諏訪神社の御神霊をこの地に勧請して祈願所とし「戦の神」として崇拝されるようになった。	太白区秋保町長袋清水久保北 22	③
	10	大倉ふるさとセンター (北西約 3km)	大倉地区の豊かな自然と暮らしの歴史を活かした「自然体験」や「生活体験」の場を提供するために開設された仙台市の施設。	青葉区大倉若林 14-2	②、③
	11	七北田ダム公園 (北約 1km)	ダムの前を通っている道路沿いには公園が整備されている。	泉区福岡字蒜但木	②
	12	大倉ダム (大倉湖畔公園) (北約 1km)	ダム湖のほとりのサクラ並木、ダム下流の公園にもサクラがあり花見を楽しむことができる。	青葉区大倉字岩下	②
	13	秋保大滝植物園 (西約 1.5km)	宮城県内の山地や山麓の草木を中心に植物を植栽展示。園内には炭焼き小屋やすだれ滝もあり、四季折々の自然観察や散策の場として最適。	太白区秋保町馬場宇大滝 5	②、③
	14	鳳鳴四十八滝 (北西約 1.5km)	県立自然公園二口峡谷。作並-屋敷平良断層線の走る位置にかかる。本流滝一文字状落差30m。	青葉区作並字棒目木	①～③
	15	秋保大滝 (西約 1.5km)	幅6m落差55mの文字通りの大滝で、日本三名瀑の一つ。	太白区秋保町馬場宇大滝	①～③

表 3.1.5-4 (2) 主要な眺望点

区分	No.	名称	概要	所在地	文献等
公園・レクリエーション施設等	16	作並駅 (北西約 4km)	作並駅には、交流電化発祥の地を示す看板と石碑および機関区跡の転車台が残置。	青葉区作並字相ノ沢	③
既存集落	17	住吉台 (東約 2.5km)	計画地周辺の居住地。	泉区住吉台	
	18	館 (南東約 4km)	計画地周辺の居住地。	泉区館	
	19	みやぎ台 (南東約 2.5km)	計画地周辺の居住地。	青葉区みやぎ台	
	20	高野原 (南東約 3.5km)	計画地周辺の居住地。	青葉区高野原	
	21	赤坂 (南東約 2.5km)	計画地周辺の居住地。	青葉区赤坂	
	22	熊ヶ根 (南東約 0.5km)	計画地周辺の集落。	青葉区熊ヶ根	
	23	根白石 (東約 3km)	計画地周辺の集落。	泉区根白石	
	24	上愛子道半 (南約 1.5km)	計画地周辺の集落。	青葉区上愛子字道半	

注) 1. No. は図3.1.5-3の図中番号に対応する。

2. 名称の()は最寄送電線路からの方向と距離を示す。

3. 使用した文献は以下のとおりである。

①「平成28年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成29年、仙台市)

②「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選」(平成14年、仙台市)

③「仙台観光マップ」(平成27年、仙台観光国際協会)

④「新・奥の細道 宮城の自然歩道」(平成24年、宮城県)

⑤「せんだいくらしのマップ」(仙台市)

⑥聞き取り等

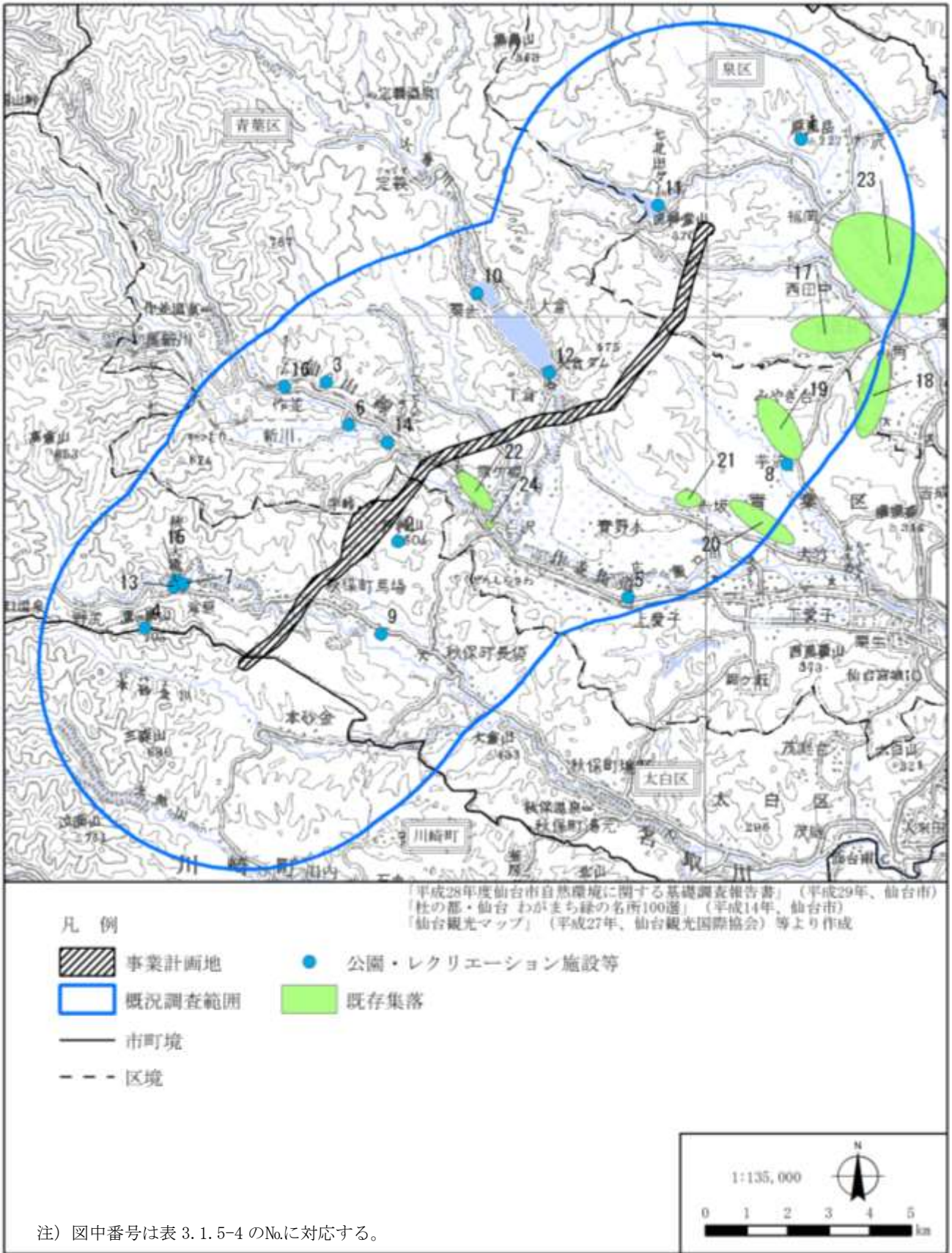


図 3.1.5-3 主要な眺望点位置

(2) 自然との触れ合いの場

調査範囲における自然との触れ合いの場は、表3.1.5-5～6及び図3.1.5-4に示すとおりである。

調査範囲には、県立自然公園船形連峰、県立自然公園二口峡谷及び権現森緑地環境保全地域の指定がある他、都市公園が設定されている。なお、県自然環境保全地域の指定はない。

事業計画地には、県立自然公園二口峡谷が指定されている。

表 3.1.5-5 自然との触れ合いの場（自然公園等）

区分	No.	名称	所在地
県立自然公園	1	県立自然公園船形連峰	仙台市・大和町・色麻町・加美町
	2	県立自然公園二口峡谷	仙台市
緑地環境保全地域	3	権現森緑地環境保全地域	仙台市

注) No. は、図3.1.5-4の図中番号と対応する。

「国立・国定公園及び県立自然公園の指定状況」（宮城県HP）

「県自然環境保全地域・緑地環境保全地域の指定状況」（宮城県HP）より作成

表 3.1.5-6(1) 自然との触れ合いの場（都市公園）

公園種別	公園名	所在地
街区公園	愛子団地1号公園	青葉区上愛子字北原道上
街区公園	ニュー愛子団地公園	青葉区上愛子字北原道上
街区公園	みやぎ台1号公園	青葉区みやぎ台2丁目
街区公園	みやぎ台2号公園	青葉区みやぎ台4丁目
街区公園	みやぎ台運動公園	青葉区みやぎ台5丁目
街区公園	赤坂4号公園	青葉区赤坂3丁目
街区公園	みやぎ台3号公園	青葉区みやぎ台1丁目
街区公園	みやぎ台4号公園	青葉区みやぎ台4丁目
街区公園	赤坂1号公園	青葉区赤坂2丁目
街区公園	赤坂5号公園	青葉区赤坂1丁目
街区公園	赤坂2号公園	青葉区赤坂2丁目
街区公園	赤坂3号公園	青葉区赤坂3丁目
街区公園	みやぎ台5号公園	青葉区みやぎ台3丁目
街区公園	赤坂6号公園	青葉区赤坂1丁目
街区公園	北原道上公園	青葉区上愛子字北原道上
街区公園	松原西公園	青葉区上愛子字松原
街区公園	北原道上東公園	青葉区上愛子字北原道上
街区公園	街道西公園	青葉区上愛子字街道
街区公園	街道東公園	青葉区上愛子字街道
街区公園	松原北公園	青葉区上愛子字松原
街区公園	高野原三丁目公園	青葉区高野原3丁目
街区公園	堀切公園	青葉区上愛子字堀切
街区公園	松原公園	青葉区上愛子字松原
街区公園	高野原四丁目公園	青葉区高野原4丁目
街区公園	上遠野原公園	青葉区上愛子字上遠野原
街区公園	北原道上北公園	青葉区上愛子字北原道上

表 3.1.5-6(2) 自然との触れ合いの場（都市公園）

公園種別	公園名	所在地
街区公園	みやぎ台二丁目南公園	青葉区みやぎ台2丁目
街区公園	北原道上南公園	青葉区上愛子字北原道上
街区公園	高野原二丁目公園	青葉区高野原2丁目
街区公園	上愛子車北公園	青葉区上愛子字車
街区公園	大倉ダム下公園	青葉区大倉字岩下
街区公園	館三丁目西公園	泉区館3丁目
街区公園	館三丁目公園	泉区館3丁目
街区公園	館ゆりのき公園	泉区館3丁目
街区公園	館四丁目公園	泉区館4丁目
街区公園	住吉台東一丁目公園	泉区住吉台東1丁目
街区公園	住吉台東一丁目東公園	泉区住吉台東1丁目
街区公園	住吉台東二丁目公園	泉区住吉台東2丁目
街区公園	住吉台東三丁目公園	泉区住吉台東3丁目
街区公園	住吉台東四丁目公園	泉区住吉台東4丁目
街区公園	住吉台東五丁目公園	泉区住吉台東5丁目
街区公園	住吉台西一丁目公園	泉区住吉台西1丁目
街区公園	住吉台西二丁目公園	泉区住吉台西2丁目
街区公園	住吉台西三丁目公園	泉区住吉台西3丁目
街区公園	住吉台西三丁目北公園	泉区住吉台西3丁目
街区公園	住吉台西四丁目北公園	泉区住吉台西4丁目
街区公園	住吉台西四丁目東公園	泉区住吉台西4丁目
街区公園	館四丁目見晴らし公園	泉区館4丁目
近隣公園	大倉ダム湖畔公園	青葉区大倉字樋渡
近隣公園	住吉台西四丁目公園	泉区住吉台西4丁目
都市緑地	赤坂緑地	青葉区赤坂2丁目
都市緑地	高野原緑地	青葉区高野原2丁目
都市緑地	広瀬川前緑地	青葉区愛子東4丁目
都市緑地	みやぎ台一丁目3号緑地	青葉区みやぎ台1丁目
都市緑地	みやぎ台二丁目1号緑地	青葉区みやぎ台2丁目
都市緑地	みやぎ台二丁目2号緑地	青葉区みやぎ台3丁目
都市緑地	みやぎ台二丁目3号緑地	青葉区みやぎ台2丁目
都市緑地	みやぎ台二丁目4号緑地	青葉区みやぎ台2丁目
都市緑地	みやぎ台三丁目1号緑地	青葉区みやぎ台3丁目
都市緑地	みやぎ台三丁目2号緑地	青葉区みやぎ台3丁目
都市緑地	みやぎ台三丁目3号緑地	青葉区みやぎ台3丁目
都市緑地	みやぎ台三丁目4号緑地	青葉区みやぎ台3丁目
都市緑地	みやぎ台四丁目1号緑地	青葉区みやぎ台4丁目
都市緑地	みやぎ台四丁目2号緑地	青葉区みやぎ台4丁目
都市緑地	みやぎ台五丁目1号緑地	青葉区みやぎ台5丁目
都市緑地	みやぎ台五丁目2号緑地	青葉区みやぎ台5丁目
都市緑地	みやぎ台五丁目3号緑地	青葉区みやぎ台5丁目
都市緑地	中山台西1号緑地	青葉区中山台西
都市緑地	館緑地	泉区館5丁目
都市緑地	館四丁目緑地	泉区館4丁目
都市緑地	館四丁目西緑地	泉区館4丁目
緑道	館ゆりのき緑道	泉区館3丁目

「仙台市公園・緑地等配置図」（平成27年仙台市）より作成

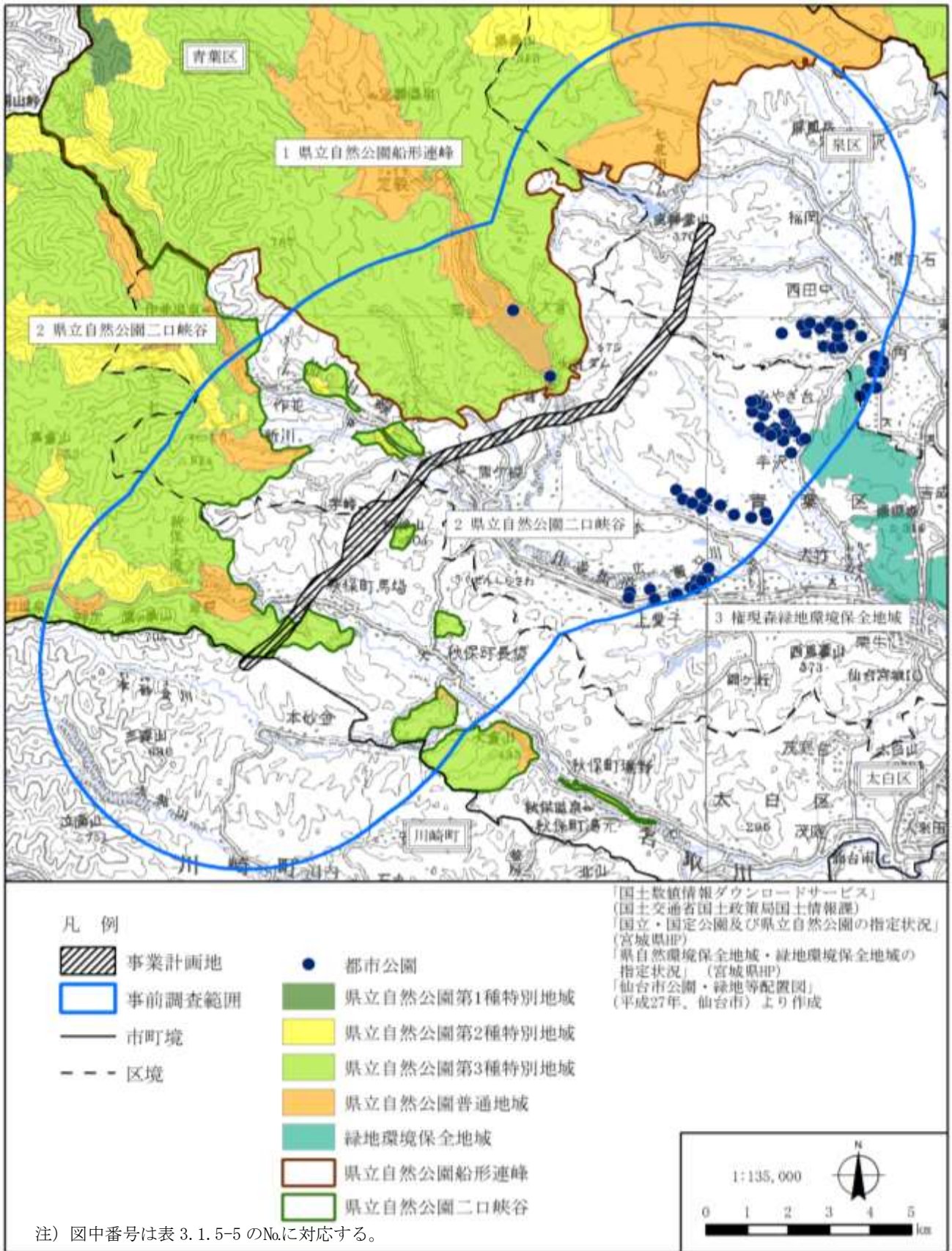


図 3.1.5-4 自然との触れ合いの場位置

(3) 文化財

調査範囲における指定文化財等は表3.1.5-2～3、位置は図3.1.5-2に示すとおりである。

調査範囲の指定文化財は、国指定名勝の秋保大滝、県指定天然記念物の鷺倉神社の姥杉、仙台市指定建造物の小滝沢橋等の6件、川崎町指定天然記念物の常正寺の大銀杏が存在する。そのほか国登録文化財が青下第1ダム等の14箇所、仙台市登録文化財の大滝不動堂が存在する。

事業計画地にはこれらの指定文化財等の指定はない。

(4) 埋蔵文化財包蔵地の状況

調査範囲における埋蔵文化財包蔵地は表3.1.5-7、位置は図3.1.5-5に示すとおりである。調査範囲には埋蔵文化財包蔵地が175箇所指定されている。

事業計画地には、埋蔵文化財包蔵地の「大手門A遺跡」、「下大倉館跡」、「大手門B遺跡」、「大手門C遺跡」、「下ノ久保遺跡」が存在する。

表 3.1.5-7(1) 埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代
1	21002	ほととぎす塚遺跡	青葉区 新川字清水頭	散布地	縄文
2	21003	花坂遺跡	青葉区 芋沢字花坂	散布地	縄文中
3	21005	矢籠遺跡	青葉区 大倉字矢籠	散布地	縄文晩
4	21008	畑沢遺跡	青葉区 新川字畑沢	散布地	縄文中・晩
5	21009	清水尻遺跡	青葉区 新川字清水尻	散布地	縄文中
6	21010	大手門A遺跡	青葉区 大倉字大手門	散布地	縄文前
7	21011	野川遺跡	青葉区 熊ヶ根字町	散布地	縄文草創・中・後
8	21012	東沢目遺跡	青葉区 大倉字東沢目・大原	散布地	縄文
9	21013	萱場遺跡	青葉区 大倉字萱場	散布地	縄文
10	21016	田尻遺跡	青葉区 芋沢字田尻	散布地	縄文中～晩
11	21017	上清水遺跡	青葉区 芋沢字下清水	散布地	縄文中
12	21018	青野木A遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文
13	21019	青野木B遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文
14	21020	青野木C遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文中
15	21021	畑前A遺跡	青葉区 芋沢字畑前	散布地	縄文
16	21022	畑前B遺跡	青葉区 芋沢字畑前	散布地	縄文早・前
17	21023	赤坂遺跡	青葉区 芋沢字赤坂	散布地	縄文
18	21024	下野遺跡	青葉区 芋沢字下野	散布地	縄文晩
19	21025	中原遺跡	青葉区 芋沢字花坂	散布地	縄文
20	21026	松原遺跡	青葉区 上愛子字松原	散布地	縄文
21	21027	北原街道遺跡	青葉区 上愛子字街道	散布地	縄文前
22	21032	端心寺跡	青葉区 上愛子字倉内	寺院	近世
23	21033	熊ヶ根城跡	青葉区 熊ヶ根字町	城館	中世
24	21035	大倉栗生遺跡	青葉区 大倉字栗生	散布地	縄文
25	21036	大原館跡	青葉区 大倉字大原	城館	中世・近世
26	21037	下大倉館跡	青葉区 大倉字下倉	城館	中世・近世
27	21040	高野原遺跡	青葉区 芋沢字高野原	散布地	縄文
28	21041	満穂遺跡	青葉区 芋沢字下野下	散布地	縄文
29	21044	檀ノ原A遺跡	青葉区 熊ヶ根字檀ノ原	散布地	縄文・奈良・平安
30	21045	檀ノ原B遺跡	青葉区 熊ヶ根字檀ノ原	散布地	奈良・平安
31	21048	町A遺跡	青葉区 熊ヶ根字町	散布地	奈良・平安
32	21049	町B遺跡	青葉区 熊ヶ根字町	散布地	古代
33	21050	檀ノ原C遺跡	青葉区 熊ヶ根字町	散布地	縄文
34	21051	興禅寺五輪塔	青葉区 熊ヶ根字町	古碑	中世
35	21052	大貫遺跡	青葉区 大倉字大原	散布地	縄文
36	21053	大原遺跡	青葉区 大倉字大原	散布地	縄文
37	21054	大原新田遺跡	青葉区 大倉字大原新田	散布地	縄文
38	21056	桧遺跡	青葉区 上愛子字上志田	散布地	縄文
39	21057	芋沢正安碑	青葉区 芋沢字原田下	板碑	鎌倉
40	21058	芋沢嘉元碑	青葉区 芋沢字原田下	板碑	鎌倉
41	21060	大道A遺跡	青葉区 上愛子字大道	散布地	縄文晩・奈良・平安
42	21062	大道B遺跡	青葉区 上愛子字大道	散布地	奈良・平安
43	21063	田中遺跡	青葉区 上愛子字田中	散布地	奈良・平安
44	21064	上十三枚田A遺跡	青葉区 上愛子字上十三枚田	散布地	奈良・平安
45	21065	上十三枚田B遺跡	青葉区 上愛子字上十三枚田	散布地	奈良・平安
46	21066	下大柵遺跡	青葉区 上愛子字下十三枚田	散布地	奈良・平安
47	21068	上北遺跡	青葉区 上愛子字下十三枚田	散布地	奈良・平安
48	21069	中遠野原遺跡	青葉区 上愛子字上北	散布地	奈良・平安
49	21070	大清水遺跡	青葉区 上愛子字下沢口・大清水	散布地	奈良・平安
50	21072	松原A遺跡	青葉区 上愛子字上遠野原	散布地	縄文

表 3.1.5-7(2) 埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代
51	21073	下遠野原遺跡	青葉区 上愛子字下遠野原	散布地	奈良・平安
52	21099	館山城跡	青葉区 新川字中屋敷	城館	中世・近世
53	21100	平賀館跡	青葉区 作並字宿上ノ台	城館	中世
54	21103	原館跡	青葉区 芋沢字原田下	城館	中世
55	21104	寺下館跡	青葉区 芋沢字寺下	城館	中世
56	21105	荒神館跡	青葉区 芋沢字荒神	城館	中世
57	21106	成館跡	青葉区 芋沢字荒屋敷西	城館	中世
58	21107	作並宿御番所跡	青葉区 作並字宿	番所	近世
59	21109	宇那弥神社跡	青葉区 芋沢字明神	神社	近世
60	21113	道半南遺跡	青葉区 上愛子字白沢	散布地	縄文・奈良・平安
61	21114	白沢遺跡	青葉区 上愛子字白沢	散布地	奈良・平安
62	21116	柿崎橋遺跡	青葉区 芋沢字上遠野原	散布地	縄文
63	21117	柿崎遺跡	青葉区 芋沢字柿崎下	散布地	縄文
64	21118	二尺木遺跡	青葉区 芋沢字二尺木	散布地	縄文・奈良・平安
65	21119	青野木D遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文
66	21120	青野木E遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文中・後
67	21121	青野木F遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文
68	21122	青野木G遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文中
69	21123	畑前C遺跡	青葉区 芋沢字畑前	散布地	縄文・平安
70	21124	畑前D遺跡	青葉区 芋沢字畑前	散布地	縄文前・中
71	21125	大手門B遺跡	青葉区 大倉字大手門	散布地	縄文中
72	21126	川崎遺跡	青葉区 作並字川崎	散布地	縄文中
73	21127	鎌倉山遺跡	青葉区 作並字鎌倉下原	散布地	縄文前
74	21128	原田遺跡	青葉区 新川字原田	散布地	縄文
75	21131	青野木H遺跡	青葉区 芋沢字青野木	散布地	縄文中
76	21132	蒲沢山遺跡	青葉区 芋沢字蒲沢山	集落	縄文早・前・中・弥生
77	21135	堰ノ沢遺跡	青葉区 大倉字堰の沢	散布地	縄文中
78	21142	町C遺跡	青葉区 熊ヶ根字町	散布地	縄文
79	21143	大手門C遺跡	青葉区 大倉字根地木	散布地	縄文
80	21144	北原街道B遺跡	青葉区 上愛子字北原道上	散布地	縄文前・中
81	21145	相の沢遺跡	青葉区 作並字相の沢	散布地	縄文前
82	16001	菅刈山遺跡	太白区 秋保町長袋字菅刈山	散布地	縄文中・晩
83	16002	折葉遺跡	青葉区 上愛子長袋字折葉	散布地	縄文
84	16003	マンゴク山遺跡	太白区 秋保町馬場字滝原	散布地	縄文中・古墳後
85	16004	五輪原遺跡	太白区 秋保町馬場字竹林	散布地	縄文晩・弥生
86	16006	水上南遺跡	太白区 秋保町長袋字水上南	散布地	縄文・古代
87	16007	原遺跡	太白区 秋保町長袋字原	散布地	縄文中～晩
88	16012	山田遺跡	太白区 秋保町境野字山田	散布地	縄文
89	16016	大原遺跡	太白区 秋保町長袋字大原	散布地	縄文晩
90	16017	上ノ原遺跡	太白区 秋保町長袋字上ノ原	散布地	縄文中・古代
91	16018	滝ノ原遺跡	太白区 秋保町馬場字滝原	散布地	縄文中～晩
92	16019	森安遺跡	太白区 秋保町馬場字大楳	散布地	縄文・奈良・平安
93	16020	深野遺跡	太白区 秋保町馬場字深野	散布地	縄文後・晩
94	16021	辺田圃遺跡	太白区 秋保町馬場字辺田	散布地	縄文・奈良・平安
95	16022	土蔵田遺跡	太白区 秋保町馬場字土蔵	散布地	縄文・奈良・平安
96	16023	下ノ久保遺跡	太白区 秋保町馬場字下久保	散布地	縄文
97	16024	賀沢遺跡	太白区 秋保町長袋字賀沢	散布地	縄文・奈良・平安
98	16025	清水久保遺跡	太白区 秋保町長袋字清水久保	散布地	縄文
99	16026	青木遺跡	太白区 秋保町長袋字青木	散布地	縄文
100	16027	町上原遺跡	太白区 秋保町長袋字町上原	散布地	縄文

表 3.1.5-7(3) 埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代
101	16028	町南裏遺跡	太白区 秋保町長袋字町南裏	散布地	縄文・奈良・平安
102	16029	並木遺跡	太白区 秋保町長袋字中原ほか	散布地	縄文後・晩
103	16030	竹ノ内遺跡	太白区 秋保町長袋字竹ノ内	散布地	縄文・奈良・平安
104	16031	竹ノ内東遺跡	太白区 秋保町長袋字竹ノ内東	散布地	縄文
105	16032	中原遺跡	太白区 秋保町境野字中原	散布地	縄文前・中・古代
106	16033	野尻遺跡	太白区 秋保町境野字野尻	散布地	縄文後・奈良・平安
107	16037	上館跡	太白区 秋保町馬場字北山	城館	中世
108	16038	豊後館跡	太白区 秋保町馬場字町南	城館	中世
109	16039	向山遺跡	太白区 秋保町長袋字上ノ原	散布地	縄文
110	16040	新庄館跡	太白区 秋保町長袋字台山	城館	中世
111	16041	阿弥陀遺跡	太白区 秋保町長袋字原	散布地	縄文
112	16042	楯山城跡	太白区 秋保町長袋字館山	城館	中世
113	16043	長楯城跡	太白区 秋保町長袋字館	城館	中世・近世
114	16044	境野城跡	太白区 秋保町境野字漆方ほか	城館	中世
115	16051	石ヶ森館跡	太白区 秋保町馬場字石ヶ森	城館	中世
116	16053	賀沢板碑群	太白区 秋保町長袋字賀沢	板碑群	中世
117	16054	清水久保板碑	太白区 秋保町長袋字清水久保	板碑	中世
118	16056	大原一里塚	太白区 秋保町長袋字大原	一里塚	近世
119	16057	滝ノ原B遺跡	太白区 秋保町馬場字滝原	散布地	縄文中・平安
120	16058	国久五輪原宝篋印塔	太白区 秋保町長袋字国久	宝篋印塔	中世
121	16059	野尻番所跡	太白区 秋保町馬場字野尻町北	番所	近世
122	16060	小屋建山遺跡	太白区 秋保町馬場小屋建山	城館	近世
123	19002	花輪山遺跡	泉区 根白石字花輪山	散布地	縄文
124	19003	泉ヶ岳遺跡	泉区 福岡字岳山	散布地	縄文
125	19004	白石城跡	泉区 根白石字館下	城館	中世
126	19006	成田山館遺跡	泉区 住吉台西三・四丁目	散布地・城館	古代・中世
127	19011	山下遺跡	泉区 朴沢字山下	散布地	縄文前
128	19017	館陰遺跡	泉区 根白石字館陰	散布地	縄文中
129	19021	杭城館跡	泉区 西田中字杭城山	城館	中世
130	19023	朴沢新城跡	泉区 朴沢字要害	城館	中・近世
131	19024	下蒜遺跡	泉区 福岡字下蒜	散布地	縄文中～晩
132	19025	福岡館跡	泉区 福岡字城ノ内	城館	中世
133	19027	西上野原遺跡	泉区 福岡字西上野原	散布地	縄文早・前
134	19029	青笹山遺跡	泉区 根白石字青笹山	散布地	旧石器・縄文
135	19030	泥畑遺跡	泉区 福岡字泥畑	散布地	縄文
136	19031	畑中遺跡	泉区 朴沢字畑中・畑中前	散布地	縄文中・後
137	19034	鳥居原遺跡	泉区 朴沢字鳥居原	散布地	縄文
138	19035	西脇西遺跡	泉区 朴沢字西脇西	散布地	縄文
139	19036	高野原A遺跡	泉区 朴沢字高野原	散布地	縄文
140	19037	高野原B遺跡	泉区 朴沢字高野原	散布地	縄文
141	19038	新田遺跡	泉区 朴沢字新田	散布地	縄文
142	19039	西小屋遺跡	泉区 朴沢字西小屋	散布地	縄文
143	19040	南遺跡	泉区 朴沢字南	散布地	縄文
144	19041	壇の原遺跡	泉区 朴沢字壇の原	散布地	縄文
145	19042	中在家遺跡	泉区 朴沢字中在家	散布地	縄文
146	19043	亀ノ子小塚	泉区 朴沢字壇の原	塚	中世・近世
147	19044	壇の原小塚	泉区 朴沢字壇の原	塚	中世・近世
148	19045	芳の平B遺跡	泉区 福岡字岳山	散布地	縄文中
149	19046	上鳥居原遺跡	泉区 朴沢字上鳥居原	集落	縄文中
150	19047	刑部塚	泉区 福岡字中在家	塚	中世

表 3.1.5-7(4) 埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代
151	19059	芳の平A遺跡	泉区 福岡字芳の平	散布地	縄文
152	19065	堰添A遺跡	泉区 福岡字堰添	散布地	縄文
153	19070	原遺跡	泉区 朴沢字原	散布地	縄文
154	19072	堰添B遺跡	泉区 福岡字堰添	散布地	縄文
155	19073	柏坊遺跡	泉区 福岡字柏坊	散布地	縄文
156	19075	慶得庵の碑	泉区 福岡字城ノ内裏	板碑	中世
157	19076	弘安の碑	泉区 根白石字君ヶ代	板碑	鎌倉
158	19080	鷺倉神社板碑(小山板A碑群)	泉区 福岡字小山	板碑	中世
159	19081	東泉板碑群	泉区 福岡字東泉	板碑群	中世
160	19082	柿屋敷板碑	泉区 西田中字柿屋敷	板碑	中世
161	19083	新坂下板碑群	泉区 根白石字新坂下	板碑群	中世
162	19084	館下板碑群	泉区 根白石字館下	板碑群	中世
163	19089	西上野原B遺跡	泉区 福岡字西上野原	散布地	縄文早・前
164	19090	松岩寺板碑(小山板碑B群)	泉区 福岡字小山	板碑群	中世
165	19091	宇佐八幡宮板碑群(館下板碑B群)	泉区 根白石字館下	板碑群	中世
166	9027	太郎川遺跡	川崎町 川内字太郎川	散布地	縄文前・中
167	9032	栃原A遺跡	川崎町 本砂金字栃原	散布地	縄文早・中
168	9033	栃原B遺跡	川崎町 本砂金字栃原	散布地	縄文早・中
169	9045	原遺跡	川崎町 本砂金字原	散布地	縄文
170	9049	本砂金城跡	川崎町 本砂金字宿	城館	中世
171	9050	西館跡	川崎町 本砂金字山崎	城館	中世
172	9051	東城跡	川崎町 本砂金字野中	城館	中世
173	9052	上館跡	川崎町 本砂金字山崎	城館	中世
174	9063	野中遺跡	川崎町 本砂金字野中	散布地	縄文中?
175	9064	山崎遺跡	川崎町 本砂金字山崎	散布地	縄文中

注) No. は図3.1.5-5の図中番号に対応する。

「平成30年度(2018)版 宮城県遺跡地名表」(平成30年、宮城県)より作成



図 3.1.5-5 埋蔵文化財包蔵地位置